

平成27年度入学生用

履 修 要 項

(*syllabus*)

児童教育学科

鹿児島女子短期大学

Kagoshima Women's College

《 目 次 》

| | | |
|----------------------|-------|------------|
| 1) 学修の手引き | ----- | P1 ~ P5 |
| 2) 用語解説 | ----- | P6 ~ P9 |
| 3) 平成27年度入学生 教育課程 | ----- | P13 ~ P16 |
| 4) シラバス [一般教養科目] | ----- | P19 ~ P37 |
| カリキュラムマップ | | |
| [専門科目] 1年次(27年度)開講科目 | | P41 ~ P89 |
| 2年次(28年度)開講科目 | | |
| 5) カリキュラム・マップ | ----- | P90 ~ P96 |
| 6) カリキュラムツリー | ----- | P97 ~ P98 |
| 7) 修得単位記入表 | ----- | P99 ~ P100 |
| 8) 索引 | ----- | P101 |

[注記]

※平成28年度(2年次)の履修科目について
一部「担当者・履修内容等」の変更があります。
なお、内容変更等があった科目は、2年次当初で差し替えを行います。

1
年
前
期

1
年
後
期

2
年
前
期

2
年
後
期

修
得
単
位
記
入
表

学 修 の 手 引

この冊子は、本学での学修の手引きとして作成したものです。

はじめに、児童教育学科の教育課程を掲載しました。これは平成27年度入学生の皆さんに対して開設される授業科目を示したものです。

つぎは、講義要項で、教育課程に示された各授業科目について、担当教員が授業の概要・授業の項目等を解説したものです。受講に際して大いに活用してください。

1. 履修計画および単位修得

大学における履修計画および単位修得は、皆さん一人ひとりの問題であり、自分自身の責任においてなされるべきものです。したがって、自ら本学を志した初心に立ち、もう一度将来の進路を見極め、その目標に沿って確実な履修計画を立てて単位を修得していくよう努めなければなりません。

履修上の疑問点については、学級指導教員(ホーム担任)の指導・助言をしっかり受け、また教務課に問い合わせるなどして、問題を残さないようにしてください。卒業の時期になって単位不足や単位の取り違いなどにより、卒業あるいは、めざす免許・資格の取得ができないといったことがおこらないよう十分注意してほしいと思います。

2. 教育課程と履修

本学における教育課程には、まず、一般教養科目の他に、コースごとに専門科目がおかれています。その中に、卒業要件としての課程のほかに、免許・資格を取得するために必要な課程が体系的に編成されています。以下、教育課程のことについて説明します。

(1) 授業科目の **区分** について

- ① 一般教養科目
- ② 専門科目
- ③ 教職科目
- ④ 司書教諭養成科目(小・幼・保コース)
- ⑤ 保育士養成科目(小・幼・保コース、幼・保コース)
- ⑥ ピアヘルパー認定試験受験資格必修科目

(2) 授業科目の **履修方法** について

大学の授業は、講義・演習・実験・実習・実技など、その形態はさまざまですが、学生の主体的、積極的参加により、教員と学生が一体となって学問に取り組む場です。そのような授業への参加によって、高度な知識・技能を修得し、あわせて学問的研究のあり方についても十分身につけるようにしてもらいたいと思います。

(3) 授業科目の **単位数** について

大学の授業科目には、それぞれ単位数が定められています。これは、授業の形態と授業時間数に応じて決められているものです。したがって、皆さんは授業科目を履修して単位を修得し、その単位数で課程の終了が認定されることとなります。そこで、開講されている授業科目の中から、所定の科目を履修し、それらの単位を修得して、卒業や免許・資格の取得に必要な要件を充足しなければなりません。

(4) 授業科目の **必修・選択** の指定について

教育課程の中で、それぞれの授業科目には、必修・選択必修・選択の指定があります。

- ① 必修科目 … 必ずその単位を修得しなければならない科目のことです。
- ② 選択必修科目 … 特定の授業科目のグループの中から決められた数の科目を選択してその単位を修得しなければならない科目のことです。
- ③ 選択科目 … 各自が自由に選択して履修し、その単位を修得する科目のことです。

(5) 授業科目の **開講学期** について

授業科目の開講学期は、教育課程表の中の開講学期単位数の欄に示されています。つまりその授業科目の単位数は、当該授業科目が開講される学期の欄に記入されています。したがって、指定された学期において、それぞれの科目を受講するように履修計画を立てなければなりません。もし、そのことを誤ると、授業科目の履修の機会を失い、2年間での卒業ができなくなることもありますので、十分に注意してください。

(6) **履修届** について

皆さんが所要の単位を修得していくためには、本学の教育課程により、各学期のはじめに受講科目を決め、教務課へ履修届を提出しなければなりません。その際に、卒業要件が充足できるか、希望する免許・資格取得のために必要な単位数が充足できるかなど確実におさえておかなければなりません。

3. 卒業要件や免許・資格に必要な単位数

(1) 卒業要件

本学に2年以上在学し、本学所定の教育課程により、次に示す単位の合計が、各コースともに **62単位以上を修得した者**を卒業と認めることになっています。

卒業に必要な各専攻の最低修得単位数

| 学 科 | 一般教養科目 | | | 専 門 科 目 | | | 計 |
|--------|--------|------|-----|----------|----------|----|----|
| | 必修 | 選択必修 | 選 択 | 教科に関する科目 | 教職等に関する科 | 必修 | |
| 児童教育学科 | 4 | 4 | 8 | 4 | 29 | 13 | 62 |

卒業要件として必要な最低修得単位数の修得方法

ア. 一般教養科目の中から、16単位以上を修得すること。

- ① 必修科目 … 「WE LOVE 鹿児島！」の2単位、「キャリアガイダンス」の2単位は、全員修得すること。
- ② 選択必修科目 … 「英語演習・ドイツ語演習・中国語演習・韓国語演習」のいずれか一つを選択し、同じ科目のⅠ・Ⅱを合わせて4単位を修得すること。
- ③ 選択科目 … 上記以外の一般教養科目の中から、8単位以上を修得すること。

イ. 専門科目の中から、46単位以上を修得すること。

なお、「免許・資格関連科目」(別表第1の2)は、「専門科目」に含まれるもの(○印のあるもの)を除き、**卒業に必要な単位に含めることができません**ので注意が必要です。

(2) 免許または資格

児童教育学科において、取得できる教員免許状または資格は次のとおりです。

| 学 科 | 取得できる免許状・資格 | コース | |
|--------|-------------|----------|--------|
| | | 小・幼・保コース | 幼・保コース |
| 児童教育学科 | 小学校教諭二種免許状 | ○ | |
| | 幼稚園教諭二種免許状 | ○ | ○ |
| | 保育士証 | ○ | ○ |
| | 司書教諭資格 | ○ | |
| | ピアヘルパー受験資格 | ○ | ○ |

4. COC関連科目及び学内他学科・他専攻開放科目

COC科目の定義

1. 地域密着型短大としての本学の個性をアピールする、本学独自の地域志向科目である。
2. 地域について学び、地域課題に取り組む意欲を持ち、地域活性化の担い手として活躍できる人材を育てることを目的とする科目である。
3. 文部科学省の大学改革実効プランに挙げられた「地(知)の拠点(Center of Community)としての機能強化の一環である。自治体を中心に地域社会と連携し、地域を志向した教育・研究・社会貢献を促進する「地域のための大学」として全学的に取り組むことを求められている教育改革の1つに位置付けられる科目である。

COC関連科目[児童教育学科]

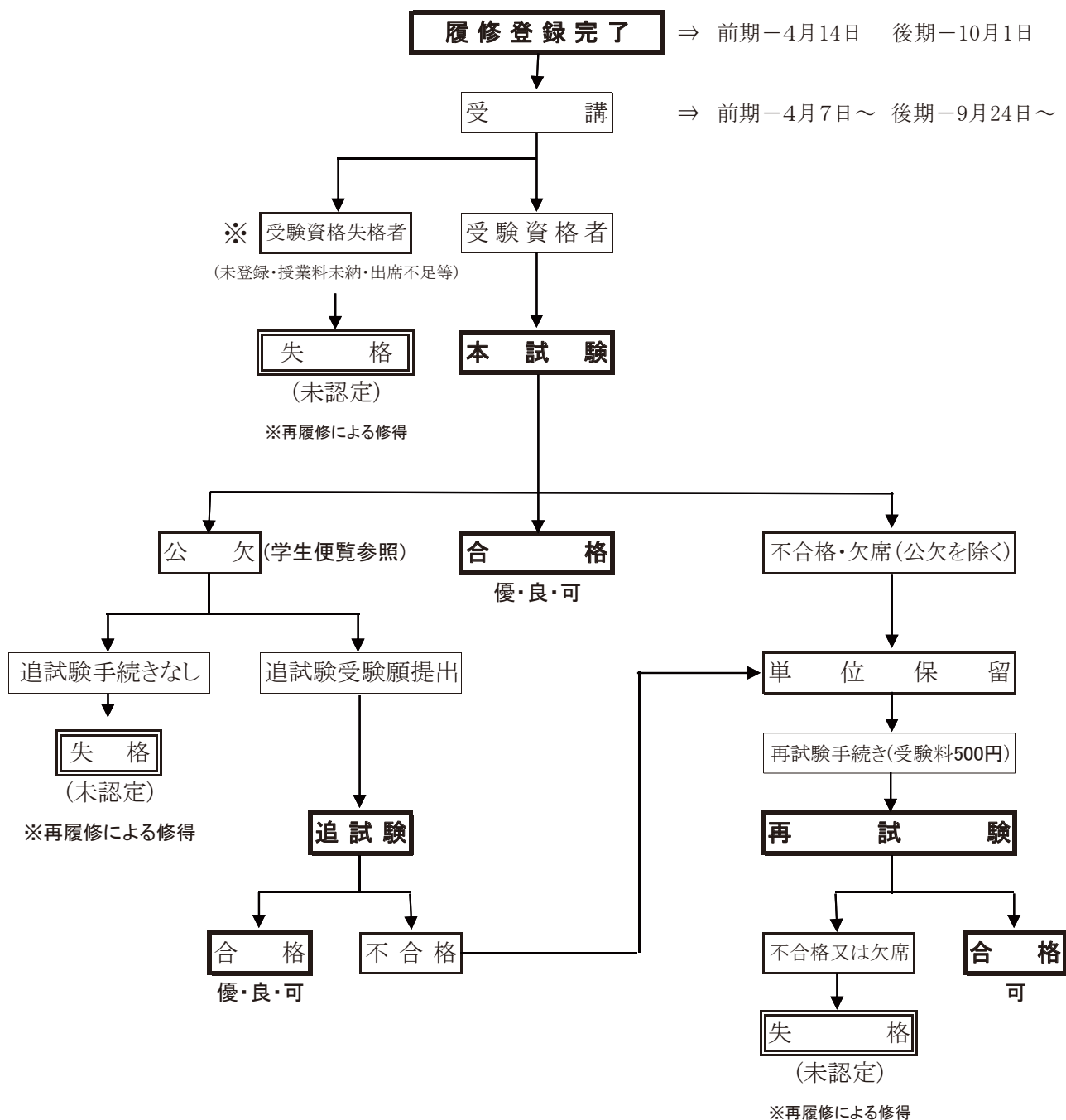
| 授業科目 | 授業形態 | 履修方法 | 開講学期／単位数 | | | | 備考 |
|--------------|------|---------|----------|----|----|----|----|
| | | | 1前 | 1後 | 2前 | 2後 | |
| WE LOVE 鹿児島! | 演習 | 必修 | | | | 2 | |
| キャリアガイダンス | 演習 | 必修(2単位) | 1 | | 1 | | |
| 生活 | 講義 | 選択(2単位) | | | 2 | 2 | |
| 社会 | 講義 | 選択 | | | | 2 | |
| 体育Ⅱ | 演習 | 選択 | | 1 | | | |
| 社会福祉 | 講義 | 必修 | 2 | | | | |
| 保育・教職実践演習 | 演習 | 選択 | | | | 2 | |
| 教職実践演習(幼・小) | 演習 | 選択 | | | | 2 | |
| 児童家庭福祉 | 講義 | 選択 | | 2 | | | |
| 社会的養護内容 | 演習 | 選択 | | | 1 | | |
| 保育相談支援 | 演習 | 選択 | | | | 1 | |

学内他学科・他専攻開放科目

- (1) 児童教育学科…次の科目以外の「専門科目(教職に関する科目)」を開放する
 - ①教育実習(実習指導等も含む)
 - ②演習・実習科目の一部
 - ③原則として非常勤講師担当科目
- (2) 生活科学科……次の科目以外は開放する。
 - ①卒業必修科目(但し、講義科目は開放する)
 - ②実験・実習・演習科目
 - ③非常勤講師担当科目
- (3) 教養学科……原則として、卒業必修科目及び司書養成科目を除く、本学専任教員担当の講義科目をすべて開放する。

※「くらしとお茶」全学科対象。この科目の単位を修得すると日本茶アドバイザー資格が得られる。

「履修登録」から「単位認定」までの流れ



I. 「本試験」の成績発表について

①本試験の成績発表は、試験終了後「成績発表用学生番号」によって
 掲示します。

②「成績発表用学生番号」は、試験開始前に、配布します。

II. 「追試験」・「再試験」の実施日程等ならびに成績発表について

①本試験同様、「成績発表用学生番号」によって掲示します。

※ 「成績発表学生番号」は、学籍番号とは異なり、学年によって変わります。

用語解説

これからの皆さんの学習に関連するさまざまなことばの意味・内容を説明します。よく読んで今後活かして行ってください。

1. 3つのポリシー

本学の建学の精神や教育理念、教育目標をふまえて、どのような学生を育成し、目標達成を目指すか等を3つのポリシーとしてまとめています。

①ディプロマ・ポリシー [学位授与の方針]：卒業までにどのような能力の習得を目指すのか、達成すべき目標を設定したものです。本学ではこのポリシーに示されている諸能力を「学習成果」と規定しており、後で出てくる(4.)「カリキュラム・マップ」に記載の、科目ごとの具体的目標を達成することによって学習成果が得られたものと考えます。

《一般教養のディプロマ・ポリシー》

- (1) 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。
- (2) 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。
- (3) 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。
- (4) 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。

[児童教育学科のポリシー]

- (1) 子どもに対する共感・受容や人権への配慮など、愛情をもって子どもにかかわるために必要な力を備える。(子どもにかかわる力)
- (2) 小学校教育・幼児教育・保育に必要な専門的な知識と技能を習得するとともに、それらを活用・実践し問題を解決する力を身に付ける。(専門的な知識・技能)
- (3) 将来にわたって子どもや社会及び教育・保育現場の実態を踏まえながら理想の教育・保育を目指し、そのために探究し続け向上しようとする態度を養う。(探究・向上心)
- (4) 確固とした倫理観・責任感をもって職務に当たり、教育・保育を通じて社会に貢献しようとする意識を高める。(社会貢献)
- (5) 協働的な活動をとおして、思考力・判断力・表現力やコミュニケーション能力・人間関係調整能力を高める。(協働性)
- (6) 心身ともに健康で、教育者・保育者かつ社会人としてふさわしい人格を形成する。(専門的職業人及び社会人としての人格形成)

②カリキュラム・ポリシー [教育課程編成の方針]：ディプロマ・ポリシーで定めた達成目標の実質化をはかるために、どのような方針で教育課程を編成しているかをまとめたものです。

[児童教育学科のポリシー]

子どもの教育・保育に必要な原理及び理念を学ぶとともに、実践に必要な知識や技能を習得できるよう支援することで、高い専門性と教育・保育に対する情熱や使命感をもち、子どもを育てることを通して社会に貢献できる小学校教諭・幼稚園教諭・保育士を養成するための科目を設定しています。

広い視野から多面的・多角的に教育・保育の在り方を考察できるよう、様々な内容の科目を設定しています。例えば、「教育心理学」「発達心理学」等の心理学系の科目が複数設定されていますが、それぞれ担当者が異なり、学生に多角的な視点を与えられるよう配慮されています。また、幼稚園教諭免許状・保育士証取得希望者が履修する「保育内容」についても、幼児教育・保育の「遊びを通して子どもが総合的に成長する」という原則に基づき、音楽・美術・体育・心理・環境等の専門性を有する教員が連携しながら、広い視野を持った教育者・保育者を育成できるカリキュラムを編成しています。小学校教諭免許状取得希望者に対しては各教科教育法を全て必修とするなど、小学校教育の総合性を踏まえたカリキュラムを編成しています。

「教育実習」等を通じて情熱や使命感、社会人としての倫理観等を養うことも含め、このようなカリキュラムを通じて、知・徳・体のバランスのとれた総合的・全人的な教育者・保育者の育成に努めています。

③アドミッション・ポリシー [入学者受け入れの方針]：ディプロマ・ポリシーを実現するために、本学がどのような能力や意欲、適性等を有する学生を求めているかをまとめたものです。

[児童教育学科のポリシー]

- (1) 小学校教諭・幼稚園教諭・保育士としての将来の目的意識をはっきりと持っている人
- (2) 基礎学力を有し、子どもの成長・発達に関わる専門的な知識・技能を身につけようと努力する人
- (3) 明朗活発で、協調性に富み、子どもの発見・驚き・不思議に共感できる魅力ある教師・保育士をめざし、教育および福祉に貢献しようとする人

2. 教育課程 (カリキュラム)

卒業までの2年間で学べるすべての科目を一覧にしたものです。どのような順序で、どんな科目を学ぶのか、資格取得に必要な科目はどれか等が記されています。

3. シラバス

各科目の具体的な内容を説明したものです。概要、各回の内容、到達目標等が詳しく書かれていますので、受講中も参照して学習に役立ててください。

4. カリキュラム・マップ

履修することにより何ができるようになるかという到達目標を科目ごとに明らかにし、その到達目標が、「ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）」のどの項目を達成することにつながるかを一覧表にしたものです。学習の成果を確認するときにも用います。

5. カリキュラムツリー（履修系統図）

各科目を「ディプロマ・ポリシー」のどの項目に合致するかで分類し、開講学期ごとにまとめたものです。在学中見通しを持って学習できるように科目の順序性や関係性を示してあります。

6. CAP 制度

各科目の単位を修得するには、単に講義に出席するだけでなく、その前後に自主的な学習が必要です。その学習時間を確保するという観点から、1年間に履修科目として登録することができる単位の上限を設ける制度のことで、児童教育学科では76単位と定められています。

7. GPA（グレード・ポイント・アベレージ）

100点満点以外の成績評価のひとつとして使用します。皆さんの力をより厳密に、また多角的に評価するためのものです。算出方法は以下の通りです。

- (1) まず、100点満点法の素点を5点満点になるように変換してGPを求める。

$$GP = (100 \text{ 点満点の素点成績} - 50) \div 10$$

*素点が60点未満の場合は、GPは一律0とする

- (2) 次に、授業時間数に重きを置くこととし、GPに、15時間の授業には「2」を、7.5時間の授業には「1」を、授業数の比重として乗じる（掛ける）。

- (3) GPAは、(2)によって得られた各科目の数の総和を、授業数の比重の総和で除す（割る）ことで得られる。

$$GPA = (\text{履修科目の GP} \times \text{授業数の比重}) \text{ の総和} / \text{履修科目の時間数比重の総和}$$

例： 科目A（15時間）：70点
科目B（15時間）：65点
科目C（7.5時間）：90点 の場合

それぞれのGPは、

$$\text{科目A} : (70 - 50) \div 10 = 2$$

$$\text{科目B} : (65 - 50) \div 10 = 1.5$$

$$\text{科目C} : (90 - 50) \div 10 = 4$$

$$GPA \text{ は、} (2 \times 2 + 1.5 \times 2 + 4 \times 1) / (2 + 2 + 1) = 11 / 5 = 2.2 \text{ となる。}$$

| |
|--|
| 注*15時間（15週・15回） 7.5時間（7.5週・7.5回） を意味する |
|--|

[注意] 不可 (60 点未満) ・失格となった科目は、G Pを「0」として計算する。

8. 授業時間以外の学習

履修科目の内容を十分に理解してその定着を目指すには、講義（演習・実技・実習も含む。）を単に受講するだけでは不十分です。講義の各回の予習・復習は言うまでもなく、その科目の内容の把握およびその発展的理解のための自主的学習が必要となります。シラバスに記された事項を参考に、自ら課題を設けて取り組むことによって、科目の確実な理解と定着をはかることが求められています。

9. オフィスアワー

授業科目等に関する質問や相談に教員が応じるための時間です。基本的にこの時間帯であれば予約なしに研究室を訪れることができます。シラバスに明記してあるので参照してください。非常勤の先生方の場合は、基本的に「授業前後」の時間となっています。

一般教養科目

日本語表現の基礎

担当者： 瀬戸口 修

●科目の概要

日本語の表現（書くこと・話すこと）について、基礎的な表現力（就中、書く力）を身につけることをめざす。それも、自ら進んで、興味・関心をもって、話し・書けるようになることをめざす。

●授業計画

- 1 自己紹介をする（話す・書く）
- 2 原稿用紙のつかい方を学ぶ
- 3 文字について（字形・楷書・鉛筆書き・50音図）
- 4 表記法について（文体＝デアル・ダ・タ体、ひらがな書き）
- 5 課題作文の提示・・・① レヴェルI
- 6 一文の短さ・簡潔さの模範→奨励→実践へ
- 7 話しことばと書きことばの差異の具体的理解（演練）
- 8 課題作文の提示・・・② レヴェルII
- 9 文のつづけ方（接続のしかた）の理解→演練→実践
- 10 課題作文のチェックとフィードバック
- 11 課題作文の提示・・・③ レヴェルIII
- 12 アウトライン・段落の設定と工夫（文章構成）
- 13 一語作文・一文作文の理解・演練→実践
- 14 文章の推敲・チェック→演練
- 15 課題作文の提示・・・④（最終作文） レヴェルIV
- 16

●到達目標

1. 原稿用紙のつかい方を身につける
2. 文字・表記・用語に習熟する
3. 文章表現力を身につける

●授業時間以外の学習

・新聞やテレビなどで、情報を収集し、自分の意見や考えなどを表明・開陳する場を多くもつ

●テキスト・参考書等

米田・藏中・山上：『大学生のための日本語表現実践ノート』
風間書房

●成績評価

各種レポート（20%）と最終作文（80%）

●オフィスアワー

月曜日 7・8限（研究室）

●備考

倫理学

担当者： 村若 修

●科目の概要

「倫理学」とは、人の生き方、人と人との関係のあり方、社会のあり方について、善／悪や正／不正という視点で考えていく学問です。「道徳」や「倫理」はすでに皆さんに身につけているものですが、倫理学はそれについて反省し、吟味する学問だと考えてください。本年度は、「生命倫理」と呼ばれる領域の諸問題、主として医療にまつわる諸問題について考えていきます。

●授業計画

- 1 倫理学と「生命倫理」
- 2 生命倫理の成立（1）患者の権利
- 3 生命倫理の成立（2）インフォームド・コンセントの歴史
- 4 生命倫理の成立（3）生命倫理の基本原則
- 5 尊厳死（1）
- 6 尊厳死（2）
- 7 安楽死（1）
- 8 安楽死（2）
- 9 人工妊娠中絶
- 10 不妊治療技術の利用（1）
- 11 不妊治療技術の利用（2）
- 12 出生前診断（1）
- 13 出生前診断（2）
- 14 脳死と臓器移植（1）
- 15 脳死と臓器移植（2）
- 16

●到達目標

1. 倫理的な思考を身につける
2. 「生命倫理学」の基礎を理解する
3. 身近な生命倫理の問題を知り、それについて自分の考えを述べることができる。

●授業時間以外の学習

・テキストの該当箇所を読んでおく

●テキスト・参考書等

テキスト：中山愈編『現代世界の思想的課題』弘文堂
使用視聴覚機器：VHSビデオデッキ、DVDプレーヤー

●成績評価

定期試験の成績（80%） ※筆記試験は60分で実施
提出物（感想文等）（20%）

●オフィスアワー

火曜日 13:00～14:30（研究室）

●備考

文学

担当者： 高島 まり子

●科目の概要

文学作品の映像を中心にアメリカ文学の鑑賞と解説を通して、米国の社会・歴史・文化を土台とした米国人の価値観への理解を深める。同時に、日本との比較からグローバルな視点を養い、それを踏まえて自分自身の生き方について思索する。

●授業計画

- 1 『るつぼ』の資料配布・解説・鑑賞・振り返りシート作成
- 2 同
- 3 同
- 4 『真実の瞬間』資料配布・解説・鑑賞・振り返りシート作成
- 5 『ラスト・オブ・モセカ』資料配布・解説・鑑賞・振り返りシート作成
- 6 同
- 7 同
- 8 『若草物語』資料配布・解説・鑑賞・振り返りシート作成
- 9 同
- 10 同
- 11 黒人差別と公民権運動の資料提示・解説・作品鑑賞
- 12 同、意見交換・振り返りシート作成
- 13 『カー・パブル』資料配布・解説・鑑賞
- 14 同、意見交換・振り返りシート作成
- 15 同、意見交換・振り返りシート作成
- 16

●到達目標

1. 映像を通してアメリカ文学に親しむ
2. 社会・歴史・文化を土台とした米国人の価値観への理解を深める
3. 日米比較によりグローバルな視点を養い、自分の生き方を考える

●授業時間以外の学習

- ・作品の読書の予習・復習、レポート作成

●テキスト・参考書等

毎回、テキストとして印刷資料を配布する
参考書：亀井俊介『アメリカ文学史講義』南雲堂
八尋春海編著『映画で学ぶアメリカ文化』スクリーンプレイ出版
八尋春海編著『映画で楽しむアメリカの歴史』金星堂
長坂寿久『映画で読むアメリカ』（朝日文庫）朝日新聞社

●成績評価

毎回の振り返りシート（40%）・レポート等（60%）の総合評価

●オフィスアワー

金曜日 16:30~17:30（研究室）

●備考

文学

担当者： 伊佐山 潤子

●科目の概要

日本の文学史に燦然と輝く「源氏物語」について学びます。プレイボーイで有名な主人公の光源氏、実はかなり屈折した複雑な人間で、単なる遊び人ではありません。また、彼は物語の途中で消えてしまいますが、そのことを知らない人も多いようです。長大な物語のあらすじをたどりながら、多くの登場人物について見て行きます。あなたに似た人もきっといることでしょう。古文は読めなくても大丈夫です。現代語訳や関連のTV映像・映画などの助けを得て、1000年前の物語の世界に出かけ、平安時代人の気分を味わってみましょう。

●授業計画

- 1 「源氏物語」と紫式部の時代について学ぶ
- 2 第一部、光源氏の一生を概観する
- 3 紫の人のことを読む
- 4 「中の品」の女性たちを考える
- 5 葵祭と車争いについて学ぶ
- 6 物の怪と当時の人々の暮らしを知る
- 7 もう一人の紫の人を読む
- 8 須磨のことを学ぶ
- 9 さまざまな登場人物について考える
- 10 DVD鑑賞（1）原作との違いを考える
- 11 DVD鑑賞（2）映画の特性を確認する
- 12 第二部、「若菜」巻を読む
- 13 光源氏の一生を振り返る
- 14 第三部、宇治十帖と浮舟について学ぶ
- 15 「源氏物語」の世界を考える
- 16

●到達目標

1. 物語の大略を理解し、説明することができる
2. 登場人物に自身を重ねながら物語を読むことができる
3. 平安時代の生活に関する知識を身に付ける

●授業時間以外の学習

- ・登場人物の名前とそれぞれの関係を覚えること
- ・物語のあらすじ・流れを把握するよう努めること
- ・参考書を読むこと

●テキスト・参考書等

テキスト：プリントを配布します
参考書：「ビギナーズ・クラシックス日本の古典 源氏物語」
（角川文庫 2001）
荻原規子「源氏物語紫の結び 全三巻」（理論社 2013~2014）
このほかについては講義中随時紹介

●成績評価

各回の取り組み（課題や質問・感想カードの提出など）（70%）
学期末レポート（30%）で評価

●オフィスアワー

金曜日 16:25~17:00（研究室）

●備考

心理学

担当者： 園田 美保

●科目の概要

心理学の主な分野を網羅

講義形式であるが、受講者はそれぞれ自分自身の日常生活や身近な他者を想定して、内容の理解を行い、各回の内容に即したレポートで記述する。

主な目標は、より深い人間理解である。ここでの人間とは、もちろん自分自身を含むものであり、その点では自己を探る手がかりを見つける。

また同時に、身近な他者を理解する手がかりやきっかけとして、心理学の各領域や方法を学びながら、考える力も身に付けていく。

●授業計画

- 1 オリエンテーション（講義形式、授業計画、心理学導入）
- 2 心理学の歴史と多様な考え方、方法、領域
- 3 動機づけ（各種動機づけ説、動機づけを高める方法）
- 4 情動（情動の発達、情動の種類、感情と表出、気分障害）
- 5 認知（私たちが環境を知るしくみ、感覚・知覚・認知）
- 6 学習（人間の行動が作られるしくみ、条件づけ）
- 7 中間振り返り＜普段の「わたし」の行動を心理学で解説＞*
- 8 知能（構造、発達、遺伝と環境、創造性を発揮する思考）
- 9 パーソナリティ（捉え方：類型論と特性論、形成要因）
- 10 適応（ストレス、フラストレーション、防衛機制）
- 11 社会と人間1（集団とは、集団から個人への影響）
- 12 社会と人間2（少数者の影響力、リーダーシップ論）
- 13 臨床の心理学1（心理的問題、反応の症状理解）
- 14 臨床の心理学2（心理療法のアプローチ例4種）
- 15 総括・補足・全体ふり振り返り*
- 16

●到達目標

1. 人間の心理と行動との関係を理解する
2. 自己理解のために心理学の考え方を当てはめ、説明できる
3. 他者理解のために心理学の考え方を当てはめ、理解できる

●授業時間以外の学習

・各回の授業からキーワードになる言葉や概念を5語程ピックアップし、説明できる程度に理解を深める・身近な例を取り上げ、それらを上記のキーワードを使用して説明する

●テキスト・参考書等

特定のテキストは使用せず、随時資料配布する

(参考書一部例)

『心理学』武藤隆（編）有斐閣 2004

『心理学 Introduction to Psychology』浦上昌則・神谷俊次・中村和彦（編）ナカニシヤ出版 2005

●成績評価

小レポート及び受講態度65%

中間振り返りレポート10% 最終レポート25%

●オフィスアワー

水曜日 16:30~17:30（研究室）

(その他、金曜以外で事前調整した日時にも対応します)

●備考

授業計画で「*」の回にはそれまでの配布資料・レポート持参

社会学

担当者： 倉重 加代

●科目の概要

日常生活の何気ない行為や社会で起こっている出来事を題材に日常生活や社会の仕組みを解説していくことができるよう、自分の視点から離れて世の中を見ることや、想像力の大切さを学習する。そして、私たちの行動に影響している社会の意味や形式を意識し、それらがどのように形成され社会に定着するか、また、それらが多様であり変化するものであることを理解することを目指す。順序としては、まず、自分自身のことや自分と直接接する他者との関係を題材に身近な人間関係の間で繰り広げられる行為の分析をし、次第に扱う題材の範囲を広げ、社会の大きな変化と個人々の行為の関係について学習する。

●授業計画

- 1 「社会学すること」の視点を学ぶ
- 2 人々をつなぐ言葉の特徴を学ぶ
- 3 人々の行為の意味を学ぶ
- 4 自分探しについて考える
- 5 アイデンティティの確立における社会の仕組みを学ぶ
- 6 主体的に生きることと自由について考える
- 7 健康と病気の境界は？一対比されるものの境界について学ぶ
- 8 「正常—異常」の判断の背後にあるものを学ぶ
- 9 当たり前を疑問に思う——社会構築主義の視点を学ぶ
- 10 水俣病を題材に、レットルを貼ることの意味について考える
- 11 共同体(1) 家族の特徴を考える
- 12 共同体(2) 地域社会の性質とその変容について学ぶ
- 13 共同体(3) 人々の新たな関係性について学ぶ
- 14 国家と市民社会(1) 国家とは何かを学ぶ
- 15 国家と市民社会(2) 現代社会の市民のあり方を考える
- 16 筆記試験

●到達目標

1. 世の中の出来事を自分の立場から離れて見る視点を身につける
2. 自分の関心と社会の出来事を結びつける能力を身につける
3. 社会的に共有される意味や形式の相対性について理解する

●授業時間以外の学習

・日頃から新聞を読んだりテレビのニュースを見たりする
・自分が生活してきた地域社会の状況を把握しておく

●テキスト・参考書等

○テキスト

友枝俊雄ほか著『社会学のエッセンス〔新版〕』2007年 有斐閣。

○参考書

E. フロム著『自由からの逃走』東京創元社。

P. アリエス著『〈子供〉の誕生』みすず書房。ほか授業中に紹介

●成績評価

筆記試験（90%）、受講態度（10%）

●オフィスアワー

火曜日・金曜日 9・10限目（倉重研究室）

●備考

国際化と経済

担当者： 大重 康雄

●科目の概要

経済環境の複雑化とグローバル化が進み、社会人・企業人として要求される経済・金融に関する知識も高度なものが要求されるようになってきた。本科目では産業と経済・金融の基本的なしくみを学び、且つグローバル社会を理解するため国際経済の現状に触れ、日本・地域経済の課題について考える。

●授業計画

- 1 「経済」とは何か・・・経済学的考え方について
- 2 GDPで考える物価と経済成長
- 3 金融のしくみと経済
- 4 貿易取引と決済のしくみ
- 5 国際通貨制度の現状と問題点
- 6 企業のグローバル化（多国籍化の現状）
- 7 地域経済統合（FTA/EPA）の歩み
- 8 グローバル・イシュー I（開発と貧困）
- 9 グローバル・イシュー II（環境・エネルギー・食料）
- 10 各国・地域事情－グローバル化と日本
- 11 各国・地域事情－アジア・ASEAN
- 12 各国・地域事情－アメリカ
- 13 各国・地域事情－ヨーロッパ・ロシア
- 14 鹿児島県経済とグローバル化
- 15 講義の総括
- 16 筆記試験

●到達目標

1. 基本的な日本経済・国際経済の仕組みが理解できる
2. グローバル化の進む地域経済で何が今問題でどう自分は行動すべきかを主体的に判断できる

●授業時間以外の学習

・各授業のテーマの中から自分の最も関心のある経済分野での事柄についてサマリーを作成・そのサマリーに基づきグループで討論し、問題点をまとめ次回授業で質問する

●テキスト・参考書等

テキスト：「私たちの国際経済－見つけよう、考えよう、世界のこと」有斐閣ブックス
参考文献：「グローバルエコノミー」有斐閣アルマ
講師作成レジュメ（毎回配布）

●成績評価

・学期末に実施する筆記試験（90分で実施）の成績及び、授業への取組姿勢によって評価する・授業取組姿勢10%・定期試験90%

●オフィスアワー

16：30～17：30（大重研究室）・要事前連絡

●備考

単位互換科目

歴史学

担当者： 松崎 康弘

●科目の概要

いわゆる「自分たちからは遠い存在の出来事の暗記」ではない、本来の歴史学の在り方を具体的な事例に基づいて学ぶ。民俗学や地理学などとの連携を視野に、柔軟で多角的な歴史の見方を学ぶ。

また、現在そして未来の人の生き方や社会の在り方を考えるために歴史研究がどのように生かせるかについても学ぶ。

「自分たちの身近に展開した歴史」という視点から、具体的には「地名」「妖怪」「人生儀礼」などのテーマを取り上げる。

●授業計画

- 1 地名研究と歴史①（地名研究の動向）
- 2 地名研究と歴史②（鹿児島における地名と歴史）
- 3 地名研究と歴史③（沖縄等における地名と歴史）
- 4 歌から読み取る地域の歴史
- 5 TV番組から読み取る地域の歴史
- 6 妖怪研究と歴史①（研究の視点）
- 7 妖怪研究と歴史②（映画から読み取る歴史）
- 8 妖怪研究と歴史③（妖怪から読み取る社会史）
- 9 妖怪研究と歴史④（妖怪研究とこれからの社会）
- 10 生活研究と歴史①（死をめぐる文化①）
- 11 生活研究と歴史②（死をめぐる文化②）
- 12 生活研究と歴史③（恋愛・結婚をめぐる文化）
- 13 生活研究と歴史④（伝統芸能）
- 14 生活研究と歴史⑤（食の歴史）
- 15 総括（自らの生活と結びつく歴史）
- 16 定期試験

●到達目標

1. 民俗学等との連携も視野に、歴史学の方法を理解する
2. 過去の人々の生き方から自分の生き方を見つめなおす
3. 歴史学の成果を参照しながら、社会の在り方を考える

●授業時間以外の学習

授業で紹介された事例をもとに、「自分の地域にはどのようなものがあるか」を探ってもらう（筆記試験に反映）

●テキスト・参考書等

テキスト：使用しない
参考書：谷川彰英『地名の魅力』（白水社）、小松和彦『妖怪文化入門』（せりか書房）ほか

●成績評価

筆記試験100%

●オフィスアワー

火曜 14：30～16：20（研究室：西411）

●備考

インターンシップ

担当者： 大重 康雄

●科目の概要

本科目の目的は、家庭と学校で教育を受けてきた学生に、今後参画して行く「社会」を体験する機会を与え、これまで得てきた知識やスキルが社会といかなる関連をもっているかを、地元企業での職業体験を通して考える機会とする。

・事前研修として、研修先企業団体研究、研修内容説明、職業意識・ビジネスマナー研修等の指導が、本学教員と2～3名の学外講師陣によって行われる。学内指導・講義を終えた後、主に夏季休業中に1～2週間インターンシップを体験。事後、報告書等に基づきインターンシップ発表会を開催し、他の職業体験での情報に触れる。

●授業計画

- 1 ガイダンスーインターンシップとは何か
- 2 研修先地元企業概要・エントリーシート登録方法説明
- 3 エントリーシート・自己PRの書き方
- 4 一次マッチング説明・仕事の基本的心得
- 5 県内雇用環境の説明・働く意義
- 6 研修企業の研修内容説明
- 7 来客対応の基本・二次マッチング参加登録
- 8 職場の人間関係・二次マッチング調整
- 9 職場のマナー研修（学内講師） 外
- 10 企業のしくみとコンプライアンス
- 11 インターンシップ地元企業の業界研究
- 12 外部講師講演（県内企業の現状と課題等） 外
- 13 お礼状の書き方（学内講師） 外
- 14 インターンシップによる職業体験（1～2週間程度）
- 15 研修日誌・研修報告書等作成・提出
- 16 インターンシップ参加報告発表会

●到達目標

1. 社会体験を短大での学習にフィードバックさせ、以後の学生生活に役立て、社会人としての自覚を持つ
2. 職業に関する興味、関心、適性がどこにあるかを自ら考えられる

●授業時間以外の学習

- ・関心ある企業について企業研究・調査を行う
- ・インターンシップ後、得られた成果を自分の進路決定に活かせるように努める

●テキスト・参考書等

参考図書：「インターンシップー職業教育の理論と実践」学文社講師作成プリント

●成績評価

研修報告書等提出状況30%、参加報告プレゼンテーション70%

●オフィスアワー

16：30～17：30（大重研究室）・要事前連絡

●備考

外：外部講師
COC 関連科目

キャリアガイダンスⅠ

担当者： 小松恵理子、他20名

●科目の概要

キャリアガイダンスⅠ・Ⅱの目的は、職業選択を通してあなたらしい生き方を見つけることです。この授業では、自分の過去をふりかえり、今を見つめ、将来を考えることで「自立した自分らしい生活設計」を作り上げられることを目的にしています。

キャリアガイダンスⅠでは、まずキャリアデザイン（自分の未来を描く）ことと、「私」を理解することから始まります。次に職業・職場の理解を深めていきます。

●授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 短大生活を充実させる
- 3 職業を考える
- 4 性教育（外部依頼）
- 5 実習指導 実習から学ぶこと
- 6 やりがいインタビュー～報告会
- 7 実習から学んだこと・就職について新たに考えたこと
- 8 1年生就職ガイダンス（就職の心構え）
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16

●到達目標

1. 自己理解を深める
2. 働くことや職業について理解を深める
3. 目指す職業について理解を深める

●授業時間以外の学習

さまざまな職業で活躍している人たちと触れ合う機会を持ち、自分の職業選択にかかわる情報を集めるために、事業所ガイダなどの機会を利用するように促す

●テキスト・参考書等

就職支援ガイド（本学作成）
キャリア形成ガイドブック（鹿児島市）

●成績評価

受講態度（30%）レポート（70%）

●オフィスアワー

担当教員ごとに異なるので、オリエンテーションで伝える

●備考

COC 関連科目

キャリアガイダンスⅡ

担当者： 小松恵理子、他20名

●科目の概要

キャリアガイダンスⅠ・Ⅱの目的は、職業選択を通してあなたらしい生き方を見つけることです。この授業では、自分の過去をふりかえり、今を見つめ、将来を考えることで「自立した自分らしい生活設計」を自ら考え、作り上げられることを目的にしています。

キャリアガイダンスⅡでは、実習体験や就職活動などを通して、職業人としての自分自身の生き方を考え、自己の人生設計を行う。

●授業計画

- 1 就職までのスケジュールを確認しよう
- 2 就職ガイダンス（就職活動を始める）
- 3 職業選択（実習の振り返り）
- 4 自分のキャリアを設計しよう
- 5 実習を振り返って、付属幼稚園で学んだこと
- 6 就職対策講座
- 7 働くための法律
- 8 離職・転職・再就職
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16

●到達目標

1. 職業選択を行う（キャリア形成）
2. 就職活動や実習を通して自己理解を深める
3. 働くための法律を知る

●授業時間以外の学習

選択した職業に就くための道筋を考え、ロールモデルを見つけるために現場に出かけることを促す。また自分の生活設計と自己の成長を考え、実行することを促す。

●テキスト・参考書等

就職支援ガイド（本学作成）
キャリア形成ガイドブック（鹿児島市）

●成績評価

受講態度（30%）レポート（70%）

●オフィスアワー

担当教員ごとに異なるので、オリエンテーションで伝える

●備考

COC 関連科目

英語演習Ⅰ

担当者： 高島 まり子

●科目の概要

高校までに学んだ英語の復習を踏まえて「聴く・話す・読む・書く」の総合力を向上させ、英語によるコミュニケーション能力の土台を築いて更なる応用につなげることを目指す。

●授業計画

- 1 Unit 1 品詞について
- 2 Unit 2 平叙文・否定文・疑問文・命令文
- 3 Unit 3 主語・目的語・第1、3、4文型
- 4 Unit 4 第2、5文型
- 5 Unit 5 前置詞
- 6 Unit 6 時制：現在・過去・未来・進行形
- 7 前半の復習
- 8 Unit 7 現在完了形
- 9 Unit 8 過去完了・未来完了形
- 10 Unit 9 接続詞・従属節
- 11 Unit10 埋め込み文
- 12 Unit11 比較級・最上級
- 13 Unit 12 能動態・受動態
- 14 後半の復習
- 15 全体の振り返り
- 16 定期試験

●到達目標

1. 基礎的文法力を固める
2. 「聴く・話す・読む・書く」力を向上させる
3. リスニングや会話練習でコミュニケーション能力を磨く

●授業時間以外の学習

・テキストの予習・復習、課題の提出

●テキスト・参考書等

Step-by-Step Basic English Grammar（朝日出版）

●成績評価

受講態度（30%）定期試験（70%）

●オフィスアワー

金曜日 16：30～17：30（研究室）

●備考

英語演習 I

担当者： 吉村 圭

●科目の概要

この授業では会話や英作文に最低限必要な英文法の理解を目標とする。また文法事項を理解した上で、リーディング、英作文と英文の聞き取りを行い、総合的な英語力の向上を目指す。その際、テキストの問題のみならず、マンガ等を用いより理解を深める。

●授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 Unit 1 be 動詞 (現在形)
- 3 Unit 2 一般動詞 (現在形)
- 4 Unit 3 be 動詞 (過去形)
- 5 Unit 4 一般動詞 (過去形、規則変化)
- 6 Unit 5 一般動詞 (過去形、不規則変化)
- 7 Unit 6 命令文、There is[are] ~、it の特別用法
- 8 Unit 7 注意すべき疑問文
- 9 Unit 8 進行形
- 10 Unit 9 未来形
- 11 Unit 10 助動詞 (1)
- 12 Unit 11 助動詞 (2)
- 13 Unit 12 名詞・冠詞 基本事項
- 14 Unit 12 名詞・冠詞 応用
- 15 総括
- 16 定期試験

●到達目標

1. 英文の基礎的なルールを理解し、簡単な英文の聞き取り、及び読解ができる

●授業時間以外の学習

・テキストに出てきた単語・表現を覚え語彙を増やす

●テキスト・参考書等

テキスト : Everyday English Grammar 南雲堂
参考書 : 『英単語ターゲット1400』等単語帳

●成績評価

定期試験・小テスト・提出物 (70%)、授業貢献度 (30%) による総合評価

●オフィスアワー

水曜日 12:55~14:25 (研究室)

●備考

英語演習 I

担当者： 霧島 S. 怜

●科目の概要

学生の皆さん、“Roma meravigliosa non era costruita durante una notte”(素晴らしいローマは一夜にしてならず)というヨーロッパの有名な諺が教示するように、誰も、一晩や「有名な先生」の指導を受けた直後、突然、大学で比較人間学の諸問題について、完璧なポーランド語で講義をした者はいません!! 外国語を学ぶ具体的な目標 (例えば、将来の仕事) や動機 (例えば、素敵な彼氏、又は何時か自分の子どもに少しでも人生の道を切り開くために、英語も大好きよ) という志は極めて効果的です。This course is designed to improve an overall understanding of read and spoken English! ... では、今日から幸せな将来を意欲的に切り開き始めましょう! 大学生らしく勉学に励もう!!

●授業計画

- 1 演習の内容、方法と成績等についての説明。ミニ演習
- 2 U20 A foreign language? 英和訳、読解、聞き取り等
- 3 同題 教官と共にコミュニケーション練習
- 4 U1 The Green Hair! 英和訳、読解、聞き取り等
- 5 同題 教官と共にコミュニケーション練習
- 6 U2 The Shoplifter! 英和訳、読解、聞き取り等
- 7 同題 教官と共にコミュニケーション練習
- 8 U4 Beauty Contest! 英和訳、読解、聞き取り等
- 9 同題 教官と共にコミュニケーション練習
- 10 U5 Who Pays? 英和訳、読解、聞き取り等
- 11 同題 教官と共にコミュニケーション練習
- 12 IAAE 10 Vacations! 読解、コミュニケーション練習等
- 13 IAAE 23 A Cup of Coffee! 読解、コミュニケーション練習等
- 14 St. Valentine's Day! 読解、コミュニケーション練習等
- 15 受講生が選択するテーマの学習 [M]
- 16 Final test!

●到達目標

1. 英文の意味の正しい理解と綺麗な朗読すること
2. 朗読文の正確な聞き取りと正しい理解すること
3. 異文化の理解

●授業時間以外の学習

・毎回の予習
・毎回の復習

●テキスト・参考書等

・Textbook : Richard R. Day 等, "Impact Issues 1", Pearson Longman. (isbn 978-962-01-9930-1)
・必要に応じて、習熟資料を配布します

●成績評価

予習 (40%) 演習参加 (40%) Test 20%

●オフィスアワー

非常勤室にて、演習の前後

●備考

ドイツ語演習Ⅰ

担当者： 武田 輝章

●科目の概要

はじめてドイツ語を学びたいという人が対象です。ゼロからのスタートですから、英語が苦手だった人も心配はいりません。英語が得意な人は、英語とドイツ語を比較することで新たな発見があることでしょう。言葉はまず音が大切です。恥ずかしがらずに大きな声で発音練習をしましょう。簡単な決まり文句は、理屈抜きでそのまま暗唱します。次に、ドイツ語の仕組みについて自分の頭で考えてみましょう。さらに、ドイツ・オーストリア・スイスなどの歴史や文化にも触れながらヨーロッパの視点から世界を見てみましょう。

●授業計画

- 1 ドイツ語の簡単なあいさつを音で覚える
- 2 身近にあるドイツ語を見つけて読んでみる
- 3 ドイツ語のアルファベットを英語と比較して覚える
- 4 ドイツ語の文字とその読み方を学び、その仕組みを考える
- 5 英語にない文字と発音を学び、それらを意識して覚える
- 6 ドイツ語の文字と発音の仕組みを、自分の力で見つける
- 7 数字1～10をドイツ語の音で覚える
- 8 動詞1：自分の名前を伝え、相手の名前を尋ねる
- 9 身の回りの物の名前をドイツ語で覚える
- 10 数字1～10をドイツ語で書き、発音の仕組みを考える
- 11 動詞 kommen の使い方について学ぶ
- 12 名詞1：不定冠詞について学び、その仕組みを考える
- 13 動詞2：出身の国や都市について受け答えができる
- 14 英語と比較して、覚える数字を増やしていく
- 15 動詞 sein の使い方について学ぶ
- 16 定期試験

●到達目標

1. 基本的なドイツ語を、大きな声で読めるようになる
2. 日常のあいさつ程度の会話が、自然にできるようになる

●授業時間以外の学習

- ・ドイツ語の文章をノートに写し、単語の意味を調べてくる
- ・ドイツ語の単語や文章を、大きな声で読む練習をしてくる

●テキスト・参考書等

- ・テキスト：田中・筒井著『みるみるドイツ語』同学社 2013年
- ・参考書：新アポロン独和辞典（同学社）・常木実著『標準ドイツ語』（郁文堂）・関口初等ドイツ語講座3巻（三修社）・大岩信太郎著『ドイツ語の最初歩』（三修社）

●成績評価

筆記試験（60%）レポートと小テスト（20%）受講態度（20%）

●オフィスアワー

木曜日 12：30～13：30（研究室）

●備考

なし

中国語演習Ⅰ

担当者： 谷口 明夫

●科目の概要

中国語を初めて学ぶ人を対象とする科目です。中国と台湾で標準語として使用されている言葉を学びます。中国語の発音と基本的文法、日常の挨拶言葉、短い文の読解と簡単な作文を学びます。

発音の学習では、日本語にない母音・子音・声調を学び、有気音と無気音の違いを理解し、正確な発音の仕方を習得します。今後の学習の順調な発展を期するために、自分の姓名を紹介する文と1から10までの数詞を完璧に発音できるようになるまで練習します。

文型では「～です」「～を～する」「～を持っている」「～したい」「～よりも～だ」の構文の否定型と疑問型も学びます。

●授業計画

- 1 声調とは 単母音と声調 声調の変化 簡単な挨拶言葉
- 2 第1課 「～です」「～でない」自己紹介 複母音と鼻音
- 3 同上 声母・無気音・有気音・摩擦音・巻舌音 1～10
- 4 第2課 「～の～」「どの～」「なんの～」疑問詞とは
- 5 同上 発音の矯正と朗読の反復練習 単語の補充
- 6 同上 発音の矯正 自分の名前の中国語音の確認
- 7 第3課 「～を～する」「～も～する」動詞述語文
- 8 同上 連動文 場所を表す言葉 発音の矯正と反復練習
- 9 同上 反復練習 1～10の数詞と自己紹介の発音の矯正
- 10 第4課 「～したい」反復疑問文 形容詞述語文
- 11 同上 指示代名詞（こそあど）発音の評価
- 12 同上 単語の補充 発音の矯正 反復練習 発音の評価
- 13 第5課 「～がいます」「～を持っています」否定形
- 14 同上 「～よりも～だ」「～ほど～ではない」発音評価
- 15 同上 「いくつ」「どれほど～か」1～10億の数詞
- 16 試験

●到達目標

1. 本文を正確な発音で読み、ローマ字ピンインでも書ける
2. 中国語で名前を紹介し、1～10の数を正確に言える
3. 学んだ単語と文型の文を読み、読み書きができる

●授業時間以外の学習

- ・教科書付属のCDを何度も聞いて発音とリズムを習得する
- ・教科書本文とローマ字ピンインを書き写し、暗唱する

●テキスト・参考書等

- 【教】相原茂・陳淑梅・飯田敦子『日中いぶこみ広場』朝日出版社 2015年 第7刷
- 【参】相原茂『はじめての中国語学習辞典』朝日出版社 2002年

●成績評価

1～10の数の発音と自己紹介の発音（20%）筆記試験（70%）受講態度（10%）

●オフィスアワー

講義時間後（講義室）

●備考

韓国語演習 I

担当者： 金 孝珍

●科目の概要

韓国語を初めて学習する人が対象です。授業では基礎文法を説明した後、音読練習、作文練習、対話練習をします。授業の最後に目標会話を暗記し発表する時間を設けることにより学習内容を授業時にしっかり身につけることを目指します。

●授業計画

- 1 韓国・韓国文化紹介 / 韓国語の文字と発音
- 2 韓国語の文字と発音①
- 3 韓国語の文字と発音②
- 4 韓国語の文字と発音③
- 5 簡単な挨拶・自己紹介 / 確認テスト
- 6 物の名称について表現する①
- 7 物の名称について表現する②
- 8 出身地について尋ねる①
- 9 出身地について尋ねる②
- 10 家族を紹介する・名前を尋ねる①
- 11 家族を紹介する・名前を尋ねる②
- 12 存在の有無を表現する①
- 13 存在の有無を表現する②
- 14 居場所について尋ねる
- 15 総括
- 16

●到達目標

1. 韓国語の文字と発音を表わすことができる
2. 自己紹介や簡単な日常会話ができる
3. 他国の言語に触れることで文化の多様性を理解することができる

●授業時間以外の学習

- ・教科書を事前に読んでおくこと
- ・各課に出てくる単語や文法や表現を暗記すること

●テキスト・参考書等

入佐信宏・金孝珍 共著『これで話せる韓国語 STEP1』白帝社2015

●成績評価

授業での積極性(10%) 小テスト(40%) 定期試験(50%)で評価することとし、合計が60点以上に到達した者を合格とする

●オフィスアワー

講義前後の休憩時間 (講義室)

●備考

数学基礎

担当者： 内田 豊海

●科目の概要

数学は、昔から様々な文化で多くの人々が創造してきた知の体系です。本講義では、多様な単元を取り扱い、問題解決を通して、「数学すること」の楽しさを実感することを目的としています。また、先人の知に触れることで、文化としての数学を継承するとともに、数学的な考え方のよさも体験し、自ら創意工夫し、問題解決を試みようという態度を培っていきます。

●授業計画

- 1 数の歴史 いろいろな文化にある様々な数学
- 2 不思議な数のパターン
- 3 微分と積分 イメージすると計算できる
- 4 迷路 出口を見つけるためにはどうしたらいいだろう
- 5 グラフを読む 鹿児島県の人口変動を探ろう
- 6 数値を読み解く オリンピック選手を選んでみよう
- 7 タングラム 図形を組み合わせてみると
- 8 面積 一つの知識でどれだけのことが考えられるか
- 9 確率 好きな人の隣に座れる確率は
- 10 フィボナッチ数 美しいデザインの中にある秘密
- 11 価値観 数を選ぶことで、自分の価値を知る
- 12 関数 変化する先の予測
- 13 証明 どうしたら人に説明できるだろう
- 14 ベクトル 力を図示するとわかること
- 15 不完全性定理 数学はどこまで正しいのだろうか
- 16 定期試験

●到達目標

1. 数学的活動の楽しさを知り、問題解決をしようとする態度を培う
2. 数学の有用性を認識する
3. 習得した技能を日常に応用することができる

●授業時間以外の学習

- ・授業後、適宜宿題を提示する

●テキスト・参考書等

<テキスト>
使用しない
<参考書>
ボザマンティエ『偏愛的数学 驚異の数』岩波書店
ボザマンティエ『偏愛的数学 魅惑の図形』岩波書店

●成績評価

定期試験の成績(70%) 宿題(30%)

●オフィスアワー

月曜日 終日 水曜日 5コマ目以外 (研究室西館412)

●備考

理科基礎

担当者： 内田 豊海

●科目の概要

身近なものや出来事でも、よく考えてみると、不思議なことばかり。この授業では、様々な「なぜ？」から出発して、その？を解き明かすことで、科学の楽しさを実感するとともに、科学的な考え方も身につけていくことを目標としています。

取り扱う内容は、広い科学の分野から、できるだけ多くの単元を選出しており、結果として、たくさんの方に興味・関心をもち、最終的には、自分で科学についてももっと知りたい、考えたいと思えるような授業構成にしております。

●授業計画

- 1 ロウソクの観察を通し、科学的な考え方を知ろう
- 2 五感で感じられることは何？ 視覚・聴覚・触覚
- 3 五感で感じられることは何？ 嗅覚・味覚
- 4 最先端の科学事情 今科学でできること
- 5 宇宙の誕生と今、そして未来
- 6 星座物語と地球誕生
- 7 生物 その進化と多様性
- 8 遺伝するもの、しないもの
- 9 病気ってなんだろう？
- 10 燃えるもの、燃えないもの
- 11 化学反応式はすごい こんなことまで説明できる
- 12 電化製品はどんな仕組み？ イヤホンを作ってみよう
- 13 炎色反応 金属を使って花火を作ろう
- 14 時間の流れは同じではない？ 相対性理論と量子力学
- 15 科学的ってなんだろう？ 科学と疑似科学
- 16 定期試験

●到達目標

1. 理科・科学の楽しさを実感する
2. 様々なものごとに、興味関心をもつ視点を養う
3. 疑問や問題に、自分なりの考えをもてる科学的思考力を習得する

●授業時間以外の学習

・日常で不思議に思ったことをメモし、自分なりにその答えを考えるとともに、授業の前後で教員と話をしながら、その背景を探る

●テキスト・参考書等

テキスト：使用しない
参考図書：科学雑誌『ニュートン』

●成績評価

定期試験（70%）授業態度（30%）

●オフィスアワー

月曜日 終日 および 水曜日 5コマ目以外（西館412）

●備考

分子からみた生物

担当者： 横峯 孝昭

●科目の概要

生物とは何か、このことについて一般常識としての生物と、最近の生物に関する知見について学び、自分のこととして考えられる教養を身につける

●授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 生物と細胞
- 3 生物の体を作っているもの①
- 4 生物の体を作っているもの②
- 5 細胞の増え方、精子と卵のでき方
- 6 メンデルの遺伝（優勢の法則、分離の法則について）
- 7 血液型で遺伝を知ろう
- 8 男の子、女の子の生まれる確率（伴性遺伝）
- 9 遺伝疾患の分類
- 10 クローン動物
- 11 臓器移植
- 12 生物の進化と地球環境①（生命の誕生）
- 13 生物の進化と地球環境②（全球凍結と生命）
- 14 生物の進化と地球環境③（大海からの離脱）
- 15 生物の進化と地球環境④（大量絶滅）
- 16 定期試験

●到達目標

1. 生物について基礎的な知識を習得する
2. 最近の生物における知見を学ぶ

●授業時間以外の学習

・自ら作成したノートを読み直し、次の講義へ備える

●テキスト・参考書等

<参考書> 休み時間の生物学 講談社サイエンティフィック

●成績評価

筆記試験70%、受講態度30%

●オフィスアワー

月曜日 14:40~18:00（研究室）

●備考

人間と環境

担当者： 江崎 一郎

●科目の概要

現代社会において特に顕著になってきている問題の一つが環境問題である。産業革命以降のさまざまな分野での近代化により、われわれの生活は物質的豊かさを享受することができるようになった。特に石油等の化石燃料の消費により、言わば「便利な生活」を手に入れたわけである。だが、このように便利で豊かな生活の限界が見え始めている。たとえば、地球温暖化がその一つであり、また局地的には発生しつつある食糧不足もその一つである。この講義では地球環境問題に的を絞って、人間と環境とのあるべき関係を考えてと同時に、このことの基礎ともなるべき人間行為のあり方、そこにおける法的あるいは倫理的な問題をも考察の対象としながら、この問題の具体的解決策について考察する

●授業計画

- 1 人間と環境を学ぶためのオリエンテーション
- 2 環境問題とは
- 3 地球温暖化
- 4 オゾン層の破壊
- 5 熱帯林の伐採
- 6 砂漠化
- 7 酸性雨
- 8 公害問題
- 9 京都議定書
- 10 気候変動に関する国際連合枠組み条約
- 11 化学物質過敏症
- 12 環境ホルモン
- 13 環境基本法
- 14 新しい人権としての環境権
- 15 エネルギー問題
- 16

●到達目標

1. 環境問題を主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる

●授業時間以外の学習

- ・授業開始前には、事前の下調べをする、また業終了後には、学習した内容をノートにまとめ、必要な情報を収集する

●テキスト・参考書等

竹下賢編『第4版・入門法学』晃洋書房

●成績評価

平常点30%、レポート70%

●オフィスアワー

金曜日 授業終了後30分（非常勤講師控室）

●備考

日本国憲法

担当者： 池田 哲之

●科目の概要

日本国憲法の重要条項の意義を、「立憲主義」の観点から学び取ってゆく。

●授業計画

- 1 鴫州憲政史にみる自由権の確立
- 2 人権の諸相－自由権、社会権、参政権、請求権－
- 3 日本国憲法の構造
- 4 立法府（国会）の権能
- 5 行政府（内閣）の権能と内閣総理大臣の権限
- 6 司法府（裁判所）の権能と違憲立法審査制
- 7 人権の享有主体
- 8 私人間における憲法効－3つの判例より－
- 9 精神的自由権（1）
- 10 精神的自由権（2）
- 11 経済的自由権とその規制法理
- 12 人身の自由－刑事法制的目的－
- 13 社会権（1）－生活保護法を中心に－
- 14 社会権（2）－労働法制－
- 15 憲法改正問題
- 16 筆記試験

●到達目標

1. 「人権」の歴史的由来について理解する
2. 統治機構と人権保障の関係について理解する
3. 「国民国家」における憲法の機能を把握する

●授業時間以外の学習

- ・日頃より意識して、新聞等における憲法関連記事を読むよう努めること
- ・担当教員の与える課題に取り組むこと

●テキスト・参考書等

指定テキスト：駒村圭吾編『プレスステップ憲法』弘文堂
参考書：資格試験研究会編『1択1答憲法過去問ノック』実務教育出版
浦部法穂『世界史の中の憲法』共栄書房

●成績評価

筆記試験90点、受講姿勢・意欲10点

●オフィスアワー

月曜日16:30～17:30 研究室：西館414

●備考

上記記載内容は、受講生の理解度、受講生数などにより、授業開始後に変更となるばあいもあります。

海外事情

担当者： 内田 豊海

●科目の概要

本授業は、異文化体験を通し、国際理解を深め、国際感覚を養おうというものである。事前指導で研修国の文化や歴史、民族性といった情報を収集したのち、今年度は協定校である台湾の樹人医護管理専科学校を拠点に、台湾国内で履修学生が所属する学科の特性に見合った研修を行う。

●授業計画

- 1 「国外研修旅行」参加者の募集
- 2 「国外研修旅行」の事前説明会と事前指導
- 3 「国外研修旅行」の実施
- 4 研修成果の発表
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16

●到達目標

1. 異文化に接し、異文化への理解を深める
2. 体験的に国際感覚を養う
3. 自分の専門分野について国際比較の視点から理解を深める

●授業時間以外の学習

インターネットやニュースを通し、台湾に関する情報を収集し、文化や人に対する関心を深める

●テキスト・参考書等

<参考書>
『参考書地球の歩き方 台湾2014～2015』
地球の歩き方編集室 ダイアモンド社

●成績評価

事前指導の参加(10%) 研修中の活動(50%) 研修の発表(40%)によって評価する

●オフィスアワー

西館412号室
月曜(終日) および 水曜(5コマ目以外)

●備考

1. 参加希望者数の人数や研修国の情勢により、本授業が開講されない可能性もある
2. 履修届けをする際、本科目の単位数(2)を卒業の取得必修単位の内に加算しないこと

英語演習Ⅱ

担当者： 高島 まり子

●科目の概要

前期の英語演習Ⅰに引き続き、高校までに学んだ英語の復習を踏まえて「聴く・話す・読む・書く」の総合力を向上させ、英語によるコミュニケーション能力の土台を築いて更なる応用につなげることを目指す。

●授業計画

- 1 Unit 13 名刺修飾、関係代名詞
- 2 Unit 14 名刺修飾、関係代名詞
- 3 Unit 15 分詞の活用
- 4 Unit 16 関係副詞
- 5 Unit 17 分詞構文
- 6 Unit 18 知覚動詞、第5文型
- 7 前半の復習
- 8 Unit 19 使役動詞、第5文型
- 9 Unit 20 話し手の判断を示す法助動詞
- 10 Unit 21 仮定法過去、仮定法過去完了形
- 11 Unit 22 不定詞と動名詞
- 12 Unit 23 形式主語
- 13 Unit 24 冠詞
- 14 後半の復習
- 15 全体の振り返り
- 16 定期試験

●到達目標

1. 基礎的文法力を固める
2. 「聴く・話す・読む・書く」力を向上させる
3. リスニングや会話練習でコミュニケーション能力を磨く

●授業時間以外の学習

・テキストの予習・復習、課題の提出

●テキスト・参考書等

Step-by-Step Basic English Grammar (朝日出版)

●成績評価

受講態度(30%) 定期試験(70%)

●オフィスアワー

月曜日 16:30～17:30 (研究室)

●備考

英語演習Ⅱ

担当者： 吉村 圭

●科目の概要

この授業では会話や英作文に最低限必要な英文法の理解を目標とする。また文法事項を理解した上で、リーディング、英作文と英文の聞き取りを行い、総合的な英語力の向上を目指す。その際、テキストの問題のみならず、マンガ等を用いより理解を深める。

●授業計画

- 1 オリエンテーション（前期の復習）
- 2 Unit 13 代名詞 基本事項
- 3 Unit 13 代名詞 応用
- 4 Unit 14 前置詞 基本事項
- 5 Unit 14 前置詞 応用
- 6 Unit 15 形容詞 基本事項
- 7 Unit 15 形容詞 応用
- 8 Unit 16 副詞 基本事項
- 9 Unit 16 副詞 応用
- 10 Unit 17 比較 基本事項
- 11 Unit 17 比較 応用
- 12 Unit 19 接続詞 基本事項
- 13 Unit 19 接続詞 応用
- 14 Unit 20 受け身（受動態）
- 15 総括
- 16 定期試験

●到達目標

1. 英文の基礎的なルールを理解し、簡単な英文の聞き取り、及び読解ができる

●授業時間以外の学習

・テキストに出てきた単語・表現を覚え語彙を増やす

●テキスト・参考書等

テキスト：Everyday English Grammar 南雲堂
参考書：『英単語ターゲット1400』等単語帳

●成績評価

定期試験・小テスト・提出物（70%）、授業貢献度（30%）による総合評価。

●オフィスアワー

水曜日 12:55-14:25（研究室）

●備考

英語演習Ⅱ

担当者： 霧島 S. 怜

●科目の概要

学生の皆さん、“Roma meravigliosa non era costruita durante una notte”（素晴らしいローマは一夜にしてならず）というヨーロッパの有名な諺が教示するように、誰も、一晩や「有名な先生」の指導を受けた直後、突然、大学で比較人間学の人生運命論について、完璧なイタリア語で講義をした者はいません!! 外国語を学ぶ具体的な目標（例えば、将来の仕事）や動機（例えば、素敵な彼氏、又、何時か自分の子どもに人生の道を切り開くために、ロシア語も大好きよ）という志は極めて効果的です。This course aims at accurate understanding of spoken phrases and starting of small conversation ... では、幸せな明日をまぎれもなく切り開き始める勉学に、大学生らしく励もう!!

●授業計画

- 1 演習の内容、方法と成績等についての説明。ミニ演習
- 2 U 6 Saying “I love you!” 英和訳、読解、聞き取り等
- 3 同題 教官と共にコミュニケーション練習
- 4 U 8 Cyber Love! 英和訳、読解、聞き取り等
- 5 同題 教官と共にコミュニケーション練習
- 6 U 10 Fan Worship! 英和訳、読解、聞き取り等
- 7 同題 教官と共にコミュニケーション練習
- 8 U 11 ‘Pet Peeve’ 英和訳、読解、聞き取り等
- 9 同題 教官と共にコミュニケーション練習
- 10 U 17 To Have or Have Not! 英和訳、読解、聞き取り等
- 11 同題 教官と共にコミュニケーション練習
- 12 IAAE 14 A Thief 読解、コミュニケーション練習等
- 13 IAAE 27 The Last Dance! 読解、コミュニケーション練習等
- 14 前期と後期の特題の復習 コミュニケーション練習等
- 15 受講生が選択するテーマの学習 [X]
- 16 Final test!

●到達目標

1. 英文の綺麗な朗読
2. 朗読文を正確に聞き取り、素早く理解すること
3. 意味のある対話を始めること

●授業時間以外の学習

- ・毎回の予習
- ・毎回の復習

●テキスト・参考書等

- 1 Textbook : Richard R. Day 等, “Impact Issues 1”, Pearson Longman. (isbn 978-962-01-9930-1)
- 2 必要に応じて、習熟資料を配布します

●成績評価

予習 (40%) 演習参加 (40%) Test 20%

●オフィスアワー

演習の前後（非常勤室）

●備考

ドイツ語演習Ⅱ

担当者： 武田 輝章

●科目の概要

はじめてドイツ語を学びたいという人が対象です。ゼロからのスタートですから、英語が苦手だった人も心配はいりません。英語が得意な人は、英語とドイツ語を比較することで新たな発見があることでしょう。言葉はまず音が大切です。恥ずかしがらずに大きな声で発音練習をしましょう。簡単な決まり文句は、理屈抜きでそのまま暗唱します。次に、ドイツ語の仕組みについて自分の頭で考えてみましょう。さらに、ドイツ・オーストリア・スイスなどの歴史や文化にも触れながら、ヨーロッパの視点から世界を見てみましょう。

●授業計画

- 1 名詞2：定冠詞を学び、その仕組みについて考える
- 2 動詞 haben の使い方について学ぶ
- 3 ドイツ語の動詞の仕組みを自分で見つける
- 4 時間や電話番号の数字を表現できる
- 5 名詞3：否定冠詞について学び、考える
- 6 動詞3：職業や国籍について話すことができる
- 7 定冠詞の仕組みについて考える
- 8 個数や値段の数を表現できる
- 9 名詞の性について考えよう
- 10 前置詞について考えよう
- 11 再帰動詞とは何だろう
- 12 話法の助動詞について学ぼう
- 13 分離動詞とは何だろう
- 14 現在完了について学ぼう
- 15 受動態と未来形について学ぼう
- 16 定期試験

●到達目標

1. 身の回りのものについて簡単な表現ができる
2. 食堂で注文ができ店で買い物ができる

●授業時間以外の学習

- ・ドイツ語の文章をノートに写し、単語の意味を調べてくる
- ・ドイツ語の単語や文章を、大きな声で読む練習をしてくる

●テキスト・参考書等

- ・テキスト：田中・筒井著『みるみるドイツ語』同学社 2013年
- ・参考書：新アポロン独和辞典（同学社）・常木実著『標準ドイツ語』（郁文堂）・関口初等ドイツ語講座3巻（三修社）・大岩信太郎著『ドイツ語の最初歩』（三修社）

●成績評価

筆記試験（60%）レポートと小テスト（20%）受講態度（20%）

●オフィスアワー

木曜日 12：30～13：30（研究室）

●備考

なし

中国語演習Ⅱ

担当者： 谷口 明夫

●科目の概要

中国語演習Ⅰを履修したか、それと同等の学力を持つ人が受講する科目です。

演習Ⅱに続けて、新しい表現と文法を学びます。正確な発音を身につけるために反復朗読し、発音を矯正します。3回の授業で1課を学びおえます。

「～した」（変化・完了）、「～したことがある」（経験）、「～するのが好き」、大きな数の読み方、数詞を使った表現（年月日・時刻等）、量詞、「～から」と「～へ」、現在進行の表現「～ねばならない」、「どこそこで～する」、「～できる」の異なった表現、動作の結果まで含めた結果補語の表現などを学びます。

●授業計画

- 1 授業の進め方、受講上の注意 第6課 朗読と新出単語
- 2 第6課 経験の表現と「～するのが好き」、助動詞「要」
- 3 同上 数の読み方と数詞を使った表現 反復朗読
- 4 第7課 新出単語と本文朗読 年月日、時刻等の言い方
- 5 同上 「どこそこで～する」文末の「了」の意味と用法
- 6 同上 関連する語句等 反復朗読
- 7 第8課 新出単語と本文 時間量の言い方 様々な量詞
- 8 同上 本文朗読 「～から」と「～へ」 反復朗読
- 9 同上 関連する語句等 反復朗読
- 10 第9課 新出単語と本文 「～にある」「～で～する」
- 11 同上 本文朗読 「～しているところだ」 反復朗読
- 12 同上 場所を表す言葉 関連する語句等 反復朗読
- 13 第10課 新出単語と本文 「～できる」
- 14 同上 動作の結果まで含めた言い方（結果補語）
- 15 同上 関連する語句と表現 反復朗読
- 16 試験

●到達目標

1. 本文を正確流暢に読み、暗唱できる
2. 大きな桁の数を読み、数を使った表現を理解し、言える
3. 学んだ単語と文型の文を読み、読み書きができる

●授業時間以外の学習

- ・教科書付属のCDを聞いて声調等の発音を身につける
- ・教科書の本文とローマ字ピンインを書き写し、覚える

●テキスト・参考書等

- 【教科書】 相原茂・陳淑梅・飯田敦子『につちゅういぶこみ広場』朝日出版社 2015年 第7刷
- 【参考書】 相原茂『はじめての中国語学習辞典』朝日出版社 2002年

●成績評価

100以上の数と教科書本文朗読の発音が正確で流暢であること（20%）筆記試験（70%）受講態度（10%）

●オフィスアワー

講義時間後（講義室）

●備考

韓国語演習Ⅱ

担当者： 金 孝珍

●科目の概要

韓国語演習Ⅰを受講した人が対象です。授業では、韓国語演習Ⅰに引き続き、より発展した表現を学習し会話能力を高めていきます。本文の基本文法を説明した後、音読練習、作文練習、対話練習をします。授業の最後に目標会話を暗記し発表する時間を設けることにより学習内容を授業時にしっかり身につけることを目指します。

●授業計画

- 1 習慣について尋ねる - 動詞編 1
- 2 習慣について尋ねる - 動詞編 2
- 3 予定について尋ねる - 動詞編 3
- 4 予定について尋ねる - 動詞編 4
- 5 時間を表す
- 6 位置を表す
- 7 過去の行動について表す - 動詞の過去形 1
- 8 過去の行動について表す - 動詞の過去形 2
- 9 電話番号を尋ねる
- 10 状態や気持ちを表す - 形容詞編 1
- 11 相手の気持ちを尋ねる - 形容詞編 2
- 12 過去に感じたことについて表現する - 形容詞の過去形 1
- 13 過去に感じたことについて表現する - 形容詞の過去形 2
- 14 行動を促す / 依頼する
- 15 得意・苦手について表現する / 総括
- 16

●到達目標

1. 韓国語の基礎文法を応用することができる
2. 日常会話のより発展した表現を話すことができる
3. 会話練習を通してコミュニケーション能力を高めることができる

●授業時間以外の学習

- ・教科書を事前に読んでおくこと
- ・各課に出てくる単語や文法や表現を暗記すること

●テキスト・参考書等

入佐信宏・金孝珍 共著『これで話せる韓国語 STEP1』白帝社2015

●成績評価

授業での積極性(10%) 小テスト(40%) 定期試験(50%)で評価することとし、合計が60点以上に到達した者を合格とする

●オフィスアワー

講義前後の休憩時間 (講義室)

●備考

体育講義

担当者： 黒原 貴仁

●科目の概要

本授業では、スポーツおよび健康についての意義や役割を多角的な視点から概説し、現代社会における健康増進やスポーツの社会的発展に寄与・貢献できる基礎的な理解を深める。

●授業計画

- 1 オリエンテーション (運動とは? 健康とは?)
- 2 古代オリンピックと近代オリンピック
- 3 現代社会におけるスポーツの社会的意義
- 4 スポーツと国際理解
- 5 生活習慣病とその予防
- 6 正しいダイエットと運動効果
- 7 生涯スポーツとは?
- 8 ヘルスプロモーションの意義
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16

●到達目標

1. スポーツについての基礎的な理解を深めることができる
2. 健康についての基礎的な理解を深めることができる
3. スポーツと健康における相互関係の理解を深めることができる

●授業時間以外の学習

- ・スポーツや健康についての情報収集

●テキスト・参考書等

適宜

●成績評価

筆記試験 (70%) レポート課題 (30%) と統合して評価する

●オフィスアワー

毎週水曜日 13:00~16:00 (研究室)

●備考

体育実技

担当者： 黒原 貴仁

●科目の概要

現代社会において、スポーツは豊かな QOL（生活の質）の観点からも重要な役割を担っている。また、スポーツは望ましい人間関係の構築や地域の活性化、活力ある民主的な社会の発展に大きく寄与する人類の貴重な文化のひとつである。本授業は、体を動かすことの楽しさや意義を理解し、生涯をとおして積極的にスポーツに参加できるような知識、技能、態度を習得し、健康、安全、体力の保持増進への基礎的な能力を高めることを目的とする。

●授業計画

- | | |
|----|-----------------------------|
| 1 | オリエンテーション 前半の種目選択と実践 |
| 2 | 前半活動期間 |
| 3 | [バレーボール、バドミントン、バスケットボール、卓球] |
| 4 | を開講し各自選択する |
| 5 | 各種目ごとにルールの解説・基本練習・ゲームを行う |
| 6 | |
| 7 | |
| 8 | ↓ |
| 9 | 後半活動期間 |
| 10 | [バレーボール、バドミントン、バスケットボール、卓球] |
| 11 | を開講し各自選択する |
| 12 | 各種目ごとにルールの解説・基本練習・ゲームを行う |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | ↓ |

●到達目標

1. 健康的な心と身体を培う知識を深める
2. スポーツをとおしてコミュニケーション能力を高める
3. 充実した生活を送るための体力を高める

●授業時間以外の学習

- ・実技に耐えうる体力を高める

●テキスト・参考書等

なし

●成績評価

受講態度及びゲーム結果を統合して評価する

●オフィスアワー

水曜日午後（研究室）

●備考

WE LOVE 鹿児島！

担当者： 学科長・地域連携センター長

●科目の概要

学生を鹿児島再発見の旅へと導き、自分の中の地域を見つめ、地域の中に自分自身を位置づける「ローカル・アイデンティティ」の自覚を促し、それを「生きる力」とする。同時に、本学 COC 活動の「すこやか教育」の核となる科目として意欲的に地域課題に取り組み、社会に貢献する実践力を身につけて、卒業後は「地域活性化の担い手」として貢献できる人材となることを目指す。

●授業計画

- | | |
|----|--------------------|
| 1 | オリエンテーション、分野の希望調査 |
| 2 | 分野別オリエンテーション |
| 3 | 講義 |
| 4 | 体験学習① |
| 5 | 体験学習の振り返り |
| 6 | 調べ学習 |
| 7 | 「自然と環境」講義（全分野共通） |
| 8 | 体験学習②「防災」研修（全分野共通） |
| 9 | 体験学習②「防災」研修（全分野共通） |
| 10 | 体験学習の振り返り |
| 11 | 調べ学習 |
| 12 | 調べ学習 |
| 13 | 分野の課題への取り組み① |
| 14 | 分野の課題への取り組み② |
| 15 | 分野の課題への取り組み③ |
| 16 | |

●到達目標

1. 「ローカル・アイデンティティ」を自覚し、「生きる力」とする
2. 地域課題への取り組みを通して社会貢献の実践力を体得する
3. 意欲的な「地域活性化の担い手」としての基礎を固める

●授業時間以外の学習

分野の課題への取り組み
(プレゼンテーションの準備、レポートなど) 作成

●テキスト・参考書等

例) 歴史分野:『もっと知ろうよ維新のまち～篤姫と薩摩の英傑たち』
(鹿児島地区小学校社会科教育研究会 編)
「鹿児島ぶらりまち歩き」(鹿児島観光コンベンション協会 編) 他

●成績評価

430% 分野別の課題 (60%)

●オフィスアワー

例) 高島まり子: 火曜日 12:00~13:00 (研究室)

●備考

COC 科目

| | |
|----------|--|
| 一般教養科目DP | ①主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。 ②自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。 ③地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。 ④社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。 |
|----------|--|

| 科目名 | 最も関係の深いDP番号 | 到達目標 | DPとの関係 | | | |
|------------------------------|-------------|--------------------------------------|--------|---|---|---|
| | | | ① | ② | ③ | ④ |
| わたしを知る・わたしを創る | | | | | | |
| 心と思想の探求(人間の心に迫り人間を知る) | | | | | | |
| 日本語表現の基礎 | ① | 1. 原稿用紙のつかい方を身につける | ○ | | | |
| | | 2. 文字・表記・用語に習熟する | ○ | | | |
| | | 3. 文章表現力を身につける | ◎ | ○ | ○ | |
| 倫理学 | ① | 1. 倫理的な思考を身につける | ◎ | | | |
| | | 2. 「生命倫理」の基礎を理解する | ○ | | ○ | |
| | | 3. 身近な生命倫理の問題を知り、それについて自分の考えを述べるができる | | ○ | ○ | |
| 高島 文学 | ④ | 1. 映像を通してアメリカ文学に親しむ | ◎ | | | ○ |
| | | 2. 社会・歴史・文化を土台とした米国人の価値観への理解を深める | | ○ | | ◎ |
| | | 3. 日米比較によりグローバルな視点を養い、自分の生き方を考える | ○ | | | ◎ |
| 瀬戸口 文学 | ③ | 1. 万葉集の和歌の鑑賞ができる | ○ | | | |
| | | 2. 古代人の考え・想いを理解する | | ○ | ◎ | |
| | | 3. 自己の考え・意見を確認する | ○ | ○ | | |
| 伊佐山 文学 | ① | 1. 物語の大略を理解し、説明することができる | ◎ | | | ○ |
| | | 2. 登場人物に自身を重ねながら物語を読むことができる | ◎ | ○ | | |
| | | 3. 平安時代の生活に関する知識を身につける | ◎ | | | ○ |
| 吉村 文学 | ④ | 1. 各講義を聞き自分の意見を述べるができる | ○ | | | ◎ |
| | | 2. 文学作品について自ら調査し考えを述べるができる | ◎ | | | ○ |
| | | 3. | | | | |
| 心理学 | ② | 1. 人間の心理と行動との関係を理解する | ○ | ◎ | | |
| | | 2. 自己理解を深める | ○ | ◎ | | |
| | | 3. 他者理解の幅を広げる | ○ | ◎ | | |
| 健康の探求(健康の心と体をつくる) | | | | | | |
| 大村 体育講義 | ② | 1. 健康に関する理解 | ○ | ○ | | |
| | | 2. 積極的に健康管理に関わるようにする | ○ | ◎ | | ○ |
| | | 3. | | | | |
| 黒原 体育講義 | ① | 1. 健康についての基礎的な知識を深めることができる | ◎ | ○ | | |
| | | 2. スポーツについての基礎的な理解を深めることができる | ○ | ◎ | | ○ |
| | | 3. 健康とスポーツの相互関係の理解を深めることができる | ◎ | ○ | ○ | |
| 大村 体育実技 | ② | 1. スポーツ活動の楽しさを理解する | ○ | ◎ | | |
| | | 2. 積極的に健康管理に関わるようにする | ○ | ◎ | | ○ |
| | | 3. | | | | |
| 黒原 体育実技 | ② | 1. スポーツを楽しめる能力を身につけることができる | ◎ | ○ | | |
| | | 2. スポーツを通してコミュニケーション能力を高めることができる | | ◎ | ○ | ○ |
| | | 3. 充実した生活を送るための体力を高めることができる | | ◎ | ○ | |
| 社会を知る・社会につながる | | | | | | |
| 社会の探求(社会に目を向ける) | | | | | | |
| 社会学 | ④ | 1. 世の中の出来事を自分の立場から離れて見る視点を身につける | | ◎ | ○ | |
| | | 2. 自分の関心と社会の出来事を結びつける能力を身につける | | | ○ | ◎ |
| | | 3. 社会的に共有される意味や形式の相対性について理解する | ◎ | | | ○ |

| | |
|----------|--|
| 一般教養科目DP | ①主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。 ②自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。 ③地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。 ④社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。 |
|----------|--|

| 科目名 | 最も関係の深いDP番号 | 到達目標 | DPとの関係 | | | |
|------------------------------|-------------|---|--------|---|---|---|
| | | | ① | ② | ③ | ④ |
| 国際化と経済 | ④ | 1. 基本的な日本経済・国際経済の仕組みが理解できる | ○ | ○ | | ◎ |
| | | 2. グローバル化の進む地域経済で何が今問題でどう自分は行動すべきかを主体的に判断できる | ○ | ○ | ◎ | |
| | | 3. | | | | |
| 日本国憲法 | ④ | 1. 「人権」の歴史的由来について理解する | ◎ | | | ◎ |
| | | 2. 統治機構と人権保障の関係について理解する | | | | ◎ |
| | | 3. 「国民国家」における憲法の機能を把握する | | | | ◎ |
| 歴史学 | ④ | 1. 民俗学等との連携も視野に、歴史学の方法を理解する | ○ | | | |
| | | 2. 過去の人々の生き方から自分の生き方を見つめなおす | | ○ | | |
| | | 3. 歴史学の成果を参照しながら、社会の在り方を考える | | | ○ | ◎ |
| 児童教育 WE LOVE 鹿児島! | ③ | 1. 「ローカル・アイデンティティ」を自覚し、「生きる力」とする | ○ | | | ◎ |
| | | 2. 地域課題への取り組みを通して社会貢献の実践力を体得する | | | ◎ | ○ |
| | | 3. 意欲的な「地域活性化の担い手」としての基礎を固める | | ○ | ◎ | |
| 生活科学 We Love 鹿児島! | ④ | 1. 鹿児島の自然災害を知ることができる | ○ | | ○ | |
| | | 2. 災害に対する備え(防災)に関する問題点を理解できる | | | ○ | ○ |
| | | 3. 防災を実践できる方法を身につけることができる | | ○ | | ◎ |
| 教養 WE LOVE 鹿児島! | ④ | 1. 鹿児島再発見 | ◎ | ○ | ○ | |
| | | 2. 「ローカル・アイデンティティ」の自覚を深める | | ○ | ◎ | ○ |
| | | 3. 「地域活性化の担い手」としての基礎を固める | ○ | ◎ | | ○ |
| キャリアの探究(職業を考え人生を設計する) | | | | | | |
| インターンシップ | ③ | 1. 社会体験を短大での学習にフィードバックさせ、以後の学生生活に役立て、社会人としての自覚を持つ | ○ | ○ | ◎ | |
| | | 2. 職業に関する興味、関心、適性がどこにあるかを自ら考えられる | ○ | ◎ | | ○ |
| | | 3. | | | | |
| 児童教育学科 キャリアガイダンスⅠ | ③ | 1. 自己理解を深める | ◎ | ○ | | |
| | | 2. 働くことや職業について理解を深める | | ○ | ◎ | ○ |
| | | 3. 目指す職業について理解を深める | | | ◎ | ○ |
| 児童教育学科 キャリアガイダンスⅡ | ③ | 1. 職業選択を行う(キャリア形成) | ○ | | ◎ | |
| | | 2. 就職活動や実習を通して自己理解を深める | ◎ | ○ | | |
| | | 3. 働くための法律を知る | | | ◎ | ○ |
| 生活科学科 キャリアガイダンス(Ⅰ) | ④ | 1. 自己理解を深める | ◎ | | | ○ |
| | | 2. 自分の生き方を考える | | | | ◎ |
| | | 3. | | | | |
| 生活科学科 キャリアガイダンス(Ⅱ) | ④ | 1. 働くことの意義を考える | ○ | | | ◎ |
| | | 2. 社会に関心を持ち、自己実現を目指し、行動する | | | | ◎ |
| | | 3. | | | | |
| 世界を知る・世界を広げる | | | | | | |
| 異文化の探求(海外に目を向ける) | | | | | | |
| 海外事情 | ① | 1. 異文化への理解 | ○ | ○ | | ○ |
| | | 2. 国際感覚を養う | | ○ | | ○ |
| | | 3. 専門分野について国際比較できるようにする | | ○ | | ◎ |
| 英語演習Ⅰ | ① | 1. 基礎的文法力を固める | ◎ | ○ | | |
| | | 2. 「聴く・話す・読む・書く」力を向上させる | | ◎ | | ○ |
| | | 3. リスニングや会話練習でコミュニケーション能力を磨く | | ○ | | ◎ |

| | |
|----------|--|
| 一般教養科目DP | ①主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。 ②自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。 ③地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。 ④社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。 |
|----------|--|

| 科目名 | 最も関係の深いDP番号 | 到達目標 | DPとの関係 | | | |
|------------------------------|-------------|--|--------|---|---|---|
| | | | ① | ② | ③ | ④ |
| 英語演習 I | ④ | 1. 英文の基礎的なルールを理解できる 2. 簡単な英文の聞き取りができる 3. 簡単な英文の読解ができる | | | | ◎ |
| 英語演習 I | ① | 1. 人の前で英文を綺麗に朗読すること 2. 朗読の内容を正しく理解すること 3. 異文化の理解 | ○ | ◎ | | ○ |
| ドイツ語演習 I | ④ | 1. 日常のあいさつ程度の会話が、自然にできるようになる 2. 基本的なドイツ語を、大きな声で読めるようになる 3. | | ○ | | ◎ |
| 韓国語演習 I | ② | 1. 韓国語の文字と発音を表わすことができる 2. 自己紹介や簡単な日常会話が 3. 他国の言語に触れることで文化の多様性を理解することができる | ○ | ◎ | | ○ |
| 中国語演習 I | ② | 1. 本文を正確な発音で読み、ローマ字ピンインでも書ける 2. 中国語で名前を紹介し、1～10の数字を正確に言える 3. 学んだ単語と文型の文を、読み、書き、聞き、言うことができる | ○ | ◎ | | ○ |
| 英語演習 II | ② | 1. 基礎的文法力を固める 2. 「聴く・話す・読む・書く」力を向上させる 3. リスニングや会話練習でコミュニケーション能力を磨く | ◎ | ○ | | ○ |
| 英語演習 II | ④ | 1. 英文の基礎的なルールを理解できる 2. 簡単な英文の聞き取りができる 3. 簡単な英文の読解ができる | | | | ◎ |
| ドイツ語演習 II | ④ | 1. 身の回りのものについて簡単な表現ができる 2. 食堂で注文ができ店で買い物ができる 3. | | ○ | | ◎ |
| 中国語演習 II | ② | 1. 本文を正確流暢に読み、暗唱できる 2. 大きな桁の数を読み、時間等数詞を使った表現を理解し、言える 3. 学んだ単語と文型の文を読み、書き、聞き、言うことができる | ○ | ◎ | | ○ |
| 韓国語演習 II | ② | 1. 韓国語の基礎文法を応用することができる 2. 日常会話のより発展した表現を話すことができる 3. 会話練習を通してコミュニケーション能力を高めることができる | ○ | ◎ | | ○ |
| 自然界の探求(いろいろな世界に目を向ける) | | | | | | |
| 数学基礎 | ① | 1. 数学的活動の楽しさを知り、問題解決をしようとする態度を培う 2. 数学の有用性を認識する 3. 習得した技能を日常に応用することができる | ◎ | | | ◎ |
| 理科基礎 | ① | 1. 理科・科学の楽しさを実感する 2. 様々なものごとに、興味関心をもつ視点を養う 3. 疑問や問題に、自分なりの考えをもてる科学的思考力を習得する | ◎ | | | ○ |
| 分子からみた生物 | ① | 1. 生物について基礎的な知識を習得する 2. 最近の生物における知見を学ぶ 3. | ◎ | | ○ | |
| 人間と環境 | ① | 1. 環境問題を主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる 2. 3. | ◎ | | ○ | |

專 門 科 目

音楽 I

担当者： 新村 元植

●科目の概要

授業の前半；(45分)『幼児曲弾き歌い技術の修得』

- ① 1グループ2名が歌唱援助者と伴奏者を分担する
- ② 幼児曲を歌唱を援助について演習する
- ③ 幼児に対する総合的音楽援助について演習する

授業の後半；(45分)『幼児教育及びに必要な音楽理論の修得』

- ① 音楽の基礎的知識や音楽理論について履修し演習する

●授業計画

- 1 音楽理論 1 (五線、下線、音部記号、譜表、幹音名)
- 2 音楽理論 2 (派生音名、変化記号、楽譜の記譜法)
- 3 音楽理論 3 (音符、休符、付点、タイ等の音楽に関する記号)
- 4 音楽理論 4 (拍子、小節、拍子記号等の音楽に関する記号)
- 5 幼児に対する音楽的援助 1 (幼稚園指導要領のねらい)
- 6 音楽理論 5 (幹音の音程)
- 7 音楽理論 6 (派生音の音程)
- 8 幼児に対する音楽的援助 2 (音楽的な表現のねらい)
- 9 音楽理論 7 (長音階の構造と作成演習)
- 10 音楽理論 8 (長音階及び短音階の構造と作成演習)
- 11 幼児に対する音楽的援助 3 (幼児の音楽的能力の発達)
- 12 音楽理論 9 (同主調・平行調・属調・下属調)
- 13 音楽理論 10 (同主調・平行調・属調・下属調の問題演習)
- 14 幼児に対する音楽的援助 (音楽を使用する保育について)
- 15 総合的演習 (保育に必要な基礎的音楽知識のまとめ)
- 16 定期試験

●到達目標

1. 幼児教育に必要な基礎的音楽理論と幼児曲の歌唱を演習する事により、保育者としての基礎的スキルを高める

●授業時間以外の学習

・演習に際しては、事前に各グループごとに幼児曲の伴奏及び援助について事前に研究する

●テキスト・参考書等

テキスト：

「うたとあそび」(鹿児島県私立幼稚園協会編)

「ピアノテキスト」(全国大学音楽教育学会九州学会編)

●成績評価

- ・定期試験では筆記試験(90分)を実施する(70%)
- ・平常点(演習及び授業課題・出席等)を評価する(30%)

●オフィスアワー

随時(新村研究室)

●備考

単位互換対象科目

器楽 I

担当者： 中村 稲森

●科目の概要

2年間で幼児曲の伴奏ができるようになるために、バイエル教則本を通してピアノ奏法の基礎と応用力を修得する。

●授業計画

- 1 ピアノレッスン(バイエル3・4・5)
- 2 ピアノレッスン(バイエル6・7)
- 3 ピアノレッスン(バイエル44'・11)
- 4 ピアノレッスン(バイエル19・みつばちマーチ)
- 5 ピアノレッスン(バイエル16)
- 6 ピアノレッスン(バイエル29・手をたたきましょう)
- 7 ピアノレッスン(バイエル48・ぞうさん)
- 8 ピアノレッスン(バイエル59・きらきら星)
- 9 ピアノレッスン(バイエル66・あくしゅでこんにちは)
- 10 ピアノレッスン(バイエル68・69・七夕さま)
- 11 ピアノレッスン(バイエル78)
- 12 ピアノレッスン(ハ長調スケール・カデンツ・ちょうちょう)
- 13 ピアノレッスン(ト長調スケール・カデンツ・みずあそび)
- 14 ピアノレッスン(さんぽ)
- 15 ピアノレッスン(試験曲)
- 16 定期試験

●到達目標

1. バイエル78番まで弾くことができる
2. 幼児曲の簡単な伴奏を弾くことができる

●授業時間以外の学習

・レッスン時に合格がもらえるように事前に練習をした上でレッスンに臨む。また、レッスンで注意されたことを受講後に復習する

●テキスト・参考書等

テキスト：

「うたとあそび」(鹿児島県私立幼稚園協会編)

ピアノテキスト(全国大学音楽教育学会九州地区編)

参考書：ピアノ教則本(バイエル、ブルグミュラー、ソナチネアルバム等各自レベルに応じたもの)

●成績評価

実技試験50% ピアノ履修曲数25% 受講態度25%

●オフィスアワー

水曜日 13:00~16:00(中村研究室)

●備考

6クラスの内、3クラスは中村、3クラスは稲森が担当

図画工作

担当者： 井上 周一郎

●科目の概要

幼児期の「つくる」活動について、意義や内容、及びその指導法を学ぶ。理論的な学習をはじめ、様々な課題制作を通して、基礎的な知識や技能、ねらいを習得し「つくる」活動の豊かさを味わう。また、手を通して思考することの大切さを理解し、感性を育むための教材研究や環境づくりのあり方を学びとる。適宜、発達に即した援助や言葉かけについても学び、現場における実践力を身につける。

●授業計画

- 1 幼児期から児童期における絵の発達過程について
- 2 想像画①：主題から発想したことを基に絵の構想を深める
- 3 想像画②：色形を工夫し表現する・総括
- 4 子どもの造形表現の読み取り方について
- 5 美術の誕生と歴史
- 6 幼児期の感触あそび
- 7 子どもの眼と感性
- 8 紙による造形
- 9 立体による造形表現の発達
- 10 紙粘土の特徴と発達
- 11 紙粘土制作
- 12 折り紙による造形
- 13 切り紙制作
- 14 土粘土による造形
- 15 豊かな感性を育むための造形表現活動
- 16 定期試験

●到達目標

1. 「つくる」活動の基礎的な知識や技能、ねらいを習得する
2. 様々な課題制作を通して、「つくる」活動の豊かさを味わう
3. 「つくる」活動に関して、適切な指導や援助のあり方を理解する

●授業時間以外の学習

- ・授業に関する自主制作に取り組み、表現の奥深さを感じる
- ・美術館での鑑賞学習を通して、感性を養う

●テキスト・参考書等

「幼児造形の研究」編著 辻泰秀 萌文書林
* 随時資料を配布

●成績評価

受講態度（10%）・レポート（10%）
作品評価（40%）・試験60分（40%）

●オフィスアワー

月曜日・金曜日 16:25~17:55（研究室）

●備考

体育Ⅰ（小幼保コース）

担当者： 小松 黒原

●科目の概要

小学校体育で取り扱う運動について演習を行い、各運動領域の内容についての理解を深める。さらに、運動に親しみ小学校教員として必要な基礎的な技能を養う。授業の内容としては、陸上運動・ボール運動・器械運動・体づくり運動・表現運動を取り上げる。

●授業計画

- | | |
|-----------------------------|---|
| 1 オリエンテーション | B |
| 2 基本の運動 体づくり運動 | B |
| 3 器械運動系 マット運動 | B |
| 4 跳び箱運動 | B |
| 5 ボール運動系 ゴール型 | B |
| 6 ネット型 | B |
| 7 ベースボール型 | B |
| 8 陸上運動系 | B |
| 9 表現運動①オリエンテーション 動く楽しさから表現へ | A |
| 10 表現運動②即興教育 | A |
| 11 表現運動③リズム作り | A |
| 12 表現運動④リズムとイメージ | A |
| 13 表現運動⑤動きの発展—運動の5要素を利用して— | A |
| 14 表現運動⑥作品形式 | A |
| 15 表現運動⑦発表・評価 | A |
| 16 実技試験 | |

●到達目標

1. 小学校体育の運動領域の内容を理解できる
2. 小学校体育教員として必要な基礎的な技能を身につける
3. 学んだ知識・技術を駆使し運動や創作・発表等が実践できる

●授業時間以外の学習

- ・授業開始以前にシラバスを読み、授業の見通しを立てておく
- ・授業で出される課題に個人やグループで取り組み、授業以前に十分準備し、担当授業以前に相談に来ること

●テキスト・参考書等

参考書：三浦弓枝編著：「ダンス学習指導」光文書院
マリオン・ゴフ著：「ダンスの教え方・学び方」玉川大学出版部
鈴木直樹・鈴木理・土田了輔・廣瀬勝弘・松本大輔著：「だれもがブレイの楽しさを味わうことのできるボール運動・球技の授業づくり」教育出版

●成績評価

授業中の課題（90%）受講態度（10%）

●オフィスアワー

月曜日午後 研究室（小松）
水曜日13:00~16:00 研究室（黒原）

●備考

単位互換科目
A: 小松恵理子 B: 黒原貴仁

体育Ⅰ（幼保コース）

担当者： 小松 恵理子

●科目の概要

幼児教育における「領域健康」や「領域表現（身体表現）」を中心に、多くの場面で必要とされる美しく機能的に動ける身体を育成するとともに、それらの活動において必要とされる創作舞踊や体操の基礎的理論と技術を習得し、指導者としての資質の向上を目指す。

●授業計画

- 1 基礎的舞踊技術1：動く身体を実感し、動く楽しさを感じる
- 2 基礎的舞踊技術2：動く身体を実感し、動く楽しさを感じる
- 3 即興教育法：楽しく運動を作り出す方法を学ぶ
- 4 リズム原論：「動きのリズム」について学ぶ
- 5 空間論：表現と空間の意味を学び、効果的な使い方を学ぶ
- 6 運動分析論：R. ラバンの運動分析論を学び、活用する
- 7 形式論：作品のまとめ方・伴奏音編集方法について学ぶ
- 8 作品創作1：授業で学んだ内容を活用し、作品創作を行う
- 9 作品創作2：授業で学んだ内容を活用し、作品創作を行う
- 10 作品創作3：授業で学んだ内容を活用し、作品創作を行う
- 11 作品発表：グループ毎に創作作品発表を行う
- 12 手具の使用法（輪）
- 13 手具の使用法（ボール）
- 14 手具の使用法（リボン）
- 15 手具体操の創作と集団演技のまとめ方について
- 16 実技試験

●到達目標

1. 基礎的舞踊技術や体操技術を身につける
2. 基礎的創作舞踊理論や集団演技のまとめ方を身につける
3. 学んだ知識・技術を駆使し作品創作・集団演技の発表が行える

●授業時間以外の学習

- ・授業以前にシラバスを読み、授業の見通しを立てておくこと
- ・授業で出される課題に個人やグループで取り組み、授業以前に十分準備し、担当時以前に相談に来ること

●テキスト・参考書等

参考書：
三浦弓枝編著：「ダンス学習指導」光文書院
マリオン・ゴフ著：「ダンスの教え方・学び方」玉川大学出版部

●成績評価

授業中の課題発表・レポート等の提出物（90%）
受講態度（10%）によって行う。

●オフィスアワー

月曜日 午後（研究室）

●備考

単位互開放対象科目

教職概論

担当者： 池田 山元

●科目の概要

本講義は幼稚園教諭等を希望する学生が、教職の意義及び教諭の役割、その職務内容を理解し、進路選択を吟味する機会を提供するものである。具体的な実践内容を提供するだけでなく、法的な意味での役割を知る中でも進められていく。本講義を通して、自らの適性を省みるとともに、専門職への期待が高まることを期待する。なお、本講義は前半を山元、後半を池田がそれぞれ担当する。

●授業計画

- 1 オリエンテーション——自分を知ることと将来の希望
- 2 教諭の役割——場を整える仕掛け人、言葉の魔術師
- 3 教諭の資質——子どもと同じ目線？
- 4 遊びの設定と教材研究——「てんでん遊び」と遊びの流れ
- 5 遊びの複合的な教育力——「ながら」勉強のすすめ
- 6 子どもの発達をおさえた遊びと教諭のかかわり
- 7 子どもが貪欲に遊ぶこと、教諭が貪欲に知ること
- 8 乳幼児たちの現在——養育環境の変容
- 9 学校・保育施設をめぐる事故・事件Ⅰ——その動向
- 10 学校・保育施設をめぐる事故・事件Ⅱ——具体的ケースから
- 11 保育者等の安全配慮義務Ⅰ——債務不履行法理
- 12 保育者等の安全配慮義務Ⅱ——不法行為法理
- 13 現行幼稚園養育体制——その当否の検証
- 14 これからの幼児教育と幼稚園教育法制度
- 15 総括
- 16

●到達目標

1. 教職の意義
2. 教諭の役割
3. 教諭としての資質の吟味

●授業時間以外の学習

- ・導入的科目であるため、特段の事前学習は必要ないが、ニュースや新聞などで日ごろから子どもに関する情報や子どもをめぐる諸問題に関心を持つようにしてもらいたい

●テキスト・参考書等

テキスト：
・山元は使用せず
・池田の講義では、池田哲之ほか著『人間関係能力育成の研究』（くらすなや書房）を使用する

●成績評価

・定期試験に代え、教員各々にレポートを提出し、そのレポートの評点を合算して評価する。

●オフィスアワー

池田：月曜日 16：30～17：30（研究室）
山元：水曜日、木曜日を除く 講義以外の午後（研究室）

●備考

保育原理

担当者： 丸田 愛子

●科目の概要

保育の意味や役割を理解した上で、施設保育における目的、思想や歴史、内容、方法など基礎的事項を広く学習する。また、保育所保育指針のポイントを読み解きながら、現代の保育に求められていることを理解する。

これらの学習を通して、保育所・幼稚園・認定こども園という職場や保育士・幼稚園教諭という専門的な仕事を理解することで、保育実習や教育実習などその後の実践的な学習の準備を行う。

●授業計画

- 1 オリエンテーション（私たちの子ども観と保育について）
- 2 保育の意義（養護と保育、子どもの最善の利益）
- 3 保育の目的（保育所と幼稚園、認定こども園、関連法令）
- 4 保育の歴史と思想（1）：世界の保育史（最初期）
- 5 保育の歴史と思想（2）：世界の保育史（近代）
- 6 保育の歴史と思想（3）：日本の保育史、諸外国の現代保育
- 7 保育の原理（1）：養護と保育の一体性
- 8 保育の原理（2）：子どもの遊びと活動
- 9 保育の原理（3）：子育て支援、保護者に対する援助
- 10 保育の内容（1）：保育内容、内容とねらい
- 11 保育の内容（2）：5領域、総合的な保育
- 12 保育の内容（3）：発達過程、子どもに応じた援助
- 13 保育の方法（1）：保育のさまざまな形態
- 14 保育の方法（2）：保育の計画、評価
- 15 現代における保育の課題（生活環境、子育て、保育制度）
- 16

●到達目標

1. 「保育」の役割や施設保育の目的を理解している
2. 保育の思想や歴史、制度を理解し、現代保育の課題を学ぶ
3. 保育士・幼稚園教諭という専門的な仕事を理解している

●授業時間以外の学習

配布プリントは、資料として各自整理する。また、それらをもとに事前・事後学習をし、不明な点を残さないようにする

●テキスト・参考書等

[テキスト] 森上史朗・大豆生田啓友（編者）
『よくわかる保育原理』ミネルヴァ書房
[参考文献等] 大場幸夫（監修）
『保育所保育指針ハンドブック』学習研究社

●成績評価

受講態度およびレポート等の提出状況（20%）定期筆記試験（80%）による総合評価とする ※筆記試験は90分で実施

●オフィスアワー

水・金曜日 16：30～18：00（丸田研究室）

●備考

教育心理学

担当者： 坪井 敏純

●科目の概要

乳幼児から生涯にわたって「学ぶ」ことが中心的なテーマである。特に乳幼児から児童期における保育や教育に携わる保育士や教員が行う、子どもの「学び」に対する適切な指導・援助の在り方とはどのようなものかを考え、理解し、実践する力を養うことを目的としている。

また、教育・保育において、保育士や教員が行う指導・援助には、いわゆる「教授－学習過程」のほかに、発達上の問題や学級にかかわる問題なども重要なテーマであり、その理解を深めることがもう一つの目標である。

●授業計画

- 1 教育心理学の概要と動機理論（生理的動機と社会的動機）
- 2 動機づけ（内発的動機；好奇心と有能感）
- 3 動機づけ（自己統制感、原因帰属、など）
- 4 動機づけ（外発的動機）
- 5 学習理論（学習理論の概説）
- 6 学習理論（連合理論1）
- 7 学習理論（連合理論2）
- 8 学習理論（認知理論とモデリング）
- 9 学習指導法（知識と理解；有意味需要学習）
- 10 学習指導法（発見学習・プログラム学習）
- 11 教育評価と評価に及ぼす要因
- 12 学級経営
- 13 発達の過程（乳幼児期）
- 14 発達の過程（児童期から青年期）
- 15 教育相談と子現代の子どもが抱える問題
- 16 定期試験

●到達目標

1. 学ぶ意欲を引き出す指導・援助の方法がわかる
2. 学習理論がわかる
3. 代表的な学習指導法（教授法）の特徴とその効果がわかる

●授業時間以外の学習

・授業計画に沿って、予習として各単元に関連した実生活や経験をレポートする。復習は、質問事項と学習内容の確認を配布したプリントで行う。関連した事例資料を読んで、理解を深める

●テキスト・参考書等

テキスト：実践につながる教育心理学（北樹出版）

●成績評価

筆記試験（75%）授業態度（15%）課題（レポート等）（10%）で評価

●オフィスアワー

水曜日 16：30～18：00（研究室）

●備考

単位互換科目、他学科開放科目

教育制度論

担当者： 池田 哲之

●科目の概要

わが国における公（学校）教育制度の変遷を知り、現代日本における公教育の意義と機能を理解する。

●授業計画

- 1 幕末期の教育概況－寺子屋・塾・藩校－
- 2 「学制」の布達－日本における近代学校教育制度の萌芽－
- 3 森有礼の教育政策－諸学校令－
- 4 教育勅語（教育ニ関スル勅語）の渙発
- 5 大正期の教育動向－新教育運動－
- 6 決戦下の教育と子ども－昭和戦時教育体制－
- 7 占領支配下の教育改革－4大教育指令－
- 8 旧教育基本法の制定目的
- 9 高度経済成長と教育政策
- 10 臨時教育審議会の設置目的と審議概要
- 11 子どもの変容－学校の無力化－
- 12 改正教育基本法－戦後公教育の転換－
- 13 道徳の「教科」化－可能性と課題－
- 14 安倍政権と教育改革
- 15 総括
- 16 定期試験

●到達目標

1. 「国民国家」の形成と公教育の関係について理解
2. 戦後教育改革の意義および問題点を知る
3. 現代公教育像を構築しうる知見を養う

●授業時間以外の学習

- ・日頃より教育問題に関心を持ち、新聞などにおける教育関連記事を読むよう努めること

●テキスト・参考書等

指定テキスト：池田哲之、他著『改訂版 現代教育本質論』学文社
参考書：苫野一徳『どのような教育が「よい」教育か』講談社
諏訪哲二『生徒たちには言えないこと』中央公論新社
広田照幸『日本人のしつけは衰退したか』講談社

●成績評価

筆記試験90点、受講姿勢・意欲10点

●オフィスアワー

月曜日 16:30～17:30 研究室（西館414）

●備考

単位互換開放対象科目

上記記載内容は、受講生の理解度、受講生数などにより、授業開始後に変更となるばあいもあります

発達心理学Ⅰ

担当者： 坪井 敏純

●科目の概要

乳幼児から生涯にわたる人間の発達の变化の特徴を理解し、人間理解を深めることがこの授業の目標である。

また、発達過程に応じた子どもへの指導・援助のあり方を学ぶと同時に、発達障害を含めた特別支援教育について理解を深める。

●授業計画

- 1 発達心理学を学ぶ
- 2 生涯発達の道筋
- 3 エリクソンの発達理論
- 4 生命の芽生えから誕生まで
- 5 幼児期の認知発達
- 6 アタッチメント理論
- 7 乳幼児期の言語発達
- 8 自己の発達と社会性の発達
- 9 児童期の認知発達
- 10 学校と子ども
- 11 青年期の対人関係と自己の発達
- 12 アイデンティティの発達
- 13 キャリア発達と親になること
- 14 発達障害とその支援（教育相談）
- 15 心理的問題とその支援（教育相談）
- 16 定期試験

●到達目標

1. 発達の理論を理解する
2. 生から死までの生涯発達の視点で人を理解する
3. 障害児の特徴と発達を理解する

●授業時間以外の学習

- ・学んだ内容を自分にあてはめて、自己理解を深めてみよう
保育者・教育者として適切な指導や支援を考えてみよう

●テキスト・参考書等

テキスト：問いからはじめる発達心理学（有斐閣）

●成績評価

筆記試験（70%）授業態度（15%）課題（レポート等）（15%）で評価

●オフィスアワー

水曜日 16:30分～18:00（研究室）

●備考

単位互換科目、他学科開放科目

発達心理学 I

担当者： 平嶋 慶子

●科目の概要

人の生涯にわたる発達変化を概観し、発達についての基礎理解を図る。

保育者に必要な乳幼児～児童の発達を理解し、保育と発達の関係とその重要性について考える。

●授業計画

- 1 序：人の一生涯の発達と保育・教育の必要性
- 2 発達とは①発達の定義と発達の原則
- 3 発達とは②発達段階
- 4 発達とは③発達の規定因（遺伝と環境、相互作用）
- 5 発達のはじまり～胎児期～乳児期
- 6 幼児期前半：身辺自立とことば
- 7 幼児期後半：遊びと自己制御、
- 8 児童期①認知・思考と学習
- 9 児童期②社会性・道徳性と学校生活
- 10 思春期～青年前期
- 11 青年期
- 12 成人（壮年期～老人期）
- 13 発達のみずき、障碍とその支援
- 14 集団保育と発達
- 15 総括：保育者として生きる
- 16 定期試験

●到達目標

1. 発達の概念と発達の原則を学ぶ 2. 発達理論を理解し、それぞれの発達段階の特徴を知り自身や他者の理解を深める 3. 子どもの発達と保育の関係を学び、その重要性を考察する

●授業時間以外の学習

・配布資料は講義後も熟読し、毎回持参のこと。キーワードは講義中でも検索可、調べたことはノートやプリントに書きこんでよくよい。

●テキスト・参考書等

テキスト：
保育・教育ネオシリーズ5 発達の理解と保育の課題
岸井勇雄ほか監修 無藤隆編著 同文書院
参考文献は随時紹介する

●成績評価

受講態度 20% 筆記試験 80%

●オフィスアワー

月・水・金曜日 16:25～17:55 研究室

●備考

単互換開放対象科目

国語科教育法

担当者： 瀬戸口 修

●科目の概要

「国語科教育」の沿革・目標・内容・方法について学ぶ。『学習指導要領』をとりたて、教材分析・教材研究のしかたを身につける。「学習指導案」を作成し、それをもとに、教壇にたてるよう「国語教師」の基礎を身につける。

●授業計画

- 1 「国語科教育」と「国語教育」「日本語教育」との差異
- 2 法的規定（憲法・基本法・学校教育法・同施行規則）
- 3 学習指導要領の解説 I
- 4 学習指導要領の分析
- 5 学習指導要領・・・教採試験対応
- 6 教材分析①・・・教材 A・B
- 7 教材分析②・・・教材 C・D
- 8 教材研究①・・・グループ発表
- 9 教材研究②・・・グループ発表
- 10 教材研究③・・・グループ発表
- 11 「指導計画」・・・グループ発表
- 12 ブックトーク①：「私のお薦めの1冊」
- 13 ブックトーク②：「私のお薦めの1冊」
- 14 授業者による「模擬授業」
- 15 「本時学習指導案」の作成・提出
- 16

●到達目標

1. 国語科教育の沿革・目標・内容などを学ぶ
2. 教材分析・教材研究・指導案作成に習熟する
3. 国語教師力を身につける

●授業時間以外の学習

・教育問題・情報にアンテナをたてて、自己の意見・考え・教育観を培う
・教育実習や教採試験に備える

●テキスト・参考書等

テキスト：
野地潤家・湊吉正：『新編小学校国語科教育法』
文部科学省：『小学校学習指導要領解説 国語編』

●成績評価

各種レポート（20%）と最終評価用レポート（80%）

●オフィスアワー

月曜日 5・6限（研究室）

●備考

社会科教育法

担当者： 松崎 康弘

●科目の概要

前半は、小学校社会科教育の目標・方法・評価について理解するために、学習指導要領解説の読み込みと具体的な実践事例の検討を行う。後半は前半の学習内容を応用するためにグループワークで模擬授業を行い、社会科の授業に必要な技能等について体験的に学ぶ。これらの学習を通じて、よりよい社会科授業を行おうとする意識も高めていきたい。

●授業計画

- 1 インTRODクッション（自らの社会科経験を振り返る）
- 2 中学年（主に第3学年）の目標と実践事例を学ぶ
- 3 中学年（主に第4学年）の目標と実践事例を学ぶ
- 4 第5学年の目標と実践事例を学ぶ
- 5 第6学年の目標と実践事例を学ぶ
- 6 社会科の教材開発の在り方を学ぶ
- 7 社会科の授業技術について学ぶ
- 8 社会科の評価の在り方について学ぶ
- 9 社会科の学習指導案の作成方法について学ぶ
- 10 模擬授業を作成する
- 11 中学年（主に第3学年）の内容についての模擬授業を行う
- 12 中学年（主に第4学年）の内容についての模擬授業を行う
- 13 第5学年の内容についての模擬授業を行う
- 14 第6学年の内容についての模擬授業を行う
- 15 総括（小学校社会科の本質を考える）
- 16 定期試験

●到達目標

1. 社会科教育の目標・方法・評価について理解する
- 2.1の学習成果を活用して模擬授業実践ができる
3. 模擬授業により協働して活動を構成することができる

●授業時間以外の学習

・授業内容をしっかりと理解するために予習・復習するとともに、特に模擬授業作成に当たっては現地調査や図書館での資料収集等を積極的に行ってほしい

●テキスト・参考書等

テキスト：文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』（東洋館出版社）
参考書：安野功編著『小学校社会 板書で見る全単元・全時間の授業のすべて』（東洋館出版社）ほか

●成績評価

筆記試験80% 模擬授業20%

●オフィスアワー

火曜日 14：30～16：20（研究室：西411）

●備考

単位互換開放科目

算数科教育法

担当者： 内田 豊海

●科目の概要

算数を学習する目的と意義を考察し、そのためには、どのような内容を、どのような系統性のもとに、どのような教材を用いて、いかに学習すべきかを理解することを目標とし、最終的には、実践に活かせる活用力を養うことを目指す。

また、算数を教えるためには、その意義だけでなく、算数的活動を通し、楽しさを教師自身が実感する必要がある、この授業を通し、学ぶこと、考えることの面白さと深さを発見していく講義構成とする。

●授業計画

- 1 ガイダンス：小学校で習ってきた算数を振り返って
- 2 算数教育の目標1：算数の特徴と算数教育の現状と課題
- 3 算数教育の目標2：学習指導要領（目的）の変遷
- 4 算数教育の内容1：学習指導要領の内容と系統性
- 5 算数教育の内容2：4つの領域における指導内容
- 6 算数学習指導1：様々な学習・理解の理論
- 7 算数学習指導2：算数的活動
- 8 算数学習指導3：問題解決および数学的思考方
- 9 算数学習指導4：教材開発
- 10 算数教育の評価：評価の意義、種類、方法
- 11 算数の授業1：授業ビデオの鑑賞・討論
- 12 算数の授業2：学習指導案の作成
- 13 模擬授業と討論（授業研究）1
- 14 模擬授業と討論（授業研究）2
- 15 総括：算数教育の意義の再検討
- 16 定期試験

●到達目標

1. 算数科の変遷を概観し、これから求められる教育を考察する
2. 算数の目標や内容、評価の観点に関する知識を習得する
3. 授業の計画・実施・評価・改善といった、実践的な能力を養う

●授業時間以外の学習

・適宜提示される課題をまとめ、また、模擬授業を作成する

●テキスト・参考書等

テキストは使用しない
『小学校学習指導要領解説 算数編』文部科学省

●成績評価

定期試験の成績（50%） 受講態度（15%）
演習での発表および提出物（35%）

●オフィスアワー

月曜日：終日 水曜日：5コマ目以外（研究室：西館412）

●備考

保育内容総論

担当者： 坪井 敏純

●科目の概要

保育所保育指針、幼稚園教育要領および保育要領における保育の内容の「ねらい」と「内容」、およびその配慮事項と保育計画について理解し、保育の目標を具体的に達成するための基本的な内容とその実践について学ぶことがこの授業の目的である。

●授業計画

- 1 保育の目的と目標
- 2 保育内容の構造（領域とねらい、内容の理解）
- 3 発達過程と保育内容
- 4 各領域のねらいと内容および保育計画（健康）
- 5 各領域のねらいと内容保および保育計画（人間関係）
- 6 各領域のねらいと内容および保育計画（言葉）
- 7 各領域のねらいと内容および保育計画（環境）
- 8 各領域のねらいと内容および保育計画（表現）
- 9 教育・保育実習の概要
- 10 教育・保育実習の記録
- 11 保育の理解と観察記録
- 12 保育計画（指導案）の書き方
- 13 保育計画の立案1
- 14 保育計画の立案2
- 15 保育計画の実施
- 16

●到達目標

1. 養護及び領域のねらいと内容を理解する
2. 適切な指導・援助のあり方を理解する
3. 保育計画を立案することができる

●授業時間以外の学習

- ・保育雑誌などの実際の保育を調べる
- ・ボランティアなどの機会を生かして保育に触れる

●テキスト・参考書等

- ・幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説
- ・0～6歳 子どもの発達と保育（学研）
- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針（内閣府）
- ・保育指導案大百科事典（一藝社）

●成績評価

受講態度（15%）課題（レポートなど）（85%）

●オフィスアワー

水曜日 16:30～18:00（研究室）

●備考

単位互換科目、他学科開放科目

保育内容（健康）

担当者： 大村 一光

●科目の概要

幼児期の運動や遊びは、身体の発育、発達に多大な影響をもたらすのみならず、精神的、社会的発達に対しても大きく影響をおよぼす。したがって、幼児期の発達特性をよく理解し、発育・発達に応じた保育援助のあり方や運動、遊びの持つ特性を理解しておくことは重要なことである。ここでは、上述した観点から、乳幼児期の健康に関する基礎的理解をめざす

●授業計画

- 1 幼児期の健康のとらえ方
- 2 「健康」のねらい、指導の基本
- 3 身体の発育・発達Ⅰ（身長、体重の発育について）
- 4 身体の発育・発達Ⅱ（個人差の理解）
- 5 運動機能の発達Ⅰ（幼児期の基礎的運動能力）
- 6 運動機能の発達Ⅱ（近年の運動能力の実態と課題）
- 7 運動機能の発達Ⅲ（遊びの理解と運動能力）
- 8 保育計画における健康面での留意点Ⅰ（春、夏編）
- 9 保育計画における健康面での留意点Ⅱ（秋、冬編）
- 10 運動施設における怪我の実態とその対策
- 11 運動遊びの実際Ⅰ（発達に伴う遊びの変化の理解）
- 12 運動遊びの実際Ⅱ（身体を操作する遊具を使った遊び）
- 13 運動遊びの実際Ⅲ（さまざまな素材を用いた遊び）
- 14 運動遊びの実際Ⅳ（鬼遊び、伝承遊び）
- 15 各種行事と運動
- 16 定期試験

●到達目標

1. 教育現場の実情を理解する
2. 幼児の基本的理解ができるようにする
3. 幼児との積極的関わりができるようにする

●授業時間以外の学習

- ・各自の幼児期の振り返りや保護者や祖父母等の幼児期における遊びや健康管理等についても聞き取り調査を行い、レポート等による提出をめざす

●テキスト・参考書等

参考書：
運動遊び、井上勝子編、健帛社
授業時に、各種資料を配布する

●成績評価

定期試験あるいはレポート提出（60%）、受講態度等（40%）

●オフィスアワー

月・火曜日以外の昼食時間（研究室）

●備考

単位互換科目

保育内容（言葉）

担当者： 平嶋 慶子

●科目の概要

保育内容（言葉）の領域について学び、実技の習得を図る。
保育内容・領域の概念を学び、ことばの発達と言語発達理論を理解する。またお話し（絵本、紙芝居）、指遊び、折り紙、絵かき歌などを4人1グループで発表したり他班の発表を見ることでたくさんの保育教材や保育技術を知り、習得する。
授業は前半を実技発表、後半を講義とする。

●授業計画

- 1 オリエンテーション:授業の組み立ての説明とグループ分け、課題
- 2 領域（言葉）とは
- 3 模範演示・ことばの機能と特徴
- 4 実技発表・ことばの発達1. 前言語期
- 5 実技発表・ことばの発達2. 移行期
- 6 実技発表・ことばの発達3. 言語期①文法の獲得
- 7 実技発表・ことばの発達4. 言語期②二次的ことばの習得
- 8 実技発表・ことばの発達5. ことばとコミュニケーション
- 9 実技発表・言語発達を説明する理論①学習説
- 10 実技発表・言語発達を説明する理論②生得説
- 11 実技発表・ことばを育てる環境
- 12 実技発表・保育者の役割と援助
- 13 実技発表・遊びとことば：（言葉）のさまざまな活動内容
- 14 実技発表・人間の発達とことばの関係
- 15 実技発表・総括
- 16

●到達目標

1. ことばについて学ぶ
2. 言語発達の姿と言語発達理論を理解する
3. 保育実技（お話し、指遊びほか）を発表し習得する

●授業時間以外の学習

4人1グループで①実技発表の内容を下調べしてから演目を決め担当教員に届ける②発表用レジュメを作成する③発表予定の3週間からリハーサルを担当教員の前で行い、合格してから発表する

●テキスト・参考書等

保育・教育ネオシリーズ20 保育内容・言葉 岸井勇雄ほか監修
大田光洋編著 同文書院
絵本のひみつ 余郷裕次 南日本新聞社 など授業中に随時紹介する

●成績評価

- ①実技発表②レジュメ作成③レポート提出④受講態度20%
①②③の一つでも欠けると不可

●オフィスアワー

月・水・金曜日 16:25~17:55 研究室
（リハーサルは要予約）

●備考

単位互換開放科目

保育内容（表現Ⅰ）

担当者： 松下 茉莉香

●科目の概要

幼児期から児童期における、描く活動を中心とした造形表現活動について制作や教材研究、講義を通して学ぶ

●授業計画

- 1 幼児期の造形表現について
- 2 絵の具の表現①：実践例から絵の具のよさや特性を学ぶ
- 3 " ②：実験制作を通し発達に合わせた支援を学ぶ
- 4 イメージを基にした描く活動①：主題から発想する
- 5 " ②：色形を工夫し表現する
- 6 幼児期の子どもの絵の発達について①：錯画期～象徴期
- 7 幼児期の子どもの絵の発達について②：図式期
- 8 様々な描く活動を学ぶ①：モダンテクニックを体験
- 9 " ②：課題制作・まとめ
- 10 描く活動を中心とした教材研究①：案の発表と意見交換
- 11 " ②： "
- 12 保育実践における知識と技能：保育実践を見て学ぶ
- 13 : パネルシアターの制作Ⅰ
- 14 : パネルシアターの制作Ⅱ
- 15 : 制作のまとめ
- 16 定期試験

●到達目標

1. 児童期までの造形表現活動の教育的意義と発達過程を理解する
2. 制作を通して表現の豊かさを感じ基本的な表現技能を習得する
3. 児童期までの子どもの発達に沿った支援の在り方を身につける

●授業時間以外の学習

・各自で美術館に向き作品鑑賞を通して感性を養う
・⑥回目・⑦回目：テキストと配布したプリントをよく予習・復習すること

●テキスト・参考書等

テキスト：「幼児造形の研究 保育内容「造形表現」」
辻 泰秀 萌文書林

●成績評価

受講態度（10%） レポート（10%）
筆記試験90分間で実施（40%） 作品評価（40%）

●オフィスアワー

月曜日 12:55~14:25 研究室

●備考

社会福祉

担当者： 赤瀬川 修

●科目の概要

現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷、社会福祉の制度や実施体系、社会福祉援助、社会福祉の動向及び課題等について理解を深めることを目指して授業を行う

●授業計画

- 1 社会福祉の理念と概念
- 2 社会福祉の歴史
- 3 社会福祉の法律と行政組織（1）
- 4 社会福祉の法律と行政組織（2）
- 5 社会福祉援助技術
- 6 生活保護制度
- 7 児童家庭福祉（1）
- 8 児童家庭福祉（2）
- 9 障害者福祉（1）
- 10 障害者福祉（2）
- 11 障害者福祉（3）
- 12 高齢者保健福祉
- 13 ひとり親家庭の福祉（1）
- 14 ひとり親家庭の福祉（2）
- 15 地域福祉、医療福祉
- 16 定期試験

●到達目標

1. 社会福祉に関する基本的理念、概念、歴史等を理解する
2. 社会福祉に関する法律、制度、施設、専門職について理解する

●授業時間以外の学習

- ・授業で示す事前学習課題に取り組む
- ・書籍、新聞、インターネット等で社会福祉の動向について調べる

●テキスト・参考書等

テキスト：「総合福祉の基本体系」相澤謙治ら 勁草書房
参考図書：「社会福祉小六法2015」ミネルヴァ書房

●成績評価

レポート等の提出物（30%）受講態度（10%）定期試験（60%）

●オフィスアワー

水曜日 16：25～17：55 研究室

●備考

単位互換科目

子どもの保健Ⅰ

担当者： 宇都 弘美

●科目の概要

健康の概念を再確認し、子どもの健康管理に必要な知識について学ぶ。具体的には、まず小児期の区分や子どもの発達について理解する。次に、統計から見た子どもの健康に関する現状を確認し、それに対する母子保健施策を学ぶ。さらに、子どもが罹りやすい病気とその対応や、事故防止と安全対策についても理解を深める。

●授業計画

- 1 保育保健の意義・範囲、健康の概念、子どもの定義と区分
- 2 出生前の成長と出生後の身体発育
- 3 生理機能の発達
- 4 運動機能の発達
- 5 精神発達
- 6 子どもにかかわる統計
- 7 子どものための保健対策（母子保健行政）
- 8 新生児・未熟児
- 9 出生前の原因による病気
- 10 病気の予防、子どもの病気の主な症状
- 11 子どもの病気①
- 12 子どもの病気②
- 13 子どもの病気③
- 14 子どもの事故と対策
- 15 性教育と性感染症
- 16 定期試験

●到達目標

1. 小児期の区分や子どもの発達について理解する
2. 統計から見た健康に関する現状を知り、それに対する施策を学ぶ
3. 子どもが罹りやすい病気とその対応、事故と安全対策を学ぶ

●授業時間以外の学習

- ・事前学習として授業内容をシラバスで確認し予習をしたり、授業後に約1時間程度の復習をして、授業内容の理解の確認を毎回する

●テキスト・参考書等

テキスト：『保育を学ぶ人のための子どもの保健Ⅰ』：堀浩樹他
編著，建帛社
参考文献：『子どもの保健 第4版』：巷野悟郎著，診断と治療社

●成績評価

筆記試験（90分で実施）100%

●オフィスアワー

水曜日・金曜日 16：30以降（宇都研究室）

●備考

単位互換科目

音楽Ⅱ

担当者： 新村 稲森

●科目の概要

- クラスを2グループに分け、前半と後半で以下の演習を実施する
- (1) 各人が幼児曲を使用した歌唱、弾き歌い及び音楽基礎理論の演習を実施する(45分)
 - (2) ピアノレッスンを通してバイエル95番まで及び指定された幼児曲の弾き歌いが出来るように演習する(45分)
 - (3) 課題曲を終了した学生には選択曲を準備し、評価に加える

●授業計画

- 1 集団・個人指導1(テキスト19番、さようならのうた)
- 2 集団・個人指導2(テキスト29番、お弁当)
- 3 集団・個人指導3(テキスト39番、おかえりのうた)
- 4 集団・個人指導4(へ長調音階・カデンツ、チューリップ)
- 5 集団・個人指導5(テキスト46番、まつぼっくり)
- 6 集団・個人指導6(二長調音階・カデンツ、めだかの学校)
- 7 集団・個人指導7(あわてんぼうのサンタクロース)
- 8 集団・個人指導8(テキスト44番)
- 9 集団・個人指導9(犬のおまわりさん)
- 10 集団・個人指導10(イ長調音階・カデンツ、サンタクロース)
- 11 集団・個人指導11(どんぐりころころ)
- 12 集団・個人指導12(ふしぎなポケット)
- 13 集団・個人指導13(バイエル95番、線路は続くよどこまでも)
- 14 集団・個人指導14(試験曲、未履修曲1)
- 15 集団・個人指導15(試験曲、未履修曲2)
- 16 定期試験

●到達目標

1. 幼児教育に必要な音楽の基礎理論や歌唱、弾き歌いについてさらに演習すると共に、音楽の一般的能力を高める

●授業時間以外の学習

- ・演習に際しては、事前に各人の幼児曲やピアノ曲について事前に練習する

●テキスト・参考書等

テキスト：
「うたとあそび」(鹿児島私立幼稚園協会編)
「ピアノテキスト」(全国大学音楽教育学会九州学会編)

●成績評価

1. ピアノ実技試験2曲(バイエル95番以降、幼児曲)50%
2. 平常点(小テスト、受講態度等)50%

●オフィスアワー

随時(新村研究室)

●備考

授業計画課題曲を終了しないとピアノ実技期末試験は受験できない

体育Ⅱ

担当者： 小松 黒原

●科目の概要

前半では、幼稚園教育要領・保育指針に示される「健康」や「表現」指導の基礎となる音を伴う運動教材の習得や模擬授業等の指導場面の体験を通して、基礎的身体支配や指導に関する知識や技術の蓄積を目指す。具体的には、幼児を対象とした音を伴う運動教材の習得や教材の制作・保育案作成・模擬授業等を行う。後半では、幼児期における体力および運動技能について理解を深め、講義や実践をとおして、発達段階に応じた運動遊びの意義や重要性について学習を進めていく。

●授業計画

- 1 幼稚園教育要領・保育指針と運動教材の関連について A
- 2 運動教材の習得及び指導方法について①(教材と発達) A
- 3 運動教材の習得及び指導方法について②(導入・示範方法) A
- 4 運動教材の習得及び指導方法について③(保育者との交流) A
- 5 運動教材の習得及び指導方法について④(集団誘導・安全) A
- 6 運動教材の制作①(制作法について説明) A
- 7 運動教材の制作②(原型発表/手直し) A
- 8 運動教材の制作③(最終発表/VTR撮影) A
- 9 幼児期の体力について① B
- 10 幼児期の体力について② B
- 11 幼児期の運動技能について① B
- 12 幼児期の運動技能について② B
- 13 幼児期の運動遊び①(鹿児島県の実態をとおして) B
- 14 幼児期の運動遊び②(鹿児島県の実態をとおして) B
- 15 幼児期の運動遊び③ B
- 16 総括 B

●到達目標

1. 幼児教育に必要な音を伴う運動教材を身に付けることができる
2. 運動教材を用い、保育案作成や指導実践を行うことができる
3. 発達段階に応じた運動遊びを実践できる

●授業時間以外の学習

- ・授業以前にシラバスを読み、授業の見通しを立てておくこと
- ・授業で出される課題に個人やグループで取り組み、授業以前に十分準備し、担当時以前に相談に来ること

●テキスト・参考書等

テキスト：
保育所保育指針・幼稚園教育要領

●成績評価

受講態度(10%)
授業中の課題の発表・提出物等によって行う(90%)

●オフィスアワー

月曜日の午後 研究室(小松)
水曜日13:00~16:00 研究室(黒原)

●備考

COC科目
単位互換科目
A:小松恵理子 B:黒原貴仁

教育原理

担当者： 山元 有一

●科目の概要

子どもたちの身体的精神的健康を前提として、子どもたちの「意・情・知」を助長していくことが教育の使命である。幼児期ではそれは全体的なものとして進められていく。同時に、仲間としての意識を持ちながら、集団の一員として動けるための基礎作りも幼児期には必要である。本講義はこのことを具体的事例を含めてじっくり考えていきたい。

●授業計画

- 1 はじめに——自分の「学んだ（遊んだ）思い出とは？
- 2 園で何を学ぶか？——園生活と心の変化
- 3 園で何を学ぶか？——生活から学ぶこと
- 4 園で何を教えるか——五領域と「生きる力の基礎」
- 5 園でどう教えるか——何もしないことの奥義（環境設定）
- 6 事例：物語に見る自立——ヘンゼルとグレーテル
- 7 事例：家庭を持ち込む子どもたち——夜驚症
- 8 事例：子どもをめぐる諸問題——遊びの変化
- 9 事例：子どもをめぐる諸問題——虐待、歴史的事例
- 10 事例：子どもをめぐる諸問題——アトピー、アレルギー
- 11 子どもの発達を知ることと保育——移行対象、ワロン等
- 12 子どもの発達を知ることと保育——人間関係、ピアジェ等
- 13 どのような子どもを育てたいか？——各自の子ども像
- 14 どのような教諭になりたいか？——各自の教諭像
- 15 教育とは何か？——管理か、自由か？個性か、社会性か？
- 16

●到達目標

1. 教育の目的
2. 子ども理解
3. 指導力の基礎作り

●授業時間以外の学習

・前期の「教職概論」が事前学習の役割を果たしているため、その復習を行うこと。附属幼稚園実習後は本講義との関連づけを必ず試みる

●テキスト・参考書等

特に使用しない

●成績評価

筆記試験により評価する

●オフィスアワー

水曜日、木曜日を除く講義のない午後（研究室）

●備考

保育者論

担当者： 丸田 愛子

●科目の概要

保育士という専門職の役割や責務、倫理を理解した上で、保育者のあり方について学びを深める。また、保育士の職務内容を理解し、教育・保育の現場において必要な知識を身につける。その後、0歳から6歳までの子どもの発達に応じた援助や保育・教育の計画について理解を深める。これらの学びの総括として、自分なりの保育者像について考えをまとめ、自らが成長・自己発揮していけるような人材を育成することを目標とする。

●授業計画

- 1 オリエンテーション（保育者の資質と専門性について）
- 2 保育者の役割（制度と資格、責務、倫理）
- 3 保育者の仕事
- 4 保育における基本姿勢（1）：子ども理解
- 5 保育における基本姿勢（2）：保育者としての在り方
- 6 保育の計画：指導計画、保育記録
- 7 保育援助（1）：0歳児から1歳児
- 8 保育援助（2）：2歳児から3歳児
- 9 保育援助（3）：4歳児から5歳児
- 10 保育技術
- 11 保育における協働：家庭への子育て支援
- 12 保育における協働：職員間、地域社会との連携
- 13 保育者としての成長：反省、評価
- 14 保育者の専門性
- 15 総括：保育者像
- 16

●到達目標

1. 保育士の責務や倫理、社会的役割を理解している
2. 乳幼児の発達の特徴及び保育のポイントを把握している
3. 保育の現場で専門性を発揮し、自ら成長する心構えがある

●授業時間以外の学習

配布プリントは、資料として各自整理する。また、それらをもとに事前・事後学習をし、不明な点を残さないようにする

●テキスト・参考書等

- [テキスト] 森上史朗・大豆生田啓友（編者）
『よくわかる保育原理』ミネルヴァ書房
[参考文献等] 阿部明子・中田カヨ子（編者）
『保育における援助の方法』萌文書林

●成績評価

受講態度およびレポート等の提出状況（30%）
学期末レポート課題（70%）による総合評価とする

●オフィスアワー

火・水曜日 16：30～18：00（丸田研究室）

●備考

単位互換開放対象科目

教育方法の研究

担当者： 松崎 康弘

●科目の概要

主に小学校における様々なジャンルの教育実践の検討を通じて、児童の「生きる力」を育てるためにどのような教育方法が用いられ、どのような効果があるのかを学ぶ。

また、思考ツール等の活用について学び、小学校教育実習や将来の教師として効果的な実践を行えるようにすることを目指す。

さらに、小学校教育とは異なるジャンルの教育方法についても学び、相対的な理解を目指す。

●授業計画

- 1 インTRODクション（科目の目的の理解）
- 2 授業の在り方を学ぶ①（命の授業から）
- 3 授業の在り方を学ぶ②（GTを活用した授業から）
- 4 授業の在り方を学ぶ③（防災教育から）
- 5 授業の在り方を学ぶ④（創造力を培う授業から）
- 6 授業の在り方を学ぶ⑤（幼児教育との連携授業から）
- 7 学習方法の事例を学ぶ①（アイスブレイキング等）
- 8 学習方法の事例を学ぶ②（思考ツール）
- 9 学習方法の事例を学ぶ③（地域素材の活用）
- 10 子どもの学習成果の表現（学習発表会の事例から）
- 11 幼稚園教育実習Ⅰから教育方法について考える
- 12 NPOの活動から教育方法について考える
- 13 様々な教育機器の活用
- 14 教師の願いと教育方法（鹿児島市立小学校の実践から）
- 15 総括
- 16 定期試験

●到達目標

1. 教育方法の目的や効果、歴史等を理解できる
2. 主に小学校教育に必要な教育方法の技能を習得する
3. 効果的な教育実践を行おうとする意識を持つことができる

●授業時間以外の学習

・各課題について、理解や考察を深めるためのミニレポートを課すのでしっかりと記述すること

●テキスト・参考書等

テキスト：使用しない

参考書：グラハム・バイクほか著『地球市民を育てる学習』（明石書店）、大瀬敏昭『輝け！いのちの授業』（小学館）ほか

●成績評価

筆記試験80% ミニレポート20%

●オフィスアワー

火曜日 14:30～16:20（研究室：西411）

●備考

単位互換開放科目

生徒指導・進路指導

担当者： 松元 理恵子

●科目の概要

子どもの個性や能力を最大限に伸ばしていくためには、一人ひとりをより正しく、より深く理解しながら援助を行うことが大切である。「子どもの生きる力が育つ」という観点より、一人ひとりの子どもが自分の持ち味、個性を活かして豊かな自己実現をはかるための理論を具体的に学ぶ。そして、子どもにどのような援助や指導ができるかを考え、実践にうつすことができる意識を養い、子ども達へのかかわり方のポイントや将来の進路を選ぶ力を育てるための援助の仕方について理解を深める。

●授業計画

- 1 生徒指導の意義と特質（生徒指導とは何かを学ぶ）
- 2 学校内のシステム構成（学校内の組織と運営を学ぶ）
- 3 生徒指導の機能について（生徒指導の目標を学ぶ）
- 4 心理教育プログラム（体験学習）
- 5 道徳教育・特別活動と生徒指導（事例検討）
- 6 子どもの発達プロセス1（発達課題について）
- 7 子どもの発達プロセス2（仲間関係について）
- 8 「いじめ」の理解と対応1（いじめ被害者の対応）
- 9 「いじめ」の理解と対応1（いじめ加害者の対応）
- 10 不登校の理解と指導1（不登校の定義や支援について）
- 11 不登校の理解と指導2（不登校の事例検討）
- 12 集団不適応の理解と指導（事例検討）
- 13 進路指導と生徒指導（キャリア教育の定義を学ぶ）
- 14 ガイダンス・カウンセリングの基礎的理論
- 15 進路指導のすすめ方（体験学習）
- 16 定期試験

●到達目標

1. 子ども達が豊かな自己実現をはかるための理論を習得する
2. 生徒指導の教育的意義と課題を理解する
3. 実際の知識を習得し、実践力を習得する

●授業時間以外の学習

・次の授業でとりあげるテーマについて、授業で配布するレジュメをもとに予習をする ・授業後は、レジュメを見ながら復習を行い、授業で配布した資料も参考にしながら自分なりにノートをまとめる

●テキスト・参考書等

参考書：よくわかる生徒指導・キャリア教育 小泉令三編
ミネルヴァ書房

●成績評価

筆記試験は60分で実施（70%） 講義で出された課題（レポート等）の提出状況（20%） 受講態度（10%）

●オフィスアワー

火曜日・木曜日 12:05～12:55 研究室

●備考

小教免必修

情報機器演習

担当者： 瀬戸 博幸

●科目の概要

コンピュータとインターネットの役割を理解していることが当然の世の中になっている。さらに、携帯端末で音楽を楽しんだり、写真を撮ったり、コンピュータと連携して使用できる情報メディアも多様化し、急速に普及している。このような現在においてコンピュータを活用する基礎を固め、自信をもって活用できる人を育てる。

●授業計画

- 1 コンピュータの基本操作
- 2 インターネットの歴史
- 3 電子メール
- 4 ホームページを作ってみよう
- 5 ホームページに写真を載せよう
- 6 ホームページのレイアウトを整えよう
- 7 Wordを使う(その1)
- 8 Wordを使う(その2)
- 9 Wordを使う(その3)
- 10 Excelを使う(その1)
- 11 Excelを使う(その2)
- 12 WordとExcelの連携
- 13 PowerPointを使う
- 14 最終課題(その1)
- 15 最終課題(その2)
- 16

●到達目標

1. ICTの基本的な技術を習得する
2. インターネットを理解し活用できるようになる
3. コンピュータを生活の道具として活用できるようになる

●授業時間以外の学習

- ・身のまわりの情報機器に、常に関心を持つようにしておく
- ・各時間に修得した内容を整理し、記録しておく

●テキスト・参考書等

テキスト
実践ドリルで学ぶOffice活用術2013対応 noa 出版

●成績評価

日々のレポート(50%)および最終課題レポート(50%)

●オフィスアワー

月曜金曜 9・10限 (瀬戸研究室：西417)

●備考

障害児の教育・保育

担当者： 丸田 愛子

●科目の概要

障がいに関する基礎的な知識を身につけた上で、障がいのある子どもを含む特別な配慮が必要な子どもについて、理解と援助の方法を学習する。また、園内におけるケース会議や支援計画について学ぶ。

障がいのある子どもの育ちを支えるための協力体制として、保護者への支援や小学校、地域の相談機関等との連携のあり方について理解を深める。これらの学習を通して、教育・保育現場において必要な知識と感覚を養うことを目標とする。

●授業計画

- 1 オリエンテーション(障害児教育・保育への理解)
- 2 障害児保育の意義(1): 障害の捉え方
- 3 障害児保育の意義(2): 乳幼児期の発達課題と障がい特性
- 4 障害の特徴と支援(1): 自閉症スペクトラム
- 5 障害の特徴と支援(2): 注意欠陥/多動性障がい
- 6 障害の特徴と支援(3): 知的障害
- 7 障害の特徴と支援(4): 身体障害
- 8 障害の特徴と支援(5): 学習障害
- 9 障害の特徴と支援(6): その他の障がい
- 10 気になる子どもの特徴と援助のポイント
- 11 保護者への支援
- 12 事例検討(1): 自閉症スペクトラムに関するケース
- 13 事例検討(2): 保育の中で気になる子どものケース
- 14 保育所・幼稚園の支援体制
- 15 障害児保育の課題
- 16

●到達目標

1. 障がい理解を深め、対応するための基本的な心構えがある
2. 障がい児、配慮が必要な子どもへの対応を幅広く考えられる
3. 保育所・幼稚園等における支援体制について理解する

●授業時間以外の学習

- ・配布プリントは、資料として各自整理する。また、それらをもとに事前・事後学習をし、不明な点を残さないようにする

●テキスト・参考書等

[テキスト] 田中康雄(監)『わかってほしい!気になる子
自閉症・ADHDなどと向き合う保育』学習研究社
[参考文献等] 酒井幸子・田中康雄
『発達に気になる子の個別の指導計画』学研教育出版

●成績評価

受講態度およびレポート等の提出状況(30%)、定期筆記試験(70%)による総合評価とする ※筆記試験は60分で実施

●オフィスアワー

火・水曜日 16:30~18:00 (丸田研究室)

●備考

単位互換開放対象科目

障害児の教育・保育

担当者： 宮里 新之介

●科目の概要

保育現場では、子どもの発達を促す保育行為が求められます。この授業では、自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害、限局性学習障害といった様々な障害特性の理解と、対応の基礎となる支援スキルや留意点について学びます。

また、二次的問題への対応や、保護者への支援、他の相談機関との協力的体制についても理解を深めることを目標とします。

●授業計画

- 1 オリエンテーション / 障害児の教育・保育とは
- 2 障害とはなにか (ICIDH から ICF への変遷)
- 3 自閉症スペクトラム障害の障害特性
- 4 自閉症スペクトラム障害への支援スキル
- 5 注意欠如・多動性障害の障害特性
- 6 注意欠如・多動性障害への支援スキル
- 7 限局性学習障害の障害特性
- 8 限局性学習障害への支援スキル
- 9 二次障害についての理解
- 10 知的障害、運動障害の障害特性
- 11 知的障害、運動障害への支援スキル
- 12 聴覚障害、視覚障害の障害特性
- 13 聴覚障害、視覚障害への支援スキル
- 14 保護者への支援
- 15 特別支援教育の基礎的知識と専門機関との連携
- 16 定期試験

●到達目標

1. 様々な障害の特性を理解し、他者に説明することができる
2. 障害に応じた援助を理解し、現場での対応がイメージできる
3. 保護者への援助について考えることができる

●授業時間以外の学習

- ・授業では前授業のミニテストを行うので復習を行って望むこと
- ・障害を有する人と関わる機会を持つと学習内容が理解しやすいので、そのような機会を持つことを勧めます

●テキスト・参考書等

テキスト：
「保育士養成テキスト⑩ 障害児保育」
平山諭（編著） ミネルヴァ書房

●成績評価

- ・定期試験（80%）
- ・講義時のミニテスト（20%）

●オフィスアワー

金曜日 10:35～12:05（研究室：本館3階）

●備考

発達心理学Ⅱ

担当者： 平嶋 慶子

●科目の概要

発達についての全体的理解をふまえながら、子どもの心身の発達の特徴と乳幼児期の保育の必要性について学ぶ。生活や遊びといった活動が子どもの発達の原動力となることを理解する。集団保育の姿と発達援助について学び、保育者観を育む。

●授業計画

- 1 乳幼児の定義と発達の特徴
- 2 中枢神経系の成熟と運動・知覚の発達
- 3 情動・感情の発達と内発的動機づけ
- 4 ことばとコミュニケーション
- 5 認知・思考
- 6 社会性と子どもの集団
- 7 自我の成立と自己制御：自律はどのように育つのか
- 8 個人内差と個人差：個性に応じた保育者の関わり
- 9 発達の援助と集団保育①生活とあそび
- 10 // ②発達段階や発達課題に即した保育と援助
- 11 発達のつまずきと発達のチェック：発達診断、発達検査
- 12 発達の障害
- 13 さまざまな援助：療育と支援
- 14 援助の場：保育者と保護者の連携
- 15 こどもの発達と保育のよさこび、やりがい
- 16 定期試験

●到達目標

1. 発達段階を基に子どもの発達と保育の関係について理解を深める
2. 生活と遊びを通して発達する子どもの姿を理解する
3. 保育における発達援助のありかたと重要性を学ぶ

●授業時間以外の学習

- ・配布資料は熟読し、関連事項やキーワードについて積極的に調べておくこと・出された課題レポートは授業後すぐに取りかかると次回授業の理解が深まる

●テキスト・参考書等

テキスト：
保育・教育ネオシリーズ5 発達理解と保育の課題
岸井勇雄ほか監修 無藤隆編著 同文書院

●成績評価

受講態度20% レポート20% 筆記試験60%

●オフィスアワー

月・水・金曜日 16:25～17:55 研究室

●備考

単位互換開放対象科目

体育科教育法

担当者： 小松 黒原

●科目の概要

小学校学習指導要領に示されている運動領域について学習することにより、体育科の目標としている適切な運動経験、健康・安全についての理解、運動に親しむ資質や能力、健康の保持増進と体力の向上、楽しく明るい生活を営む態度などについて理解し、効果的な指導ができるようにする。上記目標を達成するために、1~6年の各学年に設定された運動領域について運動の捉え方や運動技能の指導法、指導の工夫について解説してゆく。

●授業計画

| | |
|--------------------------------|---|
| 1 オリエンテーション | B |
| 2 体育科の目標について | B |
| 3 各学年の目標と運動領域について | B |
| 4 体育授業のマネジメントについて① | B |
| 5 体育授業のマネジメントについて② | B |
| 6 低・中学年における体育授業について① | B |
| 7 低・中学年における体育授業について② | B |
| 8 低・中学年における体育授業について③ | B |
| 9 高学年における体育授業について① | B |
| 10 高学年における体育授業について② | B |
| 11 体づくりの運動1：(特性・単元計画や授業計画の立て方) | A |
| 12 体づくりの運動2：(学年別指導の実際) | A |
| 13 表現運動1 (特性・英国 NC との比較) | A |
| 14 表現運動2 (単元計画や授業計画の立て方について) | A |
| 15 表現運動3 (学年別指導の実際について) | A |
| 16 試験 | A |

●到達目標

1. 学習指導要領に示された運動領域について理解する
2. 発達段階に合わせ、各運動領域の指導内容を理解する
3. 各運動領域の指導方法や必要とされるや態度を身につける

●授業時間以外の学習

- ・授業以前にシラバスを読み、授業の見通しを立てておくこと
- ・授業で出される課題に個人やグループで取り組み、授業以前に十分準備し、担当授業以前に相談に来ること

●テキスト・参考書等

テキスト：
小学校学習指導要領 文部科学省
小学校学習指導要領 体育編 文部科学省

●成績評価

期末試験 (60%) 模擬授業 (30%)
受講態度 (10%)

●オフィスアワー

月曜日午後 研究室 (小松)
水曜日13:00~16:00 研究室 (黒原)

●備考

単位互開放対象科目
A：小松恵理子 B：黒原貴仁

保育内容 (環境)

担当者： 横峯 孝昭

●科目の概要

幼稚園・保育所・認定こども園の保育内容である5領域のうち「環境」とはどのようなねらいと内容を持つか、具体的に理解することを目的とする。

●授業計画

| | |
|-------------------------------|--|
| 1 オリエンテーション | |
| 2 5領域の内容について自分の子供時代の遊びをもとに考える | |
| 3 動物とのかかわり | |
| 4 植物とのかかわり | |
| 5 ものとのかかわり① (シャボン玉) | |
| 6 ものとのかかわり② (理論編) | |
| 7 自然事象とのかかわり | |
| 8 地域とのかかわり | |
| 9 情報とのかかわり | |
| 10 文字とのかかわり | |
| 11 数、量、図形とのかかわり | |
| 12 他の領域とのかかわり | |
| 13 小学校とのかかわり | |
| 14 総括① | |
| 15 総括② | |
| 16 定期試験 | |

●到達目標

1. 幼児を取り巻く環境について理解する
2. 幼児の遊びを膨らませる環境について理論と実践を考える

●授業時間以外の学習

- ・領域「環境」についての捉え方を中心に話をしていくことになるので、具体的な活動の仕方までは各自の事後学習となる・いろいろな事例について、該当文献を読みつつ知見を広げて欲しい

●テキスト・参考書等

<参考書>
新 子どもと環境 小田豊監修 三晃書房

●成績評価

定期試験 (70%)、受講態度 (30%)

●オフィスアワー

月曜日 14:40~18:00 (研究室)

●備考

幼稚園教育実習Ⅰ指導

担当者： 宇都 横峯 附属幼稚園園長 主任

●科目の概要

1 年次後期に2週間の予定で実施される、本学附属幼稚園での教育実習に関わる事前事後指導を行うことで、効果的な実習の展開を目指すとともに、幼稚園教員（間接的には小学校教員）として求められる基礎的資質・能力の養成を図る

●授業計画

| | |
|--------------------------------|---|
| 1 実習の概要について | A |
| 2 実習に関する諸連絡と注意Ⅰ | A |
| 3 実習に関する諸連絡と注意Ⅱ | A |
| 4 附属幼稚園でのオリエンテーション（主任）Ⅰ | B |
| 5 附属幼稚園でのオリエンテーション（主任）Ⅱ | B |
| 6 歌・体操・絵画製作等の指導（主任）Ⅰ | C |
| 7 歌・体操・絵画製作等の指導（主任）Ⅱ | C |
| 8 附属幼稚園でのオリエンテーション（主任・担当教諭）Ⅰ | B |
| 9 附属幼稚園でのオリエンテーション（主任・担当教諭）Ⅱ | B |
| 10 実習事後指導（実習Ⅰ反省及び幼稚園実習Ⅱへ向けた指導） | A |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

●到達目標

1. 教育現場の実情を理解する
2. 幼児の理解を深める
3. 幼児との積極的な関わり

●授業時間以外の学習

・実習以前における附属幼稚園でのボランティア活動等を積極的に行う

●テキスト・参考書等

●成績評価

原則として全回出席した者を評価対象とする(40%)
事後指導におけるレポート等(60%)

●オフィスアワー

水・木曜日 昼食時間（研究室）

●備考

A: 大村・横峯 B: 各幼稚園 C: 各幼稚園主任

幼稚園教育実習Ⅰ

担当者： 横峯 宇都 附属幼稚園

●科目の概要

(1) 幼稚園教諭として必要な資質を養成するために実際の保育を経験し、さらに社会人としての基本的な勤務態度を身につける。(2) 幼稚園教諭二種免許状を取得するためにこの実習を実施する。

●授業計画

実習の態度
積極的な取り組み、謙虚な態度、責任ある行動
保育の実践
保育指導案の作成、保育の指導及び援助、保育の環境構成
実習の記録
観察の視点、表現の適切さ、幼児の理解
教育実習オリエンテーション
教育実習に関するオリエンテーションが実習中に適宜開催される

●到達目標

1. 教育現場の実情を理解する
2. 幼児の理解
3. 幼児との積極的関わり

●授業時間以外の学習

・事前指導等で指示された内容をしっかりと学習すること

●テキスト・参考書等

・幼稚園実習の手引き（本学作成）

●成績評価

実習園の評価及びオリエンテーションの参加を含めて総合的に評価する。* 実習日数の5分の1を超える欠席は、評価の対象にならない

●オフィスアワー

●備考

- (1) 幼稚園教育実習Ⅰに関するオリエンテーションが適宜実施されるが、全て参加すること
- (2) 実習に参加するためには、学生使覧に示された実習参加要件を全て満たすこと

児童家庭福祉

担当者： 赤瀬川 修

●科目の概要

現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史の変遷、児童家庭福祉の制度や実施体系、児童家庭福祉の現状と課題などについて理解を深めることを目指して授業を行う。

●授業計画

- 1 児童家庭福祉の理念
- 2 児童家庭福祉の概念
- 3 児童家庭福祉の概況
- 4 多様な保育ニーズと保育問題
- 5 子どもの養護問題と虐待防止
- 6 障害のある子どもの問題
- 7 子どもの行動に関する問題
- 8 児童家庭福祉の歴史
- 9 児童家庭福祉の制度と法体系（1）
- 10 児童家庭福祉の制度と法体系（2）
- 11 児童家庭福祉行政と実施機関
- 12 児童福祉施設
- 13 児童家庭福祉の専門職
- 14 児童家庭福祉の方法論
- 15 児童家庭福祉サービスにおける専門機関との連携
- 16 定期試験

●到達目標

1. 児童や家庭の生活実態やニーズなどについて理解する
2. 児童の権利、法律、制度、機関等について理解する

●授業時間以外の学習

- ・授業で示す事前学習課題に取り組む
- ・書籍や新聞等により児童家庭福祉について理解を深める

●テキスト・参考書等

テキスト：「改訂子どもの福祉」松本峰雄編、建帛社
参考図書：「自閉症の僕が飛び跳ねる理由」東田直樹、エスコアール「やさしくわかる社会的養護シリーズ1～7」相澤仁編、明石出版

●成績評価

レポート等の提出物（30%） 受講態度（10%）
定期試験（60%）

●オフィスアワー

水曜日 16：25～17：55 研究室

●備考

単位互換科目

子どもの保健Ⅱ

担当者： 宇都 弘美

●科目の概要

子どもの健康管理に必要な技術及び安全に係る保健活動について、子どもの心身の不調に対応するための観察ポイントや処置、事故を予防するための環境管理を具体的に理解する。さらに、実習に向けて、保育者としての自身の健康管理や地域の資源の活用についても学ぶ。

●授業計画

- 1 講義ガイダンス、班分け、乳児の抱き方・寝かせ方
- 2 調乳、授乳の仕方
- 3 小児各期の発育の評価（身体計測）
- 4 健康状態の観察方法（バイタルサインの観察）
- 5 感染予防、手洗い
- 6 食事介助
- 7 与薬、電法
- 8 事故と対策、事故防止グッズの紹介
- 9 応急処置、ケガの手当て
- 10 運搬法
- 11 清潔の援助①（歯磨きの指導、仕上げ磨き）
- 12 心肺蘇生法
- 13 清潔の援助②（おむつ交換）
- 14 清潔の援助③（清拭）
- 15 清潔の援助④（沐浴①）
- 16 清潔の援助⑤（沐浴②技術試験）

●到達目標

1. 子どもの健康及び安全に係る保健活動のしくみを学ぶ
2. 子どもの心身観察ポイントや処置、事故とその予防を学ぶ
3. 実習に向けて、自身の健康管理や地域の資源の活用について学ぶ

●授業時間以外の学習

- ・事前学習として授業内容をシラバスで確認し予習をしたり、授業後に約1時間程度の復習をして、授業内容の理解の確認を毎回する

●テキスト・参考書等

テキスト：『子どもの保健演習ガイド』：高内正子編著、建帛社
参考文献：『子どもの保健・実習』：兼松百合子ほか編著、同文書院

●成績評価

演習への取り組み状況（授業態度）（30%） 技術試験（70%）

●オフィスアワー

月曜日 16：30以降および金曜日の昼休み時間（宇都研究室）

●備考

乳児保育

担当者： 宇都 弘美

●科目の概要

乳児保育の理念や役割について学び、乳児保育の現状と課題について理解する。また、3歳未満児の成長・発達について学び、保育の実際についても理解を深める。さらに、乳児保育における保育の内容や方法、計画や記録についても学ぶ。家庭や地域、関係機関との連携についても学ぶ。

●授業計画

- 1 乳児保育とは、乳児保育の歴史、家庭保育と集団保育
- 2 家庭生活と園生活
- 3 乳児の発達の特徴と保育①（自我の発達と保育、ビデオ）
- 4 乳児の発達の特徴と保育②（運動発達と保育、ビデオ）
- 5 乳児の発達の特徴と保育③（言葉の発達と保育、ビデオ）
- 6 乳児の日常生活と保育の実際①（乳児前半）
- 7 乳児の日常生活と保育の実際②（乳児後半）
- 8 1歳児の日常生活と保育の実際
- 9 2歳児の日常生活と保育の実際
- 10 保育における保健活動
- 11 保育計画と記録①
- 12 保育計画と記録②
- 13 保育所実習に向けて
- 14 保育の実際（ビデオ）
- 15 乳児保育を支える制度や連携と今後の課題
- 16 定期試験

●到達目標

1. 乳児保育の現状と課題について理解する
2. 3歳未満児に対する保育の内容や方法、計画や記録について学ぶ
3. 家庭や地域、関係機関との連携について学ぶ

●授業時間以外の学習

・事前学習として授業内容をシラバスで確認し予習をしたり、授業後に約1時間程度の復習をして、授業内容の理解の確認を毎回する

●テキスト・参考書等

テキスト：『初めて学ぶ乳児保育』：志村聡子編著，同文書院
参考文献：『新保育所保育指針サポートブックII』：保育総合研修会監修，世界文化社

●成績評価

筆記試験（90分で実施）80％・レポート20％

●オフィスアワー

月曜日 16：30以降および金曜日の昼休み時間（宇都研究室）

●備考

単位互換科目

保育所実習Ⅰ指導

担当者： 丸田 宇都

●科目の概要

保育所実習Ⅰに向けて、保育実習の意義・目的および内容を理解する。また、子どもの人権と最善の利益について確認し、実習施設における子どもの生活や保育士の仕事について学び、保育士としての責任感、使命感を有する。さらに、実習にあたっての心構えと準備について学び、実習目標や自己課題を設定することで、実習への意欲を養う。実習内容については、観察・援助の仕方や記録・指導案の書き方など、具体的に学習し実践力を身につける。

実習後には自己評価をし、その後の学習目標を立てる。

●授業計画

- 1 保育実習の目的と内容、保育所実習までの流れについて A
- 2 子どもの人権と最善の利益、保育所の一及び保育士の仕事 B
- 3 実習に向けての準備と心構え B
- 4 保育における観察・援助の方法 B
- 5 保育記録及び指導案の作成 B
- 6 事前訪問について A
- 7 保育所実習における目標、自己課題と実習計画の立て方 A
- 8 腸内細菌検査及びびびょう虫卵検査について B
- 9 検査結果配布と実習準備の確認 B
- 10 実習事後指導、レポート提出 A
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16

●到達目標

1. 子どもの人権や生活、保育士の仕事等を十分理解している
2. 保育者としての責任感、使命感を有している
3. 実習に必要な知識を有し、実習準備・学習が行えている

●授業時間以外の学習

・事前学習として、授業内容をシラバスやテキストで確認し予習を行う
・授業後は復習をし、計画的な実習準備を行うことが望ましい

●テキスト・参考書等

[テキスト] 鹿児島女子短期大学児童教育学科（編）

『保育実習の手引き』

[参考文献等] 石橋裕子（編者）『新訂 幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド』同文書院

●成績評価

実習の取り組み（50％）とレポート（実習の終了報告書）（50％）で総合的に評価する

●オフィスアワー

火・水曜日 16：30～18：00（丸田研究室）

●備考

A（宇都 丸田） B（丸田）

保育所実習Ⅰ

担当者： 丸田 宇都

●科目の概要

児童福祉施設としての保育所の機能、保育士の仕事や職業倫理について学び、実際に子どもや保育士の姿に触れることを通して、子どもの生活や発達、保育者の援助について理解を深める。そうした中で、既習の理論や技能を実践し、観察・参加実習を通して、保育技術の体験的理解をはかる。自身の知識や技能が及ばないところに関しては、自己課題と捉え、習得を目指す。

また、保育士を目指す動機は何か、保育者として必要な資質は何か、社会人としての責任ある行動ができるかを確認し、向上心を養う。

●授業計画

- 1 保育所の目的・役割・機能
- 2 保育所における乳幼児の一日の生活や遊び
- 3 保育士の援助・かかわり方（保育活動）
- 4 一人ひとりの子ども・集団の姿やその発達
- 5 環境構成
- 6 保育課程と保育計画
- 7 保育士とその他の職員の仕事・役割・機能・職員間の連携
- 8 保育所と家庭・地域との関係
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16

●到達目標

1. 保育所の機能・役割・生活や保育士の仕事を理解している
2. 乳幼児の発達や保育援助について、具体的に学習している
3. 担当保育等を通して、実践力を身につける

●授業時間以外の学習

- ・「保育所実習Ⅰ指導」の授業と並行して、計画的に実習準備を進める
- ・実習後は振り返りをし、自己課題を明確にする

●テキスト・参考書等

[テキスト] 鹿児島女子短期大学児童教育学科（編）『保育実習の手引き』

[参考文献等] 石橋裕子（編者）『新訂 幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド』同文書院

●成績評価

本学の定めた評価表に従って、①実習の態度②保育・援助の実践③実習の記録の観点から、各実習先が評価する（100%）

●オフィスアワー

火・水曜日 16:30～18:00（丸田研究室）

●備考

国語

担当者： 瀬戸口 修

●科目の概要

幼稚園・小学校（国語科）教諭として、ふさわしい教師力を身につける。会話表現と文章表現について、実際の現場や実習に役立つ、知識や技術に習熟することをめざす。

●授業計画

- 1 自己紹介をする（話す・書く）
- 2 原稿用紙のつかい方を学ぶ
- 3 会話表現（基礎編）①—話し方・あいさつ
- 4 " " ②—敬語のつかい方
- 5 会話表現（応用編）①—発声・自己紹介
- 6 " " ②—実習先・保育現場での話し方、コトバかけ
- 7 " " ③—就職面接・保護者との話し方、現場での電話
- 8 文章表現（基礎編）①
- 9 " " ②
- 10 文章表現（応用編）①
- 11 " " ②
- 12 " " ③
- 13 " " ④
- 14 " " ⑤
- 15 課題作文の提示・・・（最終作文）
- 16

●到達目標

1. あいさつや敬語のつかい方を身につける
2. 現場での話し方に習熟する
3. 実習日誌などの書き方や表記に習熟する

●授業時間以外の学習

- ・実習生調書や個人票の書き方、事前訪問のアポの取り方や話し方に活かす

●テキスト・参考書等

田上貞一郎『保育者になるための国語表現』明文書林

●成績評価

各種レポート（20%）
最終作文（80%）

●オフィスアワー

水曜日 5・6眼（研究室）

●備考

算数

担当者： 内田 豊海

●科目の概要

子どもは生まれながらにして（遺伝的に）数学能力を有しています。この授業では、それがいかに発達し、教育によっていかに伸びるのを知ることをスタートとします。子どもの内にある能力を、外の世界の出来事と結びつけ、深めることで、子どもはどのように数学的能力を身に付けるかを、実際に、数学的活動を通し、体験・学習しながら考察していきます。最終的には、幼児期での学習が、小学校以降、どのように発展するかを見据えながら、子どもの成長に携うことを目指します。

●授業計画

- 1 ガイダンス：
- 2 算数を学習することの意義
- 3 子どもの発達と算数の関係
- 4 身の回りにあふれる「形」の世界
- 5 ものを頭の中で分解しよう 展開図
- 6 数を用いた遊びを通して計算してみよう
- 7 式を使わずに計算してみよう
- 8 測れないものの測り方
- 9 時間について考えてみる
- 10 身に染み付いている数感覚
- 11 数える力 どうしたら上手に早く数えられるか
- 12 パターンを見つけてみよう
- 13 無限について考えてみる
- 14 算数を使って、ものを選んでみよう
- 15 学習した算数能力の行く末は
- 16 定期試験

●到達目標

1. 幼少期における算数教育の意義を理解する
2. 算数的活動を通して、その楽しさと深さ、意義を知る

●授業時間以外の学習

・授業で発展的な課題を提示するので、授業時間内で考えきれない発展性について、考察する

●テキスト・参考書等

テキストは使用しない
(参考書)
田宮緑『体験する調べる考える領域「環境」』萌文書林

●成績評価

定期試験（70%）受講態度（15%）
提出物（15%）

●オフィスアワー

月曜日 終日 水曜日 5コマ目以外（研究室西館412）

●備考

生活（小・幼・保コース）

担当者： 松崎 康弘

●科目の概要

原則として「生活科教育法」も履修する小・幼・保コースについては、生活科の「学習材開発」にスポットを当て、フィールドワークも含め体験的に学ぶことを主目的とする。

また、地域や環境を生かした「遊びをととした学び」を実践できることを目指す。

●授業計画

- 1 イントロダクション（学習材開発の観点）
- 2 「学校と生活」の学習材開発
- 3 「家庭と生活」の学習材開発
- 4 「地域と生活」の学習材開発
- 5 「公共物や公共施設の利用」の学習材開発
- 6 「季節の変化と生活」の学習材開発
- 7 「自然や物を使った遊び」の学習材開発
- 8 「動植物の飼育・栽培」の学習材開発
- 9 「生活や出来事の交流」の学習材開発
- 10 「自分の成長」の学習材開発
- 11 「まち探検」の実践（短大周辺を歩く）
- 12 体験学習①（自然体験・食育体験①）
- 13 体験学習②（自然体験・食育体験②）
- 14 体験学習③（自然体験・食育体験③）
- 15 総括
- 16

●到達目標

1. 生活科を実践できる知識・技能を習得する
2. 地域を見つめ、環境を教育に生かそうとする意識をもつ

●授業時間以外の学習

・テーマごとにミニレポートを課す

●テキスト・参考書等

テキスト：文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編』（日本文教出版）
参考書：田村学編著『小学校生活 イラストで見る全単元・全時間の授業のすべて』（東洋館出版社）ほか

●成績評価

授業テーマごとに課すミニレポート100%

●オフィスアワー

火曜日 14：30～16：20（研究室：西411）

●備考

単位互換開放科目
授業計画12～14の体験学習は日曜日を一日使って実施する。
(数千円の費用がかかる)
COC 科目

生活（幼・保コース）

担当者： 松崎 康弘

●科目の概要

幼・保コースでは、生活科教育の目的や内容について基本的な理解をするとともに、生活科を核とした保・幼・小連携についてその実践の在り方を学ぶことを主目的とする。

また、地域や環境を生かした「遊びをとおした学び」を実践できることを目指す。

●授業計画

- 1 イントロダクション（自身の生活科体験のふりかえり）
- 2 「学校と生活」の目標・内容・実践事例
- 3 「家庭と生活」の目標・内容・実践事例
- 4 「地域と生活」の目標・内容・実践事例
- 5 「公共物や公共施設の利用」の目標・内容・実践事例
- 6 「季節の変化と生活」の目標・内容・実践事例
- 7 「自然や物を使った遊び」の目標・内容・実践事例
- 8 「動植物の飼育・栽培」の目標・内容・実践事例
- 9 「生活や出来事との交流」の目標・内容・実践事例
- 10 「自分の成長」の目標・内容・実践事例
- 11 保・幼・小連携について①（アプローチ・カリキュラム）
- 12 保・幼・小連携について②（スタート・カリキュラム）
- 13 保・幼・小連携について③（保・幼と小学校の連携授業）
- 14 遊びと学びの関係について
- 15 総括
- 16

●到達目標

1. 小学校との連携において生活科を実践できる知識・技能を習得する
2. 地域を見つめ、環境を教育に生かそうとする意識をもつ

●授業時間以外の学習

- ・ミニレポートを課す場合がある

●テキスト・参考書等

テキスト：文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編』（日本教出版）

参考書：田村学編著『小学校生活 イラストで見る全単元・全時間の授業のすべて』（東洋館出版社）ほか

●成績評価

筆記試験100%

※レポート提出で筆記試験の代替とする場合がある。

●オフィスアワー

火曜日 14:30～16:20（研究室：西411）

●備考

単位互換開放科目

COC 科目

音楽Ⅲ

担当者： 中村 稲森

●科目の概要

幼児現場における音楽的表現の理論や歌、器楽合奏等の実践を学び、保育者としての資質を高める

●授業計画

- 1 歌唱法Ⅰ（基本的な発声法）・4月のうた及びピアノ
- 2 歌唱法Ⅱ（幼児への指導法）・5月のうた及びピアノ
- 3 簡易楽器奏法・6月のうた及びピアノ
- 4 2、3歳児用幼児器楽合奏・7、8月のうた及びピアノ
- 5 幼児器楽合奏Ⅰ（指導法）・9月のうた及びピアノ
- 6 幼児器楽合奏Ⅱ（実践）・10月のうた及びピアノ
- 7 コードネームの基礎知識・11月のうた及びピアノ
- 8 コードネームを用いた伴奏法・12月のうた及びピアノ
- 9 幼児曲伴奏法・1月のうた及びピアノ
- 10 移調法・2月のうた及びピアノ
- 11 合唱Ⅰ（実践）・3月のうた及びピアノ
- 12 合唱Ⅱ（指導法）・生活指導のうた及びピアノ
- 13 わらべうた、手遊びうた・集団遊びのうた及びピアノ
- 14 ボディーパーカッション及びピアノ
- 15 弾き歌い試験及びピアノ
- 16 定期試験

●到達目標

1. コードネームを見て伴奏を弾けるようになる
2. 幼児教育現場での音楽活動について知り、活用できるようになる

●授業時間以外の学習

- ・ピアノレッスンには練習した上で臨み、レッスン終了後は復習する

●テキスト・参考書等

うたとあそび（鹿児島市私立幼稚園協会編）

ブルグミュラー、ソナチネアルバム等のピアノ教則本

参考書：新・幼児の音楽教育（井口太編、朝日出版社）

●成績評価

クラシック曲実技試験50%、弾き歌い試験25%、受講態度25%

●オフィスアワー

水曜日 13:00～16:00（中村研究室）

●備考

- ・6クラスの内、3クラスは中村、3クラスは稲森が担当
- ・45分演習、45分ピアノレッスンで授業を構成する

教育相談

担当者： 松元 理恵子

●科目の概要

現代社会の変容の中で、幼児、児童生徒の抱える問題が多様化し、深刻化する傾向がみられる。子どもの心の問題を理解し、どのように対応していけばよいのか、成長していく子ども達を支えていくために必要なチーム支援についての理解を深める。そして、近年の子供の健康に与える家庭の教育や地域社会の機能の低下等を概観し、教師として子供、家族、関係者にいかなる教育相談を行えばよいのかを学ぶ。

●授業計画

- 1 教育相談の理論と方法（教育相談とは何かを学ぶ）
- 2 現代を生きる子ども達（子どもの行動の理解を学ぶ）
- 3 子どもの発達理解と相談・支援1（乳児期・幼児期を学ぶ）
- 4 子どもの発達理解と相談・支援2（学童期・思春期を学ぶ）
- 5 不適応行動とその心理1（いじめに対する支援）
- 6 不適応行動とその心理2（非社会的行動に対する支援）
- 7 不適応行動とその心理3（反社会的行動に対する支援）
- 8 保護者への対応1（「親育ち」のための発達支援）
- 9 保護者への対応2（保護者支援と方針のたて方について）
- 10 発達障がいや気になる子どもとその保護者へのかかわり
- 11 子どもの発達とアセスメント
- 12 虐待について（対応の仕方を学ぶ）
- 13 危機に直面した子どもの心のケア
- 14 教育相談の具体的方法（傾聴を学ぶ）
- 15 社会資源の活用（関係機関を知る）
- 16 定期試験

●到達目標

1. 問題を抱える子どもの心理状態を理解する
2. 教育相談の基礎的な理論と具体的な方法を習得する
3. 自己理解、他者理解を深め、相談活動のあり方を考える

●授業時間以外の学習

・次の授業でとりあげるテーマについて、配布されたレジュメをもとに予習をする
・配布された資料やワークシートをレジュメと照合しながら復習を行う

●テキスト・参考書等

参考書：子ども理解と援助 高嶋景子・砂上史子・森上史朗編
ミネルヴァ書房

●成績評価

筆記試験は60分で実施（70%）、講義で出された課題（レポート等）の提出状況（20%）、受講態度（10%）

●オフィスアワー

火曜日・木曜日 12:05～12:55 研究室

●備考

小教免・幼教免必修
ピアヘルパー受験資格必修

保育臨床

担当者： 宮里 新之介

●科目の概要

幼児期・児童期の発達に関する知識と臨床心理学をベースに、幼児・児童期に現れる反・非社会的問題行動や、習癖、神経症的な問題行動に関する理解を深めます。

その理解を基本とした上で、様々な事例問題を通して、問題を呈している幼児・児童や保護者に保育者としてどのように対応するかを根拠に基づいて考えるワークを行います。

●授業計画

- 1 オリエンテーション / 保育臨床で何を学ぶのか
- 2 子どもの育ち①（現代社会と子どもの育ち）
- 3 子どもの育ち②（幼児期の発達と遊び）
- 4 保育者の役割と専門性①（臨床心理学的な視点）
- 5 保育者の役割と専門性②（保育臨床の実践とは）
- 6 保育者の役割と専門性③（観察と記録）
- 7 年少児の問題行動の理解①（反社会的行動）
- 8 年少時の問題行動の理解②（非社会的行動）
- 9 年少時の問題行動の理解③（神経症的行動）
- 10 年少時の問題行動の理解④（生活習慣に現れる行動）
- 11 発達障害の理解①（自閉症スペクトラム障害）
- 12 発達障害の理解②（AD/HD、限局性学習障害）
- 13 保育現場でぶつかる諸問題①（子どもと保護者への対応）
- 14 保育現場でぶつかる諸問題②（園や保育者との関わり）
- 15 総括と質疑応答
- 16 定期試験

●到達目標

1. 問題行動の理解に必要な基本的知識を習得し他者に説明できる
2. 問題行動への対応を根拠に基づき考えることができる
3. 育児相談についての基本的技能を習得する

●授業時間以外の学習

・授業の始めに、前回の授業の理解度をチェックするためのミニテストを実施しますので、前回の授業の復習を行うこと

●テキスト・参考書等

テキスト：
「新保育ライブラリ 保育の内容・方法を知る 保育臨床相談」
小田豊・他（編著）北大路書房

●成績評価

- ・定期試験（80%）
- ・講義時のミニテスト（20%）

●オフィスアワー

金曜日 10:35～12:05（研究室：本館3階）

●備考

子どもと人権

担当者： 松崎 康弘

●科目の概要

人権教育・保育で育成することが求められる力（セルフ・エスティームやコミュニケーション能力、正しい知識理解など）について、具体的な事例をとおして学ぶ。

その内容を踏まえて、実際にどのような実践が行われているかを学び、自身が教師・保育者となった時にどのような実践を行うかについて考える。

●授業計画

- 1 人権教育・保育の目的
- 2 多文化教育の在り方（アイヌ学習を事例に）
- 3 ノーマライゼーションと教育①（障がい者の姿に学ぶ）
- 4 ノーマライゼーションと教育②（障がい者理解のために）
- 5 世界の子どもの人権をめぐる状況
- 6 よりよい社会を創るための発信
- 7 人権教育の実践事例研究
- 8 まとめ（自分なりの人権教育を考える）
- 9 定期試験
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16

●到達目標

1. 人権教育を実践するための知識や技能を習得する
2. 人権に対する配慮をもって子どもとかわる意識を高める

●授業時間以外の学習

・授業で松崎が提示する教材と類似した素材を図書館や書店等で探すことを求めます（筆記試験にも反映）

●テキスト・参考書等

テキスト：使用しない

参考書：国際協力機構中部国際センター

『教室から地球へ 開発教育・国際理解教育 虎の巻』 ほか

●成績評価

筆記試験100%

●オフィスアワー

火曜日 14：30～16：20（研究室：西411）

●備考

単位互換開放科目

家族関係論

担当者： 倉重 加代

●科目の概要

一般的にミクロな視点で捉えられがちな家族をマクロに捉え、私たちが「これが家族だ」と描いている家族像や家族関係を見直す。そこから、家族のありようは普遍的なものではなく多様で、また社会や時代とともに変化することを学ぶ。さらに、子どもの社会化や少子化・子育て支援など子どもをめぐる家族関係や社会情勢などを学習するとともに、教育・保育施設での参与観察を通して、教育者や保育者としての資質を高めたい。

●授業計画

- 1 家族とは何か一学問的定義とアンケートから考察する
- 2 家族の特性と機能について学ぶ
- 3 家族の種類と世帯について学ぶ
- 4 配偶者選択のメカニズムについて学ぶ
- 5 結婚の個人的機能と社会的機能について学ぶ
- 6 子どもの社会化と親子関係について学ぶ
- 7 子どもの社会化と社会関係について学ぶ
- 8 教育・保育現場で子どもの社会化について観察をする
- 9 教育・保育現場で子どもと周囲の大人との関係を観察する
- 10 観察の振り返りをし、子どもの実情の理解を深める
- 11 子育てのあり方について学ぶ
- 12 家族と全体社会の関係・家族変動の諸側面について学ぶ
- 13 産業化と戦後家族の変動について学ぶ
- 14 家族の多様化と家族のゆくえについて学ぶ
- 15 授業のまとめ、質疑
- 16 定期試験

●到達目標

1. 社会の動きにともなう家族の変化を理解する
2. 家族を多角的に捉える視点を身につける

●授業時間以外の学習

・家族に関する各種資料等を入手したり、新聞を読んだりして、家族に関する問題や解決の動きに関心を持つ

●テキスト・参考書等

○テキスト

木下謙治ほか編『新版 家族社会学』九州大学出版会 2008年。

○参考書

井上真理子編『現代家族のアジェンダ』世界思想社 2004年。

内閣府『少子化対策白書』 ほか授業中に紹介

●成績評価

筆記試験（50%）、レポート（40%）、受講態度（10%）

●オフィスアワー

火曜日・金曜日 16：30～18：00（倉重研究室）

●備考

単位互換対象科目

教師と法

担当者： 池田 哲之

●科目の概要

公教育（学校教育）と法令のかかわりを理解したうえで、重要教育法令に関する実際的な運用能力を養うことを目的とする。

●授業計画

- 1 日本国憲法の基本理念
- 2 教育権と学習権
- 3 旧教育基本法の基本精神
- 4 新教育基本法の骨子
- 5 学校教育法の理解
- 6 学校教育法施行令・施行規則の理解
- 7 学習指導要領の変遷
- 8 教育公務員の義務・責任
- 9 教育公務員の分限・懲戒
- 10 教育委員会－制度の概要－
- 11 教員の養成
- 12 教員の研修
- 13 教育職員免許状の更新
- 14 教育関係諸法令の解説
- 15 総括
- 16

●到達目標

1. 現代教育法令の体系を知る
2. 教員採用試験に対応しうる法令知識を習得する

●授業時間以外の学習

- ・日頃より教育問題に関心をもち、新聞等における教育関連記事を読むよう努めること

●テキスト・参考書等

指定テキスト：若井彌一監修『必携 教職六法 2015年度版』
参考書等：『切抜き速報シリーズ 教育版』ニホン・ミック

●成績評価

レポート70点、受講姿勢・意欲30点

●オフィスアワー

月曜日 16：30～17：30 研究室（西館414）

●備考

単位互換開放対象科目

上記記載内容は、受講生の理解度、受講生数などにより、授業開始後に変更となるばあいもあります。

学校経営と学校図書館

担当者： 岩下 雅子

●科目の概要

司書教諭として、学校教育と学校図書館の基礎的な知識を身につける。多くの学校図書館の運営事例を校種別に学ぶと同時に、学校経営の中における学校図書館の位置づけを理解し、司書教諭の果たす役割を学ぶ。

●授業計画

- 1 学校図書館の理念と教育的意義
- 2 学校図書館の利用指導（オリエンテーション）
- 3 世界・日本の学校図書館史
- 4 鹿児島県の学校図書館史
- 5 鹿児島県の学校図書館の現状
- 6 学校図書館と教育行政（学校図書館法と教育施策）
- 7 学校図書館の運営①小学校の事例を中心に
- 8 学校図書館の運営②中学校の事例を中心に
- 9 学校図書館の運営③高校の事例を中心に
- 10 学校図書館とネットワーク①PTA・地域との連携
- 11 学校図書館とネットワーク②公共図書館等との連携
- 12 学校図書館の施設・設備
- 13 学校図書館をデザインする①
- 14 学校図書館をデザインする②
- 15 学校図書館と司書教諭の役割
- 16 レポート

●到達目標

1. 学校図書館に関する基礎的な知識を身につける
2. 学校教育における学校図書館活用の可能性を知る
3. 学校図書館の業務について理解する

●授業時間以外の学習

課題が出されたら、次週までに予習しておくこと

●テキスト・参考書等

参考文献
「新訂学校経営と学校図書館」野口武悟 前田稔 NHK出版

●成績評価

レポート70% 小レポート20% 発表10%

●オフィスアワー

火曜日 10:00～10:30（非常勤講師室）

●備考

理科教育法

担当者： 横峯 孝昭

●科目の概要

見通しを持った観察や実験を行う段階で、児童の学習への構造化の一貫性を考慮した指導内容について理解する。実際に行うであろう実験等も踏まえて進めていく予定。

●授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 小学校理科の全体目標
- 3 小学校理科の単元 (A 区分 B 区分の取り扱い)
- 4 学習指導案の作成について (小学校教科書をもとに)
- 5 小学校理科の基本的な考え方 物理編
- 6 小学校理科の基本的な考え方 化学編
- 7 小学校理科の基本的な考え方 生物編
- 8 小学校理科の基本的な考え方 地学編
- 9 小学校理科の基本的な考え方 総括
- 10 指導案の作成と各学年にわたる内容の取り扱い
- 11 学習指導案の作成① (観察実験を中心に)
- 12 学習指導案の作成②
- 13 学習指導案の作成③
- 14 学習指導案の作成④
- 15 総括
- 16

●到達目標

1. 小学校理科教育の目標・内容について理解する
2. 小学校に求められる基本的な考えについて理解する

●授業時間以外の学習

・理科としての知識は中学校までの一般常識があれば十分である・その点を踏まえて事前に勉強をしておくこと良い・観察、実験をするための教材研究を学年ごとに考える努力をしてもらいたい

●テキスト・参考書等

<参考書>
小学校学習指導要領解説 理科編 文部科学省
ものづくりハンドブック1～7「楽しい授業」編集委員会 (仮説社)

●成績評価

作成した指導案 (70%) 及び受講態度 (30%) によって評価する

●オフィスアワー

月曜日 14:40~18:00 (研究室)

●備考

音楽科教育法

担当者： 新村 元植

●科目の概要

小学校音楽科授業に関する演習を実施する事により、授業運営に必要な能力を習得する

- (1) 2名のグループでそれぞれ20分程度の模擬授業を実施する
- (2) 小学校音楽科における教材、指導案、模擬授業を研究する
- (3) 小学校学習指導要領音楽編を研究する
- (4) 小学校音楽科指導に必要な音楽知識及び伴奏法を研究する

●授業計画

- 1 小学校学習指導要領の研究1 (学習指導要領が目指すこと)
- 2 学習指導要領音楽編の研究2 (子どもの音楽的発達)
- 3 音楽授業指導の研究1 (指導計画の作成と領域の取り扱い)
- 4 音楽授業指導の研究2 (音楽科授業の具体的指導ポイント)
- 5 音楽授業指導の研究3 (歌唱活動、器楽活動授業の展開)
- 6 音楽授業指導の研究4 (身体表現活動、創作活動授業の展開)
- 7 音楽授業指導の研究5 (1学年の教材の取り扱い方)
- 8 音楽授業指導の研究6 (2学年の教材の取り扱い方)
- 9 音楽授業指導の研究7 (3学年の教材の取り扱い方)
- 10 音楽授業指導の研究8 (4学年の教材の取り扱い方)
- 11 音楽授業指導の研究9 (5学年の教材の取り扱い方)
- 12 音楽授業指導の研究10 (6学年の教材の取り扱い方)
- 13 教材曲を使用したコードネームによる簡易伴奏法演習1
- 14 教材曲を使用したコードネームによる簡易伴奏法演習2
- 15 総合的演習
- 16 定期試験

●到達目標

1. 小学校音楽科の目標及び指導計画や指導法について研究し、理解を深める

●授業時間以外の学習

・模擬授業に際しては、事前に指導案の作成、指導法、伴奏法を研究する

●テキスト・参考書等

参考書：
「ピアノテキスト」(全国大学音楽教育学会九州学会編)
「小学校「音楽」教科書1～6年生

●成績評価

- ・定期試験では筆記試験(90分)を実施する(60%)
- ・平常点(授業課題等)を評価する(40%)

●オフィスアワー

随時(新村研究室)

●備考

単位互換対象科目

図画工作科教育法

担当者： 井上 松下

●科目の概要

小学校における図画工作科教育の意義と内容、及びその指導法について学ぶ。また教員採用試験に関する知識や技能を習得する。

●授業計画

| | |
|----------------------------|---|
| 1 クロッキーとデッサンについて | A |
| 2 クロッキーに取り組む～感じて描く～ | A |
| 3 彫塑表現Ⅰ「紙粘土制作～心棒作りから荒付け」 | A |
| 4 彫塑表現Ⅱ「紙粘土制作～荒付けから成形」 | A |
| 5 彫塑表現Ⅲ「紙粘土制作～成形から仕上げ」 | A |
| 6 学校現場での図画工作 | A |
| 7 「造形遊び」と「工作に表す」の内容と指導について | A |
| 8 図画工作科教育の目的と意義 | A |
| 9 絵画表現の実験制作と指導の在り方について | B |
| 10 水彩絵の具を用いた風景画の制作① | B |
| 11 " " ②(総括) | B |
| 12 児童期の描画表現の発達と指導の在り方について | B |
| 13 版画表現の実験制作と指導の在り方について | B |
| 14 一版多色版画を用いた実験制作 | B |
| 15 図画工作科の指導案作成 | B |
| 16 定期試験 | B |

●到達目標

1. 図画工作科教育の目的と意義を理解する
2. 造形表現の基本的な知識や技能を習得し、その豊かさを味わう
3. 表現及び鑑賞学習の内容を理解し、具体的な指導法を身につける

●授業時間以外の学習

- ・美術館での鑑賞学習を通して、美的感性を養いつつ造詣を深める
- ・日常の暮らしのなかに存在する美的なものや日本文化に着目し、その豊かさを味わう

●テキスト・参考書等

「新学習指導要領による図画工作科教育法」
大学美術教育教育法研究会編著 日本文教出版
*随時資料を配布

●成績評価

受講態度(10%) レポート(10%)
作品評価(40%) 定期試験60分(40%)

●オフィスアワー

月曜日・金曜日 16:25～17:55 (井上研究室)
月曜日 12:55～14:25 (松下研究室)

●備考

A:井上 B:松下

外国語活動に関する指導法

担当者： 高島 まり子

●科目の概要

小学校外国語活動の目的・実態への理解を深める。また児童が易しい英語に慣れ親しみ、コミュニケーションへの意欲を高め、異文化への関心を深めるよう指導するための知識・技法を学ぶ。

●授業計画

| | |
|-------------------------------|--|
| 1 小学校外国語活動についての解説(目標・実態・課題等) | |
| 2 授業内容のDVD視聴、ゲーム・指遊び・体操・歌の学習 | |
| 3 同 | |
| 4 模擬授業①の準備(以下、全てグループ活動):テーマ選択 | |
| 5 模擬授業①の準備:指導案作成 | |
| 6 模擬授業①の準備:指導案作成、練習、準備物作製 | |
| 7 模擬授業①、授業風景のビデオ視聴、自己評価・相互評価 | |
| 8 模擬授業①、授業風景のビデオ視聴、自己評価・相互評価 | |
| 9 模擬授業①、授業風景のビデオ視聴、自己評価・相互評価 | |
| 10 模擬授業②の準備:①の振り返り、テーマ選択 | |
| 11 模擬授業②の準備:指導案作成 | |
| 12 模擬授業②の準備:指導案作成、練習、準備物作製 | |
| 13 模擬授業②、自己評価・相互評価 | |
| 14 模擬授業②、自己評価・相互評価 | |
| 15 模擬授業②、自己評価・相互評価 | |
| 16 | |

●到達目標

1. 学習指導要領に沿った外国語活動の目的・実態の理解
2. 外国語活動の指導に必要な知識・技能の修得
3. グループによる模擬授業への取り組み

●授業時間以外の学習

- ・予習・復習、課題の提出
- ・グループにおける模擬授業の準備活動

●テキスト・参考書等

神保尚武 監修 『やさしく歌える英語のうた』NHK出版
『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』
(文部科学省) 東洋館出版社
『Hi, friends! 1・2』(文部科学省) 東京書籍株式会社

●成績評価

授業態度・提出物(40%) 模擬授業に関わる活動(60%)

●オフィスアワー

火曜日 16:30～17:30 (研究室)

●備考

外国語活動に関する指導法

担当者： 吉村 圭

●科目の概要

この授業では、平成23年度から必修化された小学校「外国語活動」での指導方法を学ぶ。具体的には指導要領に目を通し、授業に必要な英語表現、英語を用いたクイズ、ゲーム等をマスターした上で、2回の模擬授業を行いそれらを実践的に身に付ける。

●授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 指導要領内容、英語表現、コミュニケーション
- 3 指導要領内容、英語表現、異文化・言語理解
- 4 指導要領内容、英語表現、音声・表現への慣れ親しみ
- 5 英語表現、英語のゲーム1
- 6 英語表現、英語のゲーム2
- 7 英語表現、英語の歌
- 8 ミニ模擬授業用指導案作成
- 9 ミニ模擬授業用教材作成
- 10 ミニ模擬授業
- 11 模擬授業用指導案作成
- 12 模擬授業用教材作成
- 13 模擬授業リハーサル
- 14 模擬授業
- 15 模擬授業
- 16

●到達目標

1. 「外国語活動」を実施する際に必要な英語表現、ゲーム等を学び、模擬授業で実践できる

●授業時間以外の学習

・参考書（図書館所蔵）等の関連書籍を参照し、授業で実践可能な表現、ゲーム等を調べる

●テキスト・参考書等

テキスト：小学校学習指導要領解説 外国語活動編（東洋館出版社）、Hi, friends! 1（東京書籍）、Hi, friends! 2（東京書籍）
参考書：小学校教師のための英語発音これだけ！（アルク）、小学校教師のための英語ゲームこれだけ！（アルク）

●成績評価

2度の模擬授業・提出物（70%）、授業貢献度（30%）の総合評価

●オフィスアワー

水曜日 12:55～14:25（研究室）

●備考

道徳教育の研究

担当者： 村若 修

●科目の概要

「道徳」とは何かという問いに始まり、日本の道徳教育の歴史を学んだ上で、「道徳」の授業のあり方、その他の科目を含め、学校生活のなかで行われる道徳教育の実践などについて考えていきます。その中ではまた、子どもの道徳性の発達にも配慮し、年齢に応じた教育内容を考えます。模擬授業もできるだけ取り入れ、実践的な授業を行います。

●授業計画

- 1 「道徳」とは何か、「道徳」は教えられるか
- 2 日本の道徳教育の歴史(1)
- 3 日本の道徳教育の歴史(2)
- 4 世界各国の道徳教育(1)
- 5 世界各国の道徳教育(2)
- 6 道徳性の発達（低学年）
- 7 道徳性の発達（中学年）
- 8 道徳性の発達（高学年）
- 9 道徳教育の理論
- 10 「道徳の時間」の指導
- 11 家庭生活と道徳教育
- 12 学校生活と道徳教育
- 13 社会生活と道徳教育
- 14 倫理学と道徳教育
- 15 道徳教育の可能性
- 16

●到達目標

1. 道徳教育の意味と意義を理解する
2. 日本の道徳教育の歴史と特性を知る
3. 学習指導要領に沿って「道徳の時間」の授業を構成できる

●授業時間以外の学習

・講義の中で、予習または復習の課題を提示することがある

●テキスト・参考書等

テキスト：吉田武男他著『道徳教育の変成と課題 「心」から「つながり」へ』学文社
参考文献：文部科学省『小学校学習指導要領解説 道徳編』

●成績評価

基本的に期末レポート（80%）
小レポートや提出物等（20%）により評価します

●オフィスアワー

火曜日 13:00～14:30（研究室）

●備考

特別活動の研究

担当者： 山元 有一

●科目の概要

特別活動はクラス、あるいはクラスを越えた集団活動を通して、子どもたちの個々の成長とともに、集団の一員としての自覚を深めるためになされる。実践的側面が特別活動では殊のほか重要であり、他の教科との関連性も重視されている。このことを踏まえて、本講義では特別活動全般についての理解を深めたい。

●授業計画

- 1 特別活動とは？——その歴史の変遷、概略
- 2 特別活動で望まれるもの——集団の一員としての自覚
- 3 特別活動で望まれるもの——社会上の基本的モラルの習得
- 4 特別活動で望まれるもの——日本人としての自覚
- 5 個性の伸長と社会性——特別活動における矛盾？！
- 6 小中学習指導要領における特別活動の比較
- 7 小学校における学級活動について
- 8 承前
- 9 児童会活動について
- 10 クラブ活動について
- 11 小学校における学校行事について
- 12 特別活動における教諭の役割
- 13 特別活動と「道徳の時間」との関連性について
- 14 特別活動と他の教科との関連性について
- 15 総括：特別活動の新しい実践的課題と具体策
- 16

●到達目標

1. 特別活動の全般的理解

●授業時間以外の学習

・講義実施中に小学校教育実習があるので、それも事前事後の学習の機会と考えてもらいたい

●テキスト・参考書等

特に使用しないが、小学校学習指導要領は常に持参のこと

●成績評価

レポートにより評価する

●オフィスアワー

水曜日、木曜日を除く 講義のない午後（研究室）

●備考

教育課程・保育課程

担当者： 丸田 愛子

●科目の概要

教育課程と保育課程、各保育計画の意義、種類、構成や基本的な知識について習得する。また、0歳から6歳までの子どもの発達の特徴と生活や遊びについて理解を深め、長期・短期的な指導計画の内容と構成について理解する。

さらに、実際に教育・保育課程や指導計画のサンプルを分析することで、保育のねらいや活動内容を考える力を養う。これらを通して、自ら指導計画を作成することを目標とする。

●授業計画

- 1 保育の基本と計画の意義について
- 2 カリキュラムの基礎理論
- 3 保育内容と保育における計画の必要性（保育所保育指針）
- 4 保育内容と保育における計画の必要性（幼稚園教育要領）
- 5 保育課程の構成（保育園）
- 6 教育課程の構成（幼稚園）
- 7 教育課程編成について（小学校学習指導要領）
- 8 保育の記録と省察について
- 9 保育の計画と評価（1）：0歳児～2歳児
- 10 保育の計画と評価（2）：3歳児～5歳児
- 11 短期計画の作成と検討（1）：保育のねらいと内容、目標
- 12 短期計画の作成と検討（2）：活動内容、環境構成
- 13 指導要録と保育要録
- 14 小学校における計画との関係
- 15 保育・教育課程の変遷と今後の課題
- 16

●到達目標

1. 教育・保育課程の編成の意義や目的について理解する
2. 指導計画の編成方法や内容について理解する
3. 教育・保育課程の今日的課題を知り、理解を深める

●授業時間以外の学習

・配布プリントは、資料として各自整理する。また、それらをもとに事前事後学習をし、不明な点を残さないようにする

●テキスト・参考書等

[テキスト] 特に指定しない
[参考文献等] 『保育所保育指針解説』厚生労働省
『幼稚園教育要領解説』文部科学省

●成績評価

受講態度およびレポート等の提出状況（30%）、学期末筆記試験（70%）による総合評価とする ※筆記試験は60分で実施

●オフィスアワー

水・金曜日 16：30～18：00（丸田研究室）

●備考

単位互換開放対象科目

保育内容（表現Ⅱ）

担当者： 小松 恵理子

●科目の概要

本授業では、領域「表現」において、特に幼児の自発性・好奇心を重視した遊びや体験活動を取り入れた運動による表現活動を通して、幼児の豊かな感性や創造性、ひいては生きる力の基礎を育成する支援の在り方について学びVTRや教科書を通じて、身体表現指導の基礎的理論び、日常の保育から発表会・運動会までの模擬保育を実践する。

●授業計画

- 1 指導要領・保育指針と「領域表現」との関連について
- 2 幼児の身体表現の実際と発達について
- 3 身体表現指導の実際1：歌遊び・手遊びから表現へ
- 4 身体表現指導の実際2：歌遊び・手遊びから表現へ
- 5 身体表現指導の実際3：様々な素材から表現へ
- 6 身体表現指導の実際4：様々な素材から表現へ
- 7 身体表現指導の示範（科目担当者）と討論
- 8 身体表現指導の実際5：季節・生活から表現へ
- 9 身体表現指導の実際6：季節・生活から表現へ
- 10 身体表現指導の実際7：空想・物語から表現へ
- 11 身体表現指導の実際8：空想・物語から表現へ
- 12 身体表現指導の実際9：パレットから表現へ（伴奏音）
- 13 身体表現指導の実際10：パレットから表現へ（編集を含む）
- 14 身体表現指導の実際11：自由な課題から表現へ（伴奏音）
- 15 身体表現指導の実際12：運動会での表現活動へ（編集を含む）
- 16 実技試験

●到達目標

1. 身体表現の基礎理論を身につける
2. 様々な身体表現場面においてオリジナル保育案の作成ができる
3. 作成した保育案を基に模擬保育を実践をすることで実践力を養う

●授業時間以外の学習

- ・参考図書を熟読すること
- ・授業で出される課題に個人やグループで取り組み、授業以前に十分準備し、担当時以前に相談に来ること

●テキスト・参考書等

テキスト：
保育所保育指針
幼稚園教育要領
井上勝子編著：「豊かな感性を育む身体表現遊び」
（株）ぎょうせい

●成績評価

授業中の課題発表・報告レポート（60%）
実技試験（30%）受講態度（10%）等を総合して評価する。

●オフィスアワー

月曜日 午後（研究室）

●備考

単位互開放対象科目

小学校教育実習指導

担当者： 松崎 内田

●科目の概要

小学校教育実習の目的・意義や展開について学び、実際にどのようなことを行うかを理解して、実習に臨む意欲を高める。

また、既習事項の復習や過去の実習事例の検討をとおして、授業参観のポイントの理解や授業づくりに必要な技能の獲得を目指す。学習指導と同じく重要な柱である生活指導等についても理解を図る。

さらに、実習に必要な手続きやマナー等についてもしっかりと理解し、実行できるようにする。

小学校教育実習終了後には事後指導を行い、実習での学びを振り返るとともに、今後に生かそうとする意識を高める。

●授業計画

- 1 小学校教育実習の目的と意義を学ぶ A
- 2 小学校教育実習の準備（書類作成や事前訪問等について） A
- 3 小学校教育実習の展開について学ぶ A
- 4 授業実習に伴う学習指導案の作成について学ぶ B
- 5 授業実習のやり方について学ぶ B
- 6 生活指導等への取り組み方について学ぶ A
- 7 教育実習生としてのマナー等について学ぶ A
- 8 事後指導（小学校教育実習を振り返る） C
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16

●到達目標

1. 小学校教育実習の意義を理解し、実習に臨む意欲をもつ
2. 実習に必要な観察力や技能を習得する
3. 実習を振り返り今後に生かそうとする意識をもつ

●授業時間以外の学習

- ・担当教員や事前訪問での実習校の指導を密に受け、関係書類の作成や実習に関する打ち合わせ等を徹底し、実習に対する意識を高める

●テキスト・参考書等

テキスト：鹿児島女子短期大学児童教育学科『教育実習の手引』
参考書：小泉博明ほか『教育技術 MOOK 小学校・中学校・高校対応 教育実習まるわかり』（小学館）ほか

●成績評価

レポート（90%）受講態度（10%）

●オフィスアワー

責任者＝松崎 火曜日 14：30～16：20（研究室：西411）

●備考

担当：A（松崎） B（内田） C（松崎・内田）

- ・指導への出席を怠ると小学校教育実習に参加できないことがある
- ・1年次の夏季休業中にも実習校への事前訪問が必要となる

小学校教育実習

担当者： 松崎 康弘

●科目の概要

実際に小学校で10日間の教育実習を行うことによって、小学校教師の職務や責任等について実地に学び、自分なりの教師観を構築する。

具体的には、授業実習・参観を通じて授業に必要な知識・技能を習得する。また学級活動・行事や休み時間等における児童との活動をとおして、子ども観を構築する。さらに、講話の聴講等をとおして、小学校教育についての理解を深める。

なお「授業計画」は実習校の計画に従う。(下記計画は、10日間を通じて総合的に学ぶ内容である。)そのため、配当学年や授業実習の回数等は実習校によって異なる。

●授業計画

- 1 講話や学級活動をとおして、実習校について理解する
- 2 授業参観や講話をとおして、授業の在り方を学ぶ
- 3 学級活動への参加や講話をとおして、児童理解を行う
- 4 学校行事への参加や講話をとおして、特別活動等を理解する
- 5 指導教員の補助をとおして、学級経営の在り方を学ぶ
- 6 授業実習に向けて、指導教員の指導を受け指導案を作成する
- 7 授業実習を行い、自身の授業の改善点を探る
- 8 授業実習を行い、児童理解を深める
- 9 評価授業等をとおして、授業実習の仕上げを行う
- 10 実習全体をふりかえり、まとめる
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16

●到達目標

1. 小学校教師の責任ややりがいを実感できる
2. 教師の職務に必要な知識や技能を習得する
3. 児童と接する中で子ども観を構築できる

●授業時間以外の学習

- ・授業実習の準備や実習記録への記入を着実に行うことが求められる

●テキスト・参考書等

テキスト：鹿児島女子短期大学児童教育学科『教育実習の手引』

参考書：見教研修Ⅳ-②で購入する公開研究会学習指導案集
実習校で配布される資料

●成績評価

実習校が評価授業や実習記録等から4観点を用いて総合的に評価した結果に基づき、松崎が最終評価をする(100%)

●オフィスアワー

火曜日 14:30~16:20 (研究室:西411) (※実習期間中は毎日17時以降を目安に、電話やメール等による相談を受け付ける)

●備考

- ・原則として前年度の3月に行われる実習参加資格審査に合格しないと、小学校教育実習には参加できない・参加条件については学生便覧等で確認しておくこと

幼稚園教育実習Ⅱ指導

担当者： 山元 松崎 井上

●科目の概要

2年次に行われる幼稚園教育実習Ⅱに浮いての事前・事後指導である。1年次の基本実習をベースに、各自が実習に向けての意欲や問題意識を高めるとともに、教材研究、指導案作成に新たな観点を加えることができることを中心的な目的とする。

●授業計画

- 1 幼稚園教育実習の意義について (山元・松崎・井上)
- 2 実習に参加する意識・態度について (山元・松崎・井上)
- 3 実習に関する諸手続きについて (山元・松崎・井上)
- 4 実習の形態と目的について (山元・松崎・井上)
- 5 子どもたちの姿の理解に基づく指導計画立案について (同)
- 6 指導計画案の書き方について (山元・松崎・井上)
- 7 実習記録の書き方について (山元・松崎・井上)
- 8 総括 (事後指導) (山元・松崎・井上)
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16

●到達目標

1. 実習の事前事後の作業による人格的技術的向上

●授業時間以外の学習

- ・この指導以前に参加した2つの実習から得られたものや反省材料を踏まえて、新たな課題を各自持つておくこと

●テキスト・参考書等

配布プリントによるため、テキストは使用しない
『教育実習の手引』は持参すること

●成績評価

レポートの提出を義務づける
また、幼稚園教育実習Ⅱの成績とも関連づける

●オフィスアワー

水曜日、木曜日を除く随時
(各教員によって空き時間が異なるため注意すること)

●備考

- ・授業計画以外にも追加の補講を行うので、掲示板に注意

幼稚園教育実習Ⅱ

担当者： 山元 松崎 井上

●科目の概要

実践現場での実習を通して、以下の目的を達成する。

1. 子どもたちの遊びや触れ合いを通して子どもを知る。
2. 子どもとのかわり方をまなぶ。
3. 保育の実践技術・技能を高める。
4. 職員間のチームワークを理解する。
5. 保育の専門家としての資質を高める。
6. 社会的な保育ニーズ、近年の幼稚園を取り巻く状況について理解する。

●授業計画

原則として6月

実習の展開については各幼稚園の指示に従うが、

本学では一応の目安として下記のような実習内容がある

- ・第1段階では観察を中心とした実習を行ってもよい
- ・配属されたクラスの一日の流れをつかむ
- ・保育のねらいや計画、保育者の教育方針を理解する

- ・第2段階では担当クラスの保育をしながら、自らの研究保育のねらいや計画を立て、そのための経験と考察を深める
- ・第3段階では指導計画に沿いながら、それを実践・展開する

●到達目標

1. 実践による子ども理解
2. 保育技術の向上
3. 保育観の形成

●授業時間以外の学習

- ・事前指導はこれまでの実習と幼稚園教育実習Ⅱ指導である
- ・事後指導は、実習終了後に機会を設ける

●テキスト・参考書等

本学作成の『実習の手引き』、また幼稚園教育実習Ⅱ指導で配布したプリントを有効に活用すること。

●成績評価

各実習園が実習態度などに関する本学所定の項目について評価を行い、それをもとに本学が単位認定する

●オフィスアワー

水曜日、木曜日を除く随時（ただし、各教員で空き時間が異なるので注意すること）

●備考

- ・守秘義務を必ず守ること
- ・ブログやツイッターなど一見個人的な場でも発言は控えること
- ・守秘義務が履行されない場合、単位を認めないことがある

造形表現Ⅰ

担当者： 井上 周一郎

●科目の概要

「つくる」活動ならびに工作活動のあり方を幅広く学び、小・幼・保における指導力の向上を目指す。「保育内容（表現Ⅰ）」「図画工作」の発展的な科目として位置づける。

●授業計画

- 1 ペーパークラフトⅠ
- 2 ペーパークラフトⅡ
- 3 ダンボールによる工作Ⅰ
- 4 ダンボールによる工作Ⅱ
- 5 ダンボールによる工作Ⅲ
- 6 身近な材料による工作
- 7 自然物による造形Ⅰ
- 8 自然物による造形Ⅱ
- 9 子どもと造形
- 10 土粘土による造形Ⅰ
- 11 土粘土による造形Ⅱ
- 12 石膏による造形Ⅰ
- 13 石膏による造形Ⅱ
- 14 保育・教育における造形表現活動のあり方Ⅰ
- 15 保育・教育における造形表現活動のあり方Ⅱ
- 16 定期試験

●到達目標

1. 「つくる」活動の専門的な知識や技能、ねらいを習得する
2. 多様な「つくる」活動を通して、創造的な感性を養う
3. 「つくる」活動に関して専門的な指導や援助のあり方を理解する

●授業時間以外の学習

- ・授業に関する自主制作に取り組み、表現の奥深さを感じる
- ・美術館での鑑賞学習を通して、造形表現に対する造詣を深める

●テキスト・参考書等

「幼児造形の研究」編著 辻泰秀 萌文書林
* 随時資料を配布

●成績評価

出席回数と受講態度（10%）レポート（10%）
作品評価（40%）定期試験60分（40%）

●オフィスアワー

月曜日・金曜日 16:25～17:55（研究室）

●備考

社会的養護

担当者： 赤瀬川 修

●科目の概要

社会的養護の理念と概念、歴史、制度・法体系など特に施設保育士に求められる社会的養護原理に関する知識を得るとともに、社会的養護を必要とする子どもや保護者の理解、社会的養護の現状と課題について理解を深めることをめざして授業を行う。

●授業計画

- 1 子どもの社会的養護の基本的な考え方
- 2 子どもの社会的養護の歴史
- 3 子どもの社会的養護の概要
- 4 社会的養護の制度と法体系（1）
- 5 社会的養護の制度と法体系（2）
- 6 施設における子どもの社会的養護
- 7 児童福祉施設の運営・管理と援助者
- 8 施設養護の職員
- 9 施設養護における基本的な援助技術
- 10 社会的養護の実践（1）
- 11 社会的養護の実践（2）
- 12 社会的養護における支援の計画と内容
- 13 児童虐待と児童養護
- 14 施設養護実践の実践（1）
- 15 施設養護実践の実践（2）
- 16 定期試験

●到達目標

1. 社会的養護の理念や概念、制度、今後の課題について理解する
2. 社会的養護を必要とする子どもや保護者について理解する

●授業時間以外の学習

- ・書籍・新聞・インターネットなどで現状について調べる
- ・授業で示す課題に取り組む

●テキスト・参考書等

- ・テキスト：「子どもの養護第2版」松本峰雄編、建帛社
- ・参考図書：「やさしくわかる社会的養護シリーズ1～7」相澤仁編 明石出版

●成績評価

- ・受講態度（10%）レポート・課題（30%）定期試験（60%）

●オフィスアワー

水曜日 16：25～17：55 研究室

●備考

子どもの保健Ⅲ

担当者： 宇都 弘美

●科目の概要

子どもが心身共に健やかに育っていくために、保健管理の実践について具体的に学ぶ。また、子どもが生活している自然環境とそれらの中の健康上の問題点を理解し、健康を維持増進するための援助を考える。さらに、家庭や社会環境における課題についても理解を深め、社会資源を活用した支援を学ぶ。子どもの精神保健とその課題についても理解を深める。

●授業計画

- 1 保育所・幼稚園の健康管理と健康教育
- 2 健康の保持・増進のための組織的取り組みと家庭・関係機関
- 3 日常の健康観察
- 4 健康と自然・保育環境
- 5 健康的な生活習慣と生活習慣病
- 6 思春期の問題行動
- 7 事故予防と子どもの生活の場における安全管理・衛生管理
- 8 児童虐待防止①
- 9 児童虐待防止②
- 10 子どもの生活環境と精神保健
- 11 精神・神経系の病気
- 12 予防接種
- 13 命の大切さを教える教育と性教育①
- 14 命の大切さを教える教育と性教育②
- 15 命の大切さを教える教育と性教育（ビデオ視聴）
- 16 定期試験

●到達目標

1. 自然環境における健康上の問題点を知り、健康を維持増進する
2. 家庭や社会環境における課題の理解し、社会資源を活用できる
3. 子どもの精神保健とその課題について理解する

●授業時間以外の学習

- ・事前学習として授業内容をシラバスで確認し予習をしたり、授業後に約1時間程度の復習をして、授業内容の理解の確認を毎回する

●テキスト・参考書等

- テキスト：1年次に使用した『保育を学ぶ人のための子どもの保健Ⅲ』：堀浩樹他編著、建帛社
- 参考文献：『子どもの保健 第4版』：巷野悟郎著、診断と治療社

●成績評価

- 筆記試験（90分で実施）（100%）

●オフィスアワー

水曜日・金曜日 16：30以降（宇都研究室）

●備考

単位互換科目

子どもの食と栄養

担当者： 河井 マサ子

●科目の概要

栄養の基礎的知識を学び、望ましい食生活のあり方を考え、自ら実践できるようになるとともに、保育士として、乳児期から学童期の子どもたちの食生活上の援助ができる知識と技術を習得し、併せて、食育活動の計画表が作成できるようになる。

●授業計画

- 1 子どもの健康と食生活の意義
- 2 栄養に関する基礎的知識
- 3 献立作成と調理の基礎
- 4 妊娠・胎児期の食生活と栄養
- 5 乳児期の食生活
- 6 離乳期の栄養
- 7 幼児期の食生活と栄養
- 8 学童期の食生活と栄養
- 9 思春期以降の食生活と栄養
- 10 子どもの疾患と食生活
- 11 食物アレルギーと食生活
- 12 障がいのある子どもの食生活食物アレルギーと食生活
- 13 児童福祉施設における食生活と栄養
- 14 食育の基本
- 15 食育の実践
- 16 定期試験

●到達目標

1. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める
2. 食育の基本・内容及び食育のための環境等を理解する
3. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題を学ぶ

●授業時間以外の学習

- ・事前授業としてテキストの熟読と疑問点の洗い出しを行う
- ・家庭での調理の実践や食品表示を見て商品を購入する習慣も望ましい

●テキスト・参考書等

テキスト：新時代の保育双書『子どもの食と栄養』第2版
(株) みらい
参考文献：『新カラーチャート 食品成分表』 教育図書

●成績評価

定期試験 (70%) 課題提出 (20%) 受講態度 (10%)

●オフィスアワー

講義時間の前後 (非一室)

●備考

社会的養護内容

担当者： 赤瀬川 修

●科目の概要

社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について学び、施設養護及び社会的養護の実際について理解する。また、個々の児童に応じた支援計画の作成、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等について事例を通して具体的に学び理解を深めることを目指し授業を行う。

●授業計画

- 1 社会的養護の理論 (1) 社会的養護の実践と保育
- 2 " (2) 社会的養護の理念と機能・枠組み
- 3 " (3) 社会的養護を必要とする子どもの理解と権利
- 4 " (4) 施設養護のプロセス
- 5 " (5) 記録及び評価
- 6 ケーススタディ (1) 施設への入所前後の支援
- 7 " (2) 個別支援計画の作成 1
- 8 " (3) 個別支援計画の作成 2
- 9 " (4) 日常生活支援 1
- 10 " (5) 日常生活支援 2
- 11 " (6) 治療的支援
- 12 " (7) 自立支援
- 13 " (8) 家庭養護へ向けての支援
- 14 " (9) ソーシャルワーク 1
- 15 " (10) ソーシャルワーク 2
- 16 定期試験

●到達目標

1. 施設養護及び社会的養護の実際について理解する
2. 支援計画作成、日常生活支援、治療的支援等を理解する

●授業時間以外の学習

- ・自らの日常生活技術を高めることを普段から意識して生活する
- ・授業で示す課題に取り組む

●テキスト・参考書等

・テキスト：「演習・保育と社会的養護内容」橋本好市編、みらい
・参考図書：「やさしくわかる社会的養護シリーズ1～7」
相澤仁編、明石出版

●成績評価

・受講態度 (10%) レポート・課題 (40%) 定期試験 (50%)

●オフィスアワー

水曜日 16:25～17:55 研究室

●備考

施設実習Ⅰ指導

担当者： 赤瀬川 松下

●科目の概要

各社会福祉施設の設置目的と法的根拠を理解し、それぞれの現状と課題及び職員役割や地域社会との連携について学ぶ。特に学生が実習先に選定した施設については、対象者の把握や具体的援助の方法を学習する。

●授業計画

- 1 社会的養護児の受け入れ施設の現状と役割について学ぶ
- 2 施設実習における諸手続き等について学ぶ
- 3 実習日誌等の記入方法について学ぶ
- 4 障がい児の通所、入所支援施設について役割と現状を学ぶ
- 5 児童養護施設や乳児院の役割や現状について学ぶ
- 6 障がい者支援施設の役割や現状について学ぶ
- 7 児童自立支援施設、母子生活支援施設の役割等について学ぶ
- 8 福祉施設における生活支援員の職務内容や役割について学ぶ
- 9 実習先での学びについて振り返る
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16

●到達目標

1. 児童福祉施設での保育士の職務内容と役割について理解する
2. 具体的な支援技術と日誌等の記録方法を理解し身に付ける

●授業時間以外の学習

- ・実習先の施設情報を整理する
- ・利用者（入所者）等と事前に接する機会を作る

●テキスト・参考書等

テキスト：鹿児島女子短期大学児童教育学科『保育実習の手引き』
幼稚園 保育所 児童福祉施設等実習ガイド 石橋裕子
林 幸範 編著 同文書院

●成績評価

受講態度（20%）
事前レポートと事後報告書（80%）

●オフィスアワー

水曜日 16：25～17：55 赤瀬川研究室

●備考

施設実習Ⅰ

担当者： 赤瀬川 松下

●科目の概要

各福祉施設で実習を受け、社会福祉の専門職として利用者への具体的な支援技術を学ぶと共に、職員とのチームワークを経験し職業意識を高める。

●授業計画

- 1 実習先施設の計画書に基づいて実施する
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16

●到達目標

1. 実習先での現状を理解し、具体的な支援方法を身に付ける
2. 個別支援計画に基づいた支援について理解する

●授業時間以外の学習

- ・施設長や実習担当職員からの助言を整理しておく
- ・関係機関との連携について考察しておく

●テキスト・参考書等

テキスト：鹿児島女子短期大学児童教育学科『保育実習の手引き』

●成績評価

・実習先の評価による（100%）

●オフィスアワー

第1・第3水曜日 16：25～17：55（赤瀬川研究室）

●備考

保育所実習Ⅱ指導

担当者： 宇都 丸田

●科目の概要

保育所実習の意義と目的を再確認し、既習の教科や保育所実習Ⅰの経験を踏まえ、保育実践力を培う。また、保育の観察、実践、記録及び自己評価等を踏まえ、保育の改善について学ぶ。さらに、実習の事後指導等を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育についての課題を明らかにする。

●授業計画

| | |
|-------------------------------|---|
| 1 保育所実習Ⅰ事後指導及び保育所実習Ⅱに向けて | A |
| 2 保育所実習Ⅰでの各自の課題の確認 | B |
| 3 実習記録の記載法の再確認、保育場面画像を視聴し記録する | B |
| 4 保育場面画像を視聴し記録する | B |
| 5 各自の保育所実習Ⅱの目標の設定について | B |
| 6 事前訪問について | A |
| 7 事前訪問後の記録の整理及び指導案作成のための教材研究 | B |
| 8 腸内細菌検査及びびぎょう虫卵検査について | B |
| 9 検査結果配布と実習準備の確認 | B |
| 10 実習事後指導、レポート提出 | B |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

●到達目標

1. 既習の教科や保育所実習Ⅰの経験を踏まえ、保育実践力を培う
2. 実習の総括と自己評価を行い、自身の保育の課題を明らかにする

●授業時間以外の学習

- ・事前学習として授業内容をシラバスで確認し予習をしたり、授業後に30分～1時間程度の復習をして、各自で行う実習までの準備をする

●テキスト・参考書等

テキスト：『保育実習の手引き』：鹿児島女子短期大学児童教育学科編
参考文献：『保育所保育指針ハンドブック』：大場幸夫監修，学研『新訂 幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド』：石橋裕子編者，同文書院

●成績評価

実習準備の取組み状況とレポート（実習の終了報告書）で総合的に評価する（100%）

●オフィスアワー

水曜日・金曜日 16：30以降（宇都研究室）

●備考

A（宇都 丸田） B（宇都）

保育所実習Ⅱ

担当者： 宇都 丸田

●科目の概要

既習の教科や保育所実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について学ぶ。また、保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実践し、理解を深める。さらに、保育所の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理、家庭・地域社会との連携について総合的に学び、自己の子ども観や保育観の確立を目指す。

●授業計画

| | |
|-----------------------------|--|
| 1 保育所の社会的役割と責任 | |
| 2 保育所での生活や子どもの状態と保育士等の動きや実践 | |
| 3 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・評価 | |
| 4 入所児の保護者支援や地域の子育て家庭への支援 | |
| 5 多様な保育の展開と保育士等の業務と連携について | |
| 6 地域社会との連携 | |
| 7 実習を通しての保育士としての自己の課題の明確化 | |
| 8 | |
| 9 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

●到達目標

1. 保育課程に基づく指導計画の一部を実践し、評価する
2. 入所児の保護者支援や地域の子育て家庭への支援を学ぶ
3. 実習を通して、保育士としての自己の課題を明確にする

●授業時間以外の学習

- ・毎日、帰宅してから実習を振り返り、実習記録を作成する
- ・実習終了後は、実習を総括して記録をすべて仕上げて実習先に提出する

●テキスト・参考書等

テキスト：『保育実習の手引き』：鹿児島女子短期大学児童教育学科編
参考文献：『保育所保育指針ハンドブック』：大場幸夫監修，学研『新訂 幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド』：石橋裕子 編著，同文書院

●成績評価

・本学の定めた評価表に従って、各実習先が評価する（100%）・評価の観点は、実習の態度、保育・援助の実践、実習記録の3項目

●オフィスアワー

水曜日・金曜日 16：30以降（宇都研究室）

●備考

施設実習Ⅱ指導

担当者： 赤瀬川 松下

●科目の概要

施設実習Ⅰ指導や施設実習Ⅰでの経験を踏まえ、より専門性を身に付けるため、具体的な支援が可能になるよう個別の支援計画の作成体験からケース会議への参加など、実践に近い実習ができるよう学習する。

●授業計画

- 1 実習報告書を基に報告会を実施し、反省点や課題を整理する
- 2 実習報告書を基に報告会を実施し、次回への抱負を考える
- 3 各実習施設の困難事例について考察し、支援方法を学習する
- 4 個別支援計画の立て方について学習する
- 5 ケース会議等の参加方法について学ぶ
- 6 児童相談所とのやり取りや関係について学ぶ
- 7 地域との関係性構築について学習する
- 8 施設の苦情解決システムと運営について学ぶ
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16

●到達目標

- 1, 実習Ⅰでの経験を生かし、より専門的な支援技術を身に付ける
2. 個別支援計画に基づいた支援の必要性和具体的な方法を理解する

●授業時間以外の学習

- ・実習先での困難事例について整理しておく
- ・職員の具体的な支援技術についてまとめておく

●テキスト・参考書等

テキスト：鹿児島女子短期大学児童教育学科『保育実習の手引き』
稚園 保育所 児童福祉施設等 実習ガイド 石橋裕子
林 幸範 編著 同文書院

●成績評価

受講態度（20%）
事前レポートと事後報告書（80%）

●オフィスアワー

水曜日 16：25～17：55（赤瀬川研究室）

●備考

施設実習Ⅱ

担当者： 赤瀬川 松下

●科目の概要

各福祉施設で実習Ⅰを受け、社会福祉の専門職として利用者への具体的な支援技術をより深く学ぶと共に、職員とのチームワークや地域及び関係機関とのやり取りを経験し、資質向上を図る。

●授業計画

- 1 実習先施設の計画に基づいて実施する
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16

●到達目標

1. 実習先での経験を生かし、より具体的な支援方法を身に付ける
2. 個別支援計画の作成を経験し、利用者の特徴を理解する

●授業時間以外の学習

- ・ケース会議や職員会議について方法や内容を整理しておく
- ・地域との関係機関や連携について考察しておく

●テキスト・参考書等

テキスト：鹿児島女子短期大学児童教育学科『保育実習の手引き』
幼稚園 保育所 児童福祉施設等 実習ガイド 石橋裕子
林 幸範 編著 同文書院

●成績評価

・実習先の評価による（100%）

●オフィスアワー

第1・第3水曜日 9：10限（赤瀬川研究室）

●備考

学校図書館メディアの構成

担当者： 川戸 理恵子

●科目の概要

学校図書館は、児童や生徒が学習活動や読書活動を行うために利用される場所である。学校における教育活動に有益な学校図書館を作り上げるため、学校図書館メディアの役割や、必要とされるメディアの種類、特質、組織化について理解をする。

●授業計画

- 1 学校図書館メディアの意義と役割
- 2 学校図書館メディアの種類と特性
- 3 学校図書館メディアの収集
- 4 学校図書館メディアの整理
- 5 目録作業の概要
- 6 目録作業の実際(1) (演習①)
- 7 目録作業の実際(2) (演習②)
- 8 主題分析の概要、件名付与の概要
- 9 件名付与の実際
- 10 分類作業の概要
- 11 分類作業の実際(1) (演習①)
- 12 分類作業の実際(2) (演習②)
- 13 学校図書館メディアの配架
- 14 学校図書館メディアの保存
- 15 総括
- 16 定期試験

●到達目標

1. 学校図書館メディアの種類・性質と扱い方について理解する
2. 学校図書館のメディアの組織法について理解する

●授業時間以外の学習

- ・授業前には、授業内容の理解を深められるように提示された資料をよく読むこと
- ・授業後は、授業内容を踏まえて知識の整理をすること

●テキスト・参考書等

テキスト)なし(講義中にプリント配布)
参考書)『日本目録規則 1987年版改訂3版』日本図書館協会, 2006 / 『日本十進分類法 新訂10版』日本図書館協会, 2014 / 『小学校件名標目表 第2版』全国学校図書館協議会, 2004

●成績評価

学期末試験の成績(70%) ※筆記試験は70分で実施 / 受講態度(10%)、授業中の指示した課題の提出(20%)

●オフィスアワー

火曜日 16:20~17:20 (研究室)

●備考

社会

担当者： 松崎 康弘

●科目の概要

社会科教育法で学んだ基礎的な理論等を踏まえ、地域や子どもの実態に応じて社会科の具体的な教材開発ができることを目的とする。
「実践研究・教材開発」では様々なテーマを提示し、その実践事例について検討するとともに、自分ならどのような実践を行うか考える。
「フィールドワーク」では、県や市町村の産業についての学習で使われる場へ赴き、地域と教育の関係を理解するとともに、将来、調べ学習活動を指導できる資質を身につける。

●授業計画

- 1 イントロダクション(本科目のねらい等の理解)
- 2 実践研究・教材開発①(マンガの教材化)
- 3 実践研究・教材開発②(恋愛の教材化)
- 4 実践研究・教材開発③(CMの教材化)
- 5 実践研究・教材開発④(食育と社会科)
- 6 実践研究・教材開発⑤(法教育)
- 7 実践研究・教材開発⑥(地名教育)
- 8 実践研究・教材開発⑦(地域の歴史教材)
- 9 調べ学習・見学体験学習の実践研究
- 10 フィールドワーク目的の地域性理解
- 11 フィールドワーク①(鹿児島県内の産業)
- 12 フィールドワーク②(鹿児島県内の産業)
- 13 フィールドワーク③(鹿児島県内の産業)
- 14 フィールドワークのふりかえりと授業構想
- 15 総括
- 16

●到達目標

1. 様々な教材の有用性を理解する
2. 体験をとおして地域と教育の関係を理解する
3. 授業内容を応用して自分なりの教材を構想できる

●授業時間以外の学習

- ・受講生には教材開発の発表を課すので、しっかりと準備をすること

●テキスト・参考書等

テキスト: 文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』(東洋館出版社)
参考書: 谷川彰英編著『日韓交流授業と社会科教育』(明石書店) ほか

●成績評価

最終レポート50% 発表20% ミニレポート30%

●オフィスアワー

火曜日 14:30~16:20 (研究室:西411)

●備考

単位互換開放科目
フィールドワークは日曜または祝日を使い、丸一日かけて行う数千円の費用が必要となる
COC 科目

理科

担当者： 横峯 孝昭

●科目の概要

小学校学習指導要領に示されている理科の目標を理解し、各学年における目標、それに対応する学習内容について理解を深めることを目的とする。

●授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 小学校理科の全体目標
- 3 小学校理科の単元
- 4 学習指導案の作成について（小学校教科書をもとに）
- 5 小学校理科の基本的な考え方 物理編
- 6 小学校理科の基本的な考え方 化学編
- 7 小学校理科の基本的な考え方 生物編
- 8 小学校理科の基本的な考え方 地学編
- 9 小学校理科の基本的な考え方 総括
- 10 ものづくりについて考える①（仮説実験授業とは）
- 11 ものづくりについて考える②（各々の教材研究について）
- 12 ものづくりについて考える③（各々の教材研究について）
- 13 ものづくりについて考える④（各々の教材研究について）
- 14 ものづくりについて考える⑤（各々の教材研究について）
- 15 総括
- 16

●到達目標

1. 小学校理科教育の目標を理解する
2. ものづくりを模擬授業を通して考え、実践力を養う

●授業時間以外の学習

- ・理科としての知識は中学校までの一般常識があれば十分である
- ・その点を踏まえて事前に勉強をしておくが良い・ものづくりのための教材研究を学年ごとに考える努力をしてもらいたい

●テキスト・参考書等

<参考書>
ものづくりハンドブック1～7「楽しい授業」編集委員会（仮説社）

●成績評価

講義中に課す課題の達成によって評価する（100%）

●オフィスアワー

月曜日 14：40～18：00（研究室）

●備考

家庭

担当者： 山崎 歌織

●科目の概要

学習指導要領に示された家庭科の目標・内容について、科学的な根拠や実践的・体験的な活動を考慮し、多様化する家庭生活に対応できるように、基礎的内容を中心に進めていく。

また、実習を行い実習を取り入れた授業での指導法や注意点についても検討していく。

●授業計画

- 1 家庭科の目標・内容について
- 2
- 3 } 日常の食事と調理の基礎（2～6）
- 4 } 栄養・食品・調理・献立・食生活に関する指導の基礎
- 5 } 食生活指針について
- 6
- 7 } 快適な衣服（7～10）
- 8 } 着方・手入れ・被服材料・製作に関する指導の基礎
- 9 }
- 10 }
- 11 }（11～13）
- 12 } 快適な住まい・身近な消費生活と環境
- 13 } 快適な住まい方・物の選び方・購入に関する指導の基礎
- 14 調理実習（調理の基本）
- 15 全体の総括
- 16

●到達目標

1. 小学校家庭を指導するために必要な基礎知識や指導法を習得し、社会や家庭生活の変化に対応した指導ができることを目指す
2. 家庭生活の変容を認識し、その環境に合わせた指導法について考える

●授業時間以外の学習

- ・次回の授業範囲についてテキストを読む
- ・復習として、専門用語の意味を理解する

●テキスト・参考書等

テキスト：小学校家庭科の指導・中間美佐子，多々納道子・建帛社
文部科学省著・小学校学習指導要領解説 家庭編
株式会社東洋館出版社

参考文献：適宜、プリントを配布
視聴覚機器：ビデオ VHS、DVD

●成績評価

筆記試験（60分で実施）60%・課題レポート30%・受講態度10%の総合評価

●オフィスアワー

金曜日 14：00～17：00（研究室：西205）

●備考

カウンセリング入門

担当者： 松元 理恵子

●科目の概要

悩みを抱えた心に触れ、耳を傾け、理解しようとするときには、自分の心を見つめることを含んだ包括的な視点を持つことが大切になる。自分自身の心を見つめ直し、自己理解を深めながら、他者理解をしていく過程を「聴く」練習やワークを通して体験し、理解を深める。心の課題にともに向き合い、日常生活の中でも実践していけるカウンセリングの演習体験を通し、人間性の尊重を軸とした心理的援助を学ぶ。

●授業計画

- 1 エンカウンターについて（体験学習）
- 2 カウンセリングの理論1（精神分析、自己理論）
- 3 カウンセリングの理論2（行動療法、論理療法他）
- 4 カウンセリングの技法1（受容、繰り返し、明確化）
- 5 カウンセリングの技法2（支持、質問）
- 6 カウンセリングの非言語的技法（体験学習）
- 7 対話上の諸問題への対処法（ロールプレイング）
- 8 青年期の課題（グループワーク、ロールプレイング）
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16

●到達目標

1. カウンセリングの基礎的理論を理解する
2. カウンセリングにおける「みため」を理解する
3. 援助に必要な相談・面接技法を習得する

●授業時間以外の学習

・専門用語や次に取り上げるテーマについて、テキストを読んで予習をする ・授業後は、配布されたレジュメとテキストを照合しながら読み直す

●テキスト・参考書等

テキスト：ピアヘルパーハンドブック
日本教育カウンセラー協会編 図書文化
参考文献：ピアヘルパーワークブック
日本教育カウンセラー協会編 図書文化

●成績評価

レポート提出（60%）、講義で出された課題（レポート等）の提出状況（30%）、受講および演習態度（10%）

●オフィスアワー

火曜日・木曜日 12:05～12:55 研究室

●備考

ピアヘルパー受験資格必修

生涯学習論

担当者： 山元 有一

●科目の概要

生涯学習は1960年代から、余暇と労働の逆転現象を背景に成立し始めている。また、それは知識のあり方の変容をも背景としている。本講義では「生涯にわたって学ぶこと」の重要性を知るとともに、そうした態度を他社にどうやって伝えるかを考えていく。

●授業計画

- 1 知るとはあるいは学ぶとは？——学校教育における「学び」
- 2 承前——高等教育機関における「学び」
- 3 承前——職業生活における「学び」
- 4 承前——老年期における「学び」
- 5 生涯学習の歴史と展開——労働と余暇との関係で
- 6 承前——生涯学習支援施設とその活動
- 7 事例課題：音楽は「楽しむ」ものか？——知識の構造化①
- 8 事例課題：自然科学は「解く」ものか？——②
- 9 事例課題：歴史は「覚える」ものか？——③
- 10 事例課題：ロックや映画は生涯学習になるのか——④
- 11 事例課題：美食家は生涯学習をしているのか——⑤
- 12 事例課題：読書するだけで生涯学習しているのか——⑥
- 13 生涯学習と政治問題・倫理問題
- 14 生涯学習の現状と課題
- 15 総括：「学び」はどうあるべきか？
- 16

●到達目標

1. 生涯学習の意義と内容
2. 学生自身の将来にわたる学習意欲の形成

●授業時間以外の学習

・科目の性質上、すべてが事前事後の学習であり、生涯にわたる学びが必要である

●テキスト・参考書等

使用しない

●成績評価

レポートにより評価する

●オフィスアワー

水曜日・木曜日を除く午後（研究室）

●備考

生活科教育法

担当者： 松崎 康弘

●科目の概要

主に学習指導要領の読み込みや、教科書記述や「実践事例の検討」とおして、生活科の目標・内容・方法・評価等について、9つの学習内容それぞれに即して学ぶ。

また、生活科を核とした保・幼・小連携等について学び、幼児教育における遊びを教科教育の学びに変換する生活科の役割を理解して、将来、それぞれの立場で実践できることを目指す。

●授業計画

- 1 イントロダクション（自分の受けた生活科を振り返る）
- 2 「学校と生活」の目的と実践事例を学ぶ
- 3 「家庭と生活」の目的と実践事例を学ぶ
- 4 「地域と生活」の目的と実践事例を学ぶ
- 5 「公共物や公共施設の利用」の目的と実践事例を学ぶ
- 6 「季節の変化と生活」の目的と実践事例を学ぶ
- 7 「自然や物を使った遊びの工夫」の目的と実践事例を学ぶ
- 8 「動植物の飼育・栽培」の目的と実践事例を学ぶ
- 9 「生活や出来事との交流」の目的と実践事例を学ぶ
- 10 「自分の成長」の目的と実践事例を学ぶ
- 11 生活科を核とした保・幼・小連携について学ぶ
- 12 生活科の教科書の在り方について学ぶ
- 13 生活科の評価の在り方について学ぶ
- 14 生活科と各教科や「総合的な学習の時間」の関係を学ぶ
- 15 まとめ（生活科の本質について考える）
- 16 定期試験

●到達目標

1. 生活科の目標・内容・方法・評価等について理解する
2. 生活科をととした保幼小連携の在り方について理解する

●授業時間以外の学習

- ・テキストの記述内容と授業で紹介する実践事例を結び付けまとめておくこと

●テキスト・参考書等

テキスト：文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編』（日本文教出版）

参考書：文部科学省検定教科書『あたらしいせいかつ』（加藤ほか代表、松崎ほか著作 東京書籍）、日本生活科・総合的学習教育学会『生活科・総合の実践ブックレット』各号 ほか

●成績評価

筆記試験（100%）

●オフィスアワー

火曜日 14：30～16：20（研究室：西411）

●備考

単位互換開放科目

家庭科教育法

担当者： 大倉 洋代

●科目の概要

家庭科教育の現代的課題と学習理論、学習法について国内外の動向をとらえたうえで、家庭科の授業やカリキュラムモデルを教科の特質と児童生徒の生活課題を踏まえ評価、提案することを通し、授業実践力を養う。

「生活的に自立できる人間像」「家族や地域社会の人々と共生できる人間」「環境に配慮したライフスタイルづくりを目指す人間」等家庭科で育てたい人間像について、考える力を養う。

●授業計画

- 1 学校家庭科の歴史の変遷
- 2 小学校家庭科の特徴（児童の発達段階と関連して）
- 3 小学校家庭科の学習指導要領
- 4 小学校家庭科の指導内容1（家庭生活と家族で家族を教える）
- 5 小学校家庭科の指導内容2（日常の食事と調理の基礎）
- 6 小学校家庭科の指導内容3（衣服と住まいで生活技術を習得）
- 7 小学校家庭科の指導内容4（消費生活と環境を考える）
- 8 小学校家庭科の指導方法（児童の活動を主体とした授業展開）
- 9 年間指導計画の作成について（学校行事と総合的な計画立案）
- 10 小学校家庭科の教材研究の方法（教材研究のための資料収集）
- 11 小学校家庭科の指導案作成（指導案の書き方の基礎）
- 12 小学校家庭科の評価（自己評価の活用）
- 13 授業改善の方法（カリキュラム評価）
- 14 家庭科をとりまく課題（食育、金銭教育、環境教育との関連）
- 15 総括・小学校家庭科を教えるために体験的な活動の重要性
- 16

●到達目標

1. 家庭科教育の現代的課題と学習理論をふまえ、求められている学習方法を説明できる

●授業時間以外の学習

- ・日常の食事から食育についてレポート作成
- ・衣服生活で小物作り作成、快適な住まいで住設計

●テキスト・参考書等

テキスト：

『わたしたちの家庭科 小学校5・6』開隆堂

文部科学省著・小学校指導要領解説 家庭編・株式会社東洋出版
小学校家庭科の指導 中間美佐子、多々納道子・建邦社

●成績評価

筆記試験（60分で実施）40% ・課題レポート40% ・受講態度20%の総合評価

●オフィスアワー

講義時間の前後（非常勤講師室・講義室 等）

●備考

保育指導法の研究

担当者： 坪井 敏純

●科目の概要

保育における生活と遊びの指導・援助について理解する。実習の経験を踏まえて理論と実践を繋げる保育の考え方を身に付けることを目標としている。そして実践的な指導法を「保育者の専門性」という観点から、深く理解を進める。

●授業計画

- 1 幼児理解と指導法
- 2 遊びについて
- 3 保育における遊びの指導と環境構成
- 4 遊びと保育者の関わり1（見守り）
- 5 遊びと保育者の関わり2（直接・間接的指導・援助）
- 6 遊びと保育者の関わり3（直接・間接的指導・援助）
- 7 葛藤（いざこざ）の援助
- 8 生活（日課）と保育の指導1
- 9 生活（日課）と保育の指導2
- 10 保育形態の考え方や指導（設定保育と自由保育）
- 11 保育形態の考え方や指導（年齢別保育と異年齢保育）
- 12 障害のある子どもの保育
- 13 保育の評価と方法（保育の自己評価）
- 14 保育制度と子育て支援のあり方
- 15 表現活動と幼児理解（研修VI）
- 16

●到達目標

1. 幼児の視点で考えることが出来る
2. 保育を理論的に裏付けができる
3. 望ましい保育を具体的な実践例で考えることができる

●授業時間以外の学習

事前学習では、教育・保育実習で学んだことをまとめ、振り返りをする。事後学習では「小さいなかま」「現代と保育」「保育白書」などの書籍から、現在の保育問題を理解し、保育観・教育観を深め

●テキスト・参考書等

テキスト：
保育所保育指針解説
幼稚園教育要領解説
認定こども園保育要領

●成績評価

課題（レポート等）の達成（70%） 受講態度（30%）

●オフィスアワー

水曜日 16:30~18:00（研究室）

●備考

単位互換科目、他学科開放科目

保育内容（人間関係）

担当者： 坪井 敏純

●科目の概要

保育所保育指針・幼稚園教育要領・保育要領に沿って領域「人間関係」の「ねらい」「内容」及び留意事項等について解説し、「内容」を理解し、その指導・援助について、理論的な理解と具体的な実践方法を知る。

●授業計画

- 1 領域「人間関係」の目標
- 2 領域「人間関係」のねらいと内容の構造
- 3 領域「人間関係」のねらいと内容1
- 4 領域「人間関係」のねらいと内容2
- 5 領域「人間関係」のねらいと内容3
- 6 領域「人間関係」のねらいと内容4
- 7 領域「人間関係」のねらいと内容5
- 8 領域「人間関係」の配慮事項と指導計画
- 9 子どもの社会性の発達1（主体性と依存）
- 10 子どもの社会性の発達2（仲間との遊びと仲間とのかかわり）
- 11 子どもの社会性の発達3（対人関係の深化と協力・協同）
- 12 子どもの社会性の発達4（いざこざ）
- 13 道徳性の発達
- 14 向社会性の発達
- 15 集団と個の指導・援助あり方
- 16

●到達目標

1. 幼児の視点で考えることが出来る
2. 保育を理論的に裏付けができる
3. 望ましい保育を具体的な実践例で考えることができる

●授業時間以外の学習

事前学習では、教育・保育実習で学んだことをまとめ、振り返りをする。事後学習では「小さいなかま」「現代と保育」「保育白書」などの書籍から、現在の保育問題を理解し、保育観・教育観を深め

●テキスト・参考書等

テキスト：
保育所保育指針解説
幼稚園教育要領解説
認定こども園保育要領

●成績評価

課題（実技・レポート等）（80%）
受講態度（20%）

●オフィスアワー

水曜日 16:30~18:00（研究室）

●備考

単位互換科目、他学科開放科目

保育内容（表現Ⅲ）

担当者： 中村 礼香

●科目の概要

幼児の音楽表現指導法を修得する。また、ピアノのレッスンにおいては弾き歌い曲や保育現場でよく歌われる曲を修得する。

●授業計画

- 1 リトミックⅠ（リズム）及びピアノ
- 2 リトミックⅡ（拍・拍子）及びピアノ
- 3 リトミックⅢ（フレーズ・高低）及びピアノ
- 4 リトミックⅣ（ニュアンス）及びピアノ
- 5 リトミックⅤ（絵本・ストーリー）及びピアノ
- 6 領域「表現」概要講義及びピアノ
- 7 幼児音楽教育理論講義及びピアノ
- 8 ハンドベル合奏及びピアノ
- 9 器楽合奏基礎及びピアノ
- 10 器楽合奏応用及びピアノ
- 11 手話を使った歌唱活動及びピアノ
- 12 絵本を使った効果音づくり及びピアノ
- 13 絵本を使った効果音発表及びピアノ
- 14 手作り楽器及びピアノ
- 15 弾き歌い試験及びピアノ
- 16 定期試験

●到達目標

1. 様々な音楽表現ができるようになる
2. 幼児音楽教育の理論を理解する

●授業時間以外の学習

- ・指導案の作成や、発表のための事前練習を行う
- ・ピアノレッスンには練習した上で臨む

●テキスト・参考書等

テキスト：
うたとあそび（鹿児島市私立幼稚園協会編）
ピアノ教則本（ソナチネアルバム等）
参考書： 新・幼児の音楽教育（井口太編、朝日出版社）

●成績評価

- ・クラシック実技試験50%・弾き歌い試験25%・受講態度25%

●オフィスアワー

火曜日 13:00～16:00（中村研究室）

●備考

45分演習、45分ピアノレッスンで授業を構成する

保育・教職実践演習

担当者： 松崎ほか17名

●科目の概要

実習を含めた1年半の学びを振り返った上で、「保育者の職務内容」「子ども理解」「保育指導力」という教職実践演習に求められるテーマについて、これらの背景にある「地域」を意識しながら、教員による講義と学生による討論を組み合わせる形で考察し、理解を深める。

また、模擬保育等を実施し、実習での学生自身の経験と照らし合わせることで実践力を高めるとともに、保育者や保育の在り方について考える。

さらに、本演習も含めた短大での学びを総括し、自分なりの保育者観・保育観を確立することを目的とする。

●授業計画

- | | |
|-----------------------------|---|
| 1 オリエンテーションと実習のふりかえり | A |
| 2 講義①（保育者の職務内容について学ぶ） | A |
| 3 討論①（保育者の職務内容について討論を行う） | E |
| 4 講義②（子ども理解について学ぶ） | B |
| 5 討論②（子ども理解について討論を行う） | E |
| 6 講義③（保育指導力について学ぶ） | C |
| 7 討論③（保育指導力について討論を行う） | E |
| 8 ロールプレイ（既習事項を用いて役割演技） | E |
| 9 模擬保育①（模擬保育の計画づくり） | E |
| 10 模擬保育②（模擬保育の教材製作等） | E |
| 11 模擬保育③（地域の子どもに対する模擬保育の実行） | E |
| 12 模擬保育④（模擬保育の反省的検討） | E |
| 13 講義④（保育の意義について学ぶ） | D |
| 14 討論④（保育の意義について討論を行う） | E |
| 15 総括（演習のふりかえりと保育者観の確立） | |
| 16 | |

●到達目標

1. 講義・討論等をおして子ども理解や保育理解を深化する
2. 模擬保育等をおして保育職としての実践力を高める
3. 自分なりの保育者観・保育観を確立できる

●授業時間以外の学習

- ・講義に基づいた討論や、模擬保育の準備を計画的に行うこと

●テキスト・参考書等

テキスト：指定しない。
参考書：小原敏郎ほか編著『保育・教職実践演習 保育者に求められる保育実践力』（建帛社）ほか

●成績評価

レポート100%

●オフィスアワー

松崎（責任者）：火曜日 14:30～16:20（研究室：西411）

●備考

A＝松崎 B＝坪井・平嶋・横峯・丸田・黒原 C＝小松・瀬戸・新村・井上・中村・松下 D＝瀬戸口・大村・池田・山元・宇都・赤瀬川 E＝全教員 COC科目
履修カルテの提出を求める。

教職実践演習（幼・小）

担当者： 村若 松崎 内田

●科目の概要

実習を含めた1年半の学びを振り返った上で、「教師の職務内容」「児童理解」「教科の指導力」という、教職実践演習に求められるテーマについて、これらの背景にある「地域」を意識しながら教員による講義と学生による討論を組み合わせる形で考察し、理解を深める。

また、小学校の公開研究会の授業を参観し、小学校教育実習での学生自身の経験と照らし合わせることで、教師や授業の在り方について考える。

さらに、本演習も含めた短大での学びを総括し、自分なりの教師観・教育観を確立することを目的とする。

●授業計画

| | |
|------------------------|---|
| 1 オリエンテーションと実習のふりかえり | A |
| 2 講義①（教師の職務内容について学ぶ） | A |
| 3 討論①（教師の職務内容について討論） | D |
| 4 講義②（児童理解について学ぶ） | B |
| 5 討論②（児童理解について討論） | D |
| 6 講義③（山下小学校公開研究会事前指導） | C |
| 7 実地見学（山下小学校公開研究会授業参観） | C |
| 8 討論③（授業参観での学びについて討論） | D |
| 9 講義④（教科の指導力について学ぶ） | C |
| 10 討論④（講義④を踏まえて討論） | D |
| 11 製作①（2年間の学びをふりかえる） | D |
| 12 製作②（2年間の学びを表現する） | D |
| 13 講義⑤（教職の意義について学ぶ） | D |
| 14 討論⑤（教職の意義について討論） | D |
| 15 総括（教職観の構築） | D |
| 16 | |

●到達目標

1. 講義等を通して子ども理解や授業・保育理解を深化する
2. 討論や製作等の協同的活動をとおして互いの教育観を理解できる
3. 実地見学等をとおして、自分なりの教師観・教育観を確立できる

●授業時間以外の学習

・講義を受けて討論を行うスタイルのため、討論（発表）に向けて、講義内容の復習と自分なりの論の構築が強く求められる

●テキスト・参考書等

テキスト：使用しない

参考書：谷川彰英ほか編著・松崎康弘ほか著

『改訂 これからの教師』（建帛社）ほか

●成績評価

最終レポート50% 討論後のミニレポート50%

●オフィスアワー

松崎（責任者） 火曜日 14：30～16：20（研究室：西411）

●備考

A＝松崎 B＝村若 C＝内田 D＝全員

COC 科目

「履修カルテ」の提出を求める

造形表現Ⅱ

担当者： 松下 茉莉香

●科目の概要

平面表現を中心とした多様な制作を通して、表現の喜びや意義を体感するとともに、より専門的な知識技能を身につける。

また、講義や教材研究を通して子どもの発達に沿った支援の在り方を考察する。

●授業計画

| | |
|--------------------------------|--|
| 1 平面①（絵画） 観察して描く・制作（形を捉える） | |
| 2 (陰影・着彩) | |
| 3 観察して描く活動の意義 | |
| 4 平面②（版画） 映して表わす・制作①（コラージュ版画） | |
| 5 " ②（ステンシル版画） | |
| 6 映して表わす活動の意義 | |
| 7 紙を用いた素材研究 - 仕掛けを用いたカード製作① | |
| 8 " ② | |
| 9 紙の特性・加工法について | |
| 10 平面表現の教材研究 教材のねらいを考察・試作制作 | |
| 11 教材の発表① | |
| 12 教材の発表② | |
| 13 絵画史①（西洋）美術史の中の絵画に触れ背景や良さを学ぶ | |
| 14 絵画史②（東洋） " | |
| 15 総括 | |
| 16 | |

●到達目標

1. 幼児期の造形表現の中でも、特に平面表現に関する制作や研究発表などを通して、より専門的な知識技能を習得する

●授業時間以外の学習

・10～12回：教材研究では発表前に担当と打ち合わせを行う

●テキスト・参考書等

「子どもの発達と描画活動の指導」田中 義和 / ひとなる書房

「保育をひらく造形表現」横 英子 / 萌文書林

●成績評価

受講態度（10%）レポート（20%）

教材研究発表（30%）作品評価（40%）

●オフィスアワー

金曜日 14：40～16：10 研究室

●備考

環境教育演習

担当者： 松崎 内田

●科目の概要

豊かな自然環境をもつ鹿児島で環境教育の実践を行えるための専門的な知識や技能を習得するために、既習事項の見直しや実践事例の検討を行う。

また、屋久島環境文化研修センターにおける合宿研修をとおして、自然環境を諸感覚を用いて感じ取るセンスを磨き、豊かな自然環境を教材化し実践に生かそうとする意識を高める。

さらに、環境教育や環境保護に従事する人々との交流を通じて、教育者や社会人としてふさわしい意識を構築する。

●授業計画

| | | |
|----|-----------------------------|---|
| 1 | イントロダクションで本演習のねらいを理解する | C |
| 2 | 保育内容（環境）の実践事例を学ぶ | C |
| 3 | 生活科における環境教育の事例を学ぶ | A |
| 4 | 社会科における環境教育の事例を学ぶ | A |
| 5 | 理科教育における環境教育の事例を学ぶ | B |
| 6 | 総合的な学習の時間における環境教育の事例を学ぶ | A |
| 7 | 特別活動等における環境教育の事例を学ぶ | C |
| 8 | 屋久島の地域性について学ぶ | C |
| 9 | （合宿）木工クラフトを通じて、環境を生かした製作を行う | C |
| 10 | （合宿）農場見学を通じて、環境を生かした産業を学ぶ | C |
| 11 | （合宿）ナイトハイクを通じて、諸感覚を研ぎ澄ます | C |
| 12 | （合宿）ヤクスギランドを歩き、自然について体験的に学ぶ | C |
| 13 | （合宿）屋久島で働く先輩から環境を生かした実践を学ぶ | C |
| 14 | 屋久島合宿での学びをふりかえり、まとめる | C |
| 15 | 演習全体をふりかえり、まとめる | C |
| 16 | | |

●到達目標

1. 環境教育の実践ができる専門的な知識や技能を習得できる
2. 地域の環境を教材化する意識を高める
3. 環境教育や環境保護に従事する人々の意識を学びとる

●授業時間以外の学習

- ・保育内容（環境）や社会科教育法等の復習を強く求める

●テキスト・参考書等

テキスト：使用しない

参考書：井上美智子ほか編著『むすんでみよう子どもと自然 保育現場での環境教育実践ガイド』（北大路書房）ほか

●成績評価

レポート（100%）

●オフィスアワー

責任者＝松崎 火曜日 14：30～16：20（研究室：西411）

●備考

原則として受講者は小・幼・保コース学生に限る。

1泊2日の合宿参加費が必要となる。（2万円程度を予定）

合宿の内容は天候等によって変更されることがある。

A＝松崎 B＝内田 C＝松崎・内田

言葉の研究

担当者： 平嶋 慶子

●科目の概要

保育内容（言葉）の領域について学びを深め実践力を高める。一つのお話しをもとに、さまざまな表現方法、媒体を試みながら子どもの遊びを考える。ごっこあそびや劇遊び他を考え制作・創作する。このことからたどることばの関係を考察することによって保育者としての感性を育てる。

授業は教材研究として毎回お話しを一つ紹介し、展開できる遊びを考える。15回授業の前半は講義と教材研究を中心に、後半はお話しをもとにした遊びを検討し、最終的には各自またはグループで一つの遊びを制作する。

●授業計画

| | |
|----|----------------------------|
| 1 | オリエンテーション：授業の組み立ての説明と課題の提示 |
| 2 | 領域（言葉）の理解 |
| 3 | 子どもの頃の遊び・絵本 |
| 4 | お話し |
| 5 | 遊び |
| 6 | 媒体と技法 |
| 7 | 演技と表現 |
| 8 | 繰り返しとこだわりの意味するもの |
| 9 | テーマの設定 |
| 10 | 媒体の検討 |
| 11 | 素材、材料の検討 |
| 12 | 制作と検討 |
| 13 | 制作と検討 |
| 14 | 発表 |
| 15 | 総括 |
| 16 | |

●到達目標

1. 保育内容（言葉）について学びを深める
2. 教材や媒体を研究し、子どもが楽しく遊べる工夫を考えられる
3. 個人やグループでの発表を通して多様な視点に気づく

●授業時間以外の学習

- ・ごっこ遊びやおはなしなどに限らず、児童文化全般に興味を持って楽しく豊かに生活することを心がける

●テキスト・参考書等

演習 保育内容 言葉 戸田雅美 健（ばく）社
参考文献 ことばが（ひら）かれるとき 竹内敏晴 ちくま文庫
絵本のひみつ 余郷裕次 南日本新聞社 など授業中に随時紹介する

●成績評価

- ・制作計画・発表・レポート提出すべてそろって80%
- ・受講態度20%

●オフィスアワー

月・水・金曜日 16：25～17：55 研究室

●備考

子どものための哲学

担当者： 村若 山元

●科目の概要

「子どものための哲学」という講義名は両義的です。それは一方で、皆さんが将来子どもたちに示し、子どもたちとともに考えてほしい何かを意味しますし、他方で、子どもを理解するために皆さんに前もって知っておいてほしい何かも意味します。いずれにせよ、子どもというものを哲学的に解釈し、何が子どものためになるかをあれこれ考えてみる授業です。2名の教員がそれぞれの専門分野から話題提供しますので、一緒に「子ども」になって「哲学」しましょう。

●授業計画

- 1 子どもと身体
- 2 子どもと感覚・認知
- 3 子どもと思考
- 4 子どもと感情
- 5 子どもと道徳
- 6 子どもと死
- 7 子どもと病い
- 8 子どもと生・生活
- 9 子どもと本
- 10 子どもと遊び
- 11 子どもと芸術
- 12 子どもと戦争
- 13 日本人としての子ども
- 14 子どもと世界
- 15 子どもと歴史
- 16

●到達目標

1. 子どもについて考えるための多角的な視点を身につける
2. 保育・教育について考えるための多角的な視点を身につける
3. 自分の考えを表現でき、他者の考えを傾聴できる

●授業時間以外の学習

- ・予習・復習のための課題を出すことがある

●テキスト・参考書等

参考資料：河野哲也『「こども哲学」で対話力と思考力を育てる』
河出書房新社
オスカー・ブルニフィエ著、重松清、西宮かおり訳『こども哲学』シリーズ、朝日出版社
DVD『ちいさな哲学者たち』ファントム・フィルム

●成績評価

期末レポート（80%）
提出物（小レポート・感想文等）（20%）

●オフィスアワー

火曜日 13:00～14:30（村若研究室）

●備考

保育研究法

担当者： 坪井 敏純

●科目の概要

保育実践における研究法、実践論文の作成と発表方法を身に付ける。その中で保育とは何かというしっかりとした保育観を養うことを目的としている。

●授業計画

- 1 研究の意義とエビデンス
- 2 研究の手順（問題提起から展望まで）
- 3 実践研究を読む1
- 4 実践研究を読む2
- 5 事例から研究計画を立てる1
- 6 事例から研究計画を立てる2
- 7 実習体験から得た課題の発表
- 8 実習体験から得た課題を使って研究計画を立てる
- 9 実習体験から得た課題を使って研究計画を立てる
- 10 研究計画の発表
- 11 論文の書き方
- 12 統計学の基礎（割合、平均、散布度、相関）
- 13 アンケートの作り方と集計
- 14 アンケート結果を分析する
- 15 研究のための文献検索
- 16

●到達目標

1. 実践論文の作成形式がわかる
2. 実践論文集に興味を持ち、自分から読む
3. 実践研究の方法（問題提起からまとめまで）がわかる

●授業時間以外の学習

- ・保育研究会や学会などの論文集に目を通し、参考図書に上げた実践論文を読んで、保育を深める努力をすること

●テキスト・参考書等

九州保育団体合同研究会報告集
鹿児島県保育事業研修大会論文集
日本保育学会発表論文集

●成績評価

課題（レポート等）（70%）
受講態度（30%）

●オフィスアワー

水曜日 16:30～18:00（研究室）

●備考

単位互換科目、他学科開放科目

相談援助

担当者： 赤瀬川 修

●科目の概要

児童福祉施設等において保育者に求められる相談援助に関する知識及び技術を習得することを目指し授業を行う。授業では事例検討及びロールプレイ等を行い、より具体的に援助技術について理解を深め、実践力を身につけることができるようにする。

●授業計画

- 1 相談援助の概要 (1) 相談援助の理論・意義・機能
- 2 相談援助の概要 (2) 相談援助とSW、保育とSW
- 3 相談援助の方法と技術 (1) 相談援助の対象、過程
- 4 相談援助の方法と技術 (2) 相談援助の技術、アプローチ
- 5 相談援助の具体的展開 (1) 計画、記録、評価
- 6 相談援助の具体的展開 (2) 関係機関との協働、他職種連携
- 7 相談援助の具体的展開 (3) 社会資源の活用・調整・開発
- 8 事例分析 (1) 虐待の予防と対応に関する事例1
- 9 事例分析 (2) 虐待の予防と対応に関する事例2
- 10 事例分析 (3) 虐待の予防と対応に関する事例3
- 11 事例分析 (4) 障害児とその保護者への支援1
- 12 事例分析 (5) 障害児とその保護者への支援2
- 13 事例分析 (6) 障害児とその保護者への支援3
- 14 事例分析 (7) 精神疾患を有する保護者とその子どもの支援
- 15 事例分析 (8) DVを受ける保護者とその子への支援
- 16 定期試験

●到達目標

1. 相談援助の方法と技術を習得する
2. 事例を通してソーシャルワークの援助技術について理解する

●授業時間以外の学習

- ・授業で示した課題について取り組む
- ・虐待や障害児などに関する書籍、記事などを読み理解を深める

●テキスト・参考書等

- ・テキスト：未定
- ・参考書：「保育ソーシャルワークの世界—理論と実践—」
日本保育ソーシャルワーク学会編 晃洋書房

●成績評価

- ・受講態度 (10%) レポート・課題 (40%) 定期試験 (50%)

●オフィスアワー

水曜日 16:25~17:55 研究室

●備考

家族支援論

担当者： 平嶋 慶子

●科目の概要

『〇歳までは母親が家庭で子育てするべし』という考えの中には、どのような問題が存在しているのだろうか。現代日本の家族と子育ての現状を理解し、家庭と保育施設が相補しながら子どもを含む家族の発達を補償するという課題を考える。適切な子育て支援をおこなうための方法や制度を知り、自身が保育者となった場合の支援を考える。

●授業計画

- 1 家族福祉の対象と家族支援
- 2 保育施設の役割と機能
- 3 現代日本の子育て・保育をめぐるさまざまな問題
- 4 家族を取り巻く社会の姿
- 5 食生活から見る家庭の変化
- 6 育児ノイローゼ～子育て不安～子育てに困難を感じる家庭
- 7 母原病と母性神話 (愛着万能の危うさ)：子育ての社会性
- 8 親と子どものつながりと断絶から世代間の子育てを考える
- 9 援助を必要とする家庭を支援する
- 10 男女共同参画社会とワークライフバランス
- 11 保育所と子育て支援
- 12 多様な子育て支援
- 13 関係機関との連携：ソーシャルネットワークの構築
- 14 関係法令と施策
- 15 まとめと職業的自立にむけて
- 16 定期試験

●到達目標

1. 家庭の意義とその機能を理解する
2. 社会と家族の変化を学び子育て中の家庭の問題について理解する
3. 子育て中の家庭への支援を学ぶ

●授業時間以外の学習

- ・全体で3つのレポート課題を出す
- ・配布資料をすぐに読み関係事項の下調べを早めに取り掛かると良い

●テキスト・参考書等

みんなで考える 家族・家庭支援論 知っていますか？いろんな家族が・家庭があることを 草野いづみ編著 同文書院 参考文献① 流動する社会と家族！ 社会と家族の心理学 東洋・柏木恵子編著 ミネルヴァ書房 ②変わる家族変わる食卓 真実！破壊されるマーケティング常識 岩村暢子 中公文庫 ほか

●成績評価

受講態度20% レポート60% 試験20%

●オフィスアワー

月・水・金曜日 16:25~17:55 研究室

●備考

単位互換開放対象科目

保育相談支援

担当者： 赤瀬川 修

●科目の概要

保育所等の児童福祉施設では、保育士によって保育相談支援・保護者支援が実施されており、その知識・技術の習得は欠かすことができない。そこで本授業では、保育相談支援の意義と原則、保護者支援の基本を理解するとともに、保育相談支援の実際を学び、内容や方法について理解を深め基礎的な支援技術を修得することを目指し授業を行う。

●授業計画

- 1 保育相談支援の意義
- 2 保育相談支援の基本 (1) 子どもの最善の利益等
- 3 保育相談支援の基本 (2) 受容的な関わり、自己決定等
- 4 保育相談支援の基本 (3) 地域資源活用、関係機関との連携
- 5 保育相談支援の実際 (1) 保育に関する保護者に関する指導
- 6 保育相談支援の実際 (2) 保護者支援の内容
- 7 保育相談支援の実際 (3) 保護者支援の方法と技術
- 8 保育相談支援の実際 (4) 保護者支援の計画
- 9 保育相談支援の実際 (5) 保護者支援の記録
- 10 保育相談支援の実際 (6) 保護者支援の評価カンファレンス
- 11 児童福祉施設における保育相談支援 (1) 保育所 1
- 12 児童福祉施設における保育相談支援 (2) 保育所 2
- 13 児童福祉施設における保育相談支援 (3) 児童養護施設
- 14 児童福祉施設における保育相談支援 (4) 障害児施設
- 15 児童福祉施設における保育相談支援 (5) 母子生活支援施設
- 16 定期試験

●到達目標

1. 保育相談支援の意義、理論について理解する
2. 保育相談支援の方法を理解し、基礎的な技術を習得する

●授業時間以外の学習

- ・授業で示した課題について取り組む
- ・子育てなどに関する書籍、記事などを読み理解を深める

●テキスト・参考書等

- ・テキスト：未定
- ・参考図書：「保育ソーシャルワークの世界—理論と実践—」
日本保育ソーシャルワーク学会編，晃洋書房

●成績評価

- ・受講態度 (10%) レポート・課題 (40%) 定期試験 (50%)

●オフィスアワー

水曜日 16:25~17:55 研究室

●備考

学習指導と学校図書館

担当者： 岩下 雅子

●科目の概要

司書教諭として、学習指導における学校図書館活用に必要な知識と技能を身につける。多くの学校が取り組んでいる様々な授業支援のための図書館活用例を参考に学習指導（授業）と学校図書館を上手くコーディネートするために、司書教諭が果たす役割を理解する。

●授業計画

- 1 教育課程と学校図書館
- 2 学校図書館利用指導
- 3 小学校における学校図書館と学習指導①
- 4 小学校における学校図書館と学習指導②
- 5 小学校における学校図書館と学習指導③
- 6 中学校における学校図書館と学習指導①
- 7 中学校における学校図書館と学習指導②
- 8 中学校における学校図書館と学習指導③
- 9 高校における学校図書館と学習指導①
- 10 高校における学校図書館と学習指導②
- 11 バスファインダーを作成しよう①基礎
- 12 バスファインダーを作成しよう②応用
- 13 バスファインダーを作成しよう③発表
- 14 授業支援とブックトーク活用
- 15 学習・情報・読書センターとしての学校図書館活用
- 16 レポート

●到達目標

1. 学習指導における学校図書館活用の意義を知る
2. 学習指導に必要な知識と技能を身につける

●授業時間以外の学習

- ・課題が出されたら、次週までに予習しておくこと

●テキスト・参考書等

参考文献
「ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望 図書館制度・経営論」
二村健（監修）学文社

●成績評価

レポート (70%) 小レポート (30%)

●オフィスアワー

火曜日 16:00~16:25 (非常勤室)

●備考

読書と豊かな人間性

担当者： 伊佐山 潤子

●科目の概要

読書の意義や子どもにとっての読書の必要性を中心に、本と読書についてさまざまな角度から考えます。実際に本の紹介や、ブックトークを実践して、読書をどのように人にすすめていくか工夫してみましょう。また、図書館のあり様を再確認して活用し、モノとしての本についても学びます。読書会も体験します。読書が人生にどのような喜びや楽しみ、豊かさを与えるものであるか、自身が改めて感じ、それを他者にも伝えられる力を、この時間を通して身につけていきます。

●授業計画

- 1 読書の意味を考える
- 2 本の一生をたどる
- 3 子どもと読書について考える
- 4 読書のすすめの方法を考える (1)
- 5 図書館をもっと知る
- 6 10分で本の紹介をする (1) 準備
- 7 10分で本の紹介をする (2) 実践
- 8 絵本を読む
- 9 絵本の構図や絵の読みかたを学ぶ
- 10 ブックトークをする (1) 準備
- 11 ブックトークをする (2) 実践
- 12 読書のすすめの方法を考える (2)
- 13 読書会を体験する
- 14 図書館を活用する
- 15 本のある生活をどう維持するか考える
- 16

●到達目標

1. 読書の必要性と楽しさを実感し、他者にもすすめられる
2. 図書館のあり様と活用法を知って利用できる
3. 本の「10分紹介」やブックトークができる

●授業時間以外の学習

- ・自身の趣味・興味以外にも範囲を広げて、読書量を増やすこと
- ・関連図書を読むこと
- ・図書館を利用すること

●テキスト・参考書等

テキスト：プリント配布
参考書：太田克子ほか「読書の力」(三省堂 2010)
協明子「読む力が未来をひらく」(岩波書店 2014)
この他については講義中随時紹介

●成績評価

各時間の取り組み(発表や提出物など)(80%)
学期末レポート(20%)で評価

●オフィスアワー

水曜日 16:25~17:00 (研究室)

●備考

情報メディアの活用

担当者： 瀬戸 博幸

●科目の概要

インターネットの爆発的な普及により、図書館におけるコンピュータとインターネットの役割が大きく変化している。また、携帯電話で音楽を楽しんだり、写真を撮ったり、コンピュータと連携して利用できる情報メディアも多様化し、急速に変化している。このような現在において図書館で情報メディアをどのように活用すべきか、情報機器演習で培ったリテラシーを基にして考える。

●授業計画

- 1 情報メディアってなんだろう
- 2 ラジオ放送がどのように誕生したか
- 3 インターネットを活用しラジオについて歴史年表をつくらう
- 4 テレビの誕生
- 5 地上デジタル放送とは
- 6 映像の記録メディア
- 7 南極からのハイビジョン生中継
- 8 宇宙に広がるメディア
- 9 メディアについて現在の状況を眺めてみよう
- 10 図書館がインターネットに情報発信(OPAC)
- 11 国立国会図書館をみてみよう
- 12 国立情報学研究所をみてみよう(連想検索、CiNii、SINET)
- 13 これからの情報メディアについて
- 14 もう一度著作権について考えてみよう
- 15 総括
- 16 レポート

●到達目標

1. 情報とは何か、その概念を述べることができるようになる
2. 情報メディアの歴史を語れるようになる
3. 情報メディアの活用について考えることができるようになる

●授業時間以外の学習

- ・身のまわりの情報メディアに、常に関心を持つ
- ・各時間に修得した内容を整理し、記録しておく

●テキスト・参考書等

参考書
「情報メディアの意義と活用」(樹村房) 大串夏身編著

●成績評価

日々のレポート(50%)および最終課題レポート(50%)

●オフィスアワー

月曜日、金曜日 9・10限(瀬戸研究室 西417)

●備考

講義 2単位 [30時間]

平成27年度入学生 カリキュラム・マップ

| | |
|----------|--|
| 児童教育学科DP | ①子どもに対する共感・受容や人権への配慮など、愛情をもって子どもにかかわるために必要な力を備える。(子どもにかかわる力) ②小学校教育・幼児教育・保育に必要な専門的な知識と技能を習得するとともに、それらを活用・実践し問題を解決する力を身に付ける。 (専門的な知識・技能) ③将来にわたって子どもや社会及び教育・保育現場の実態を踏まえながら理想の教育・保育を目指し、そのために探究し続け向上しようとする態度を養う。(探究・向上心) ④確固とした倫理観・責任感をもって職務に当たり、教育・保育を通じて社会に貢献しようとする意識を高める。(社会貢献) ⑤協働的な活動をととして、思考力・判断力・表現力やコミュニケーション能力・人間関係調整能力を高める。(協働性) ⑥心身ともに健康で、教育者・保育者かつ社会人としてふさわしい人格を形成する。(専門的職業人及び社会人としての人格形成) |
|----------|--|

| 科目名 | 最も関係の深いDP番号 | 到達目標 | DPとの関係 | | | | | | | |
|-----------------|-------------|---|------------------------------|---|---|---|---|---|---|--|
| | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | | |
| 専門科目(教科に関する科目等) | 国語(書写を含む) | ② | 1. あいさつや敬語の使い方を身につける | | ○ | | | | | |
| | | | 2. 保育現場での話し方に習熟する | ○ | ◎ | | | | ○ | |
| | | | 3. 実習日誌などの表記や書き方に習熟する | ○ | | | | | | |
| | 算数 | ③ | 1. 幼少期における算数教育の意義を理解する | ○ | ◎ | | | | | |
| | | | 2. 算数的活動を通して、その楽しさと深さ、意義を知る | | ○ | ◎ | | | | |
| | | | 3. | | | | | | | |
| | 生活 | ② | 1. 生活科を実践できる知識・技能を習得する | | ◎ | | | | | |
| | | | 2. 地域を見つめ、環境を教育に生かそうとする意識をもつ | | | ○ | ○ | | | |
| | | | 3. | | | | | | | |
| | 社会 | ② | 1. 様々な教材の有用性を理解する | | ◎ | | | | | |
| | | | 2. 体験をととして地域と教育の関係を理解する | | ○ | | | | | |
| | | | 3. 授業内容を応用して自分なりの教材を構想できる | | | ○ | | | | |
| | 理科 | ② | 1. 小学校理科教育の目標を理解する | | ◎ | | ○ | | | |
| | | | 2. ものづくりを模擬授業を通して考え、実践力を養う | ○ | ◎ | ○ | | ○ | | |
| | | | 3. | | | | | | | |
| 家庭 | ② | 1. 小学校家庭を指導するために必要な基礎知識や指導法を習得し、社会や家庭生活の変化に対応した指導ができることを目指す | | ◎ | | | | | | |
| | | 2. 家庭生活の変容を認識し、その環境に合わせた指導法について考える | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 音楽Ⅰ | ① | 1. 幼児教育及びに必要な音楽理論の修得 | | | ◎ | | | | | |
| | | 2. 保育者として必要な幼児曲弾き歌い技術の修得 | ◎ | | | | | | | |
| | | 3. | | | | | | | | |
| 音楽Ⅱ | ⑤ | 1. 初等教育及び幼児教育に必要な音楽理論の修得 | | | ◎ | | | | | |
| | | 2. 保育者として必要な幼児曲弾き歌い技術をさらに高める | ○ | | | | ◎ | | | |
| | | 3. | | | | | | | | |
| 音楽Ⅲ | ② | 1. コードネームを見て伴奏を弾けるようになる | | ◎ | | | | | | |
| | | 2. 幼児教育現場での音楽活動について知り、活用できるようになる | | ◎ | ○ | | | | | |
| | | 3. | | | | | | | | |
| 器楽Ⅰ | ② | 1. パイエール78番まで弾くことができる | | ◎ | | | | | | |
| | | 2. 幼児曲の簡単な伴奏を弾くことができる | | ◎ | | | | | | |
| | | 3. | | | | | | | | |
| 図画工作 | ② | 1. 「つくる」活動の基礎的な知識や技能、ねらいを習得する | ○ | ○ | | | | | | |
| | | 2. 様々な課題制作を通して、「つくる」活動の豊かさを味わう | | ○ | ○ | | | | | |
| | | 3. 「つくる」活動に関して、適切な指導や援助のあり方を理解する | ○ | ○ | | | | | | |
| 体育Ⅰ(小幼保) | ② | 1. 小学校体育の運動領域の内容を理解できる | | ○ | | | | | | |
| | | 2. 小学校体育教員として必要な基礎的な技能を身につける | | ○ | ○ | | | | | |
| | | 3. 学んだ知識・技術を駆使し運動や創作・発表等が実践できる | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 体育Ⅰ(幼保) | ② | 1. 基礎的舞踊技術や体操技術を身につける | | ○ | | | | | | |
| | | 2. 基礎的創作舞踊理論や集団演技のまとめ方を身につける | | ○ | ○ | | | | | |
| | | 3. 学んだ知識・技術を駆使し作品創作・集団演技の発表が行える | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 体育Ⅱ(全) | ② | 1. 幼児教育に必要な音を伴う運動教材を身に付けることができる | | ○ | | | | | | |
| | | 2. 運動教材を用い、保育案作成や指導実践を行うことができる | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| | | 3. 発達段階に応じた運動遊びを実践できる | ○ | ○ | ○ | | | | | |

平成27年度入学生 カリキュラム・マップ

| | |
|----------|--|
| 児童教育学科DP | ①子どもに対する共感・受容や人権への配慮など、愛情をもって子どもにかかわるために必要な力を備える。(子どもにかかわる力) ②小学校教育・幼児教育・保育に必要な専門的な知識と技能を習得するとともに、それらを活用・実践し問題を解決する力を身に付ける。(専門的な知識・技能) ③将来にわたって子どもや社会及び教育・保育現場の実態を踏まえながら理想の教育・保育を目指し、そのために探究し続け向上しようとする態度を養う。(探究・向上心) ④確固とした倫理観・責任感をもって職務に当たり、教育・保育を通じて社会に貢献しようとする意識を高める。(社会貢献) ⑤協働的な活動をととして、思考力・判断力・表現力やコミュニケーション能力・人間関係調整能力を高める。(協働性) ⑥心身ともに健康で、教育者・保育者かつ社会人としてふさわしい人格を形成する。(専門的職業人及び社会人としての人格形成) |
|----------|--|

| 科目名 | 最も関係の深いDP番号 | 到達目標 | DPとの関係 | | | | | | | |
|------------------------|-------------|---------------------------------|-------------------------------|---|---|---|---|---|---|--|
| | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | | |
| 専門科目 (教職に関する科目等) | 教職概論 | ③ | 1. 教職の意義 | ◎ | | ○ | | | | |
| | | | 2. 教員の役割 | ◎ | ○ | | | | | |
| | | | 3. 教員としての資質の吟味 | ○ | | ◎ | | | | |
| | 教育原理 | ① | 1. 子どもの発達と環境 | ○ | ◎ | | | | | |
| | | | 2. 教育の目的と意義 | | ○ | | | | ◎ | |
| | | | 3. 教育における諸問題の理解 | | | ○ | | | ◎ | |
| | 保育者論 | ⑥ | 1. 保育士の責務や倫理、社会的役割を理解している | ○ | | | ○ | | ○ | |
| | | | 2. 乳幼児の発達の特徴及び保育のポイントを把握している | | ○ | ○ | | | | |
| | | | 3. 保育の現場で専門性を発揮し、自ら成長する心構えがある | | | ○ | ○ | | ◎ | |
| | 保育原理 | ③ | 1. 「保育」の役割や施設保育の目的を理解している | ○ | | ◎ | | | | |
| | | | 2. 保育の思想や歴史、制度を理解し、現代保育の課題を学ぶ | | ○ | ○ | | | | |
| | | | 3. 保育士・幼稚園教諭という専門的な仕事を理解している | | | ○ | ○ | | ○ | |
| | 教育心理学 | ① | 1. 学ぶ意欲を引き出す指導・援助の方法がわかる | ◎ | ○ | ○ | | | | |
| | | | 2. 学習理論がわかる | ◎ | ○ | ○ | | | | |
| | | | 3. 代表的な学習指導法(教授法)の特徴とその効果がわかる | ○ | ◎ | | | | | |
| | 教育方法の研究 | ③ | 1. 教育方法の歴史・目的・効果を理解する | ○ | ○ | | | | | |
| | | | 2. 特に小学校の授業に必要な技能を習得する | | ○ | | | | | |
| | | | 3. 効果的な教育実践を行おうとする意識や態度を持つ | | | ◎ | ○ | | | |
| | 生徒指導・進路指導 | ③ | 1. 子ども達が豊かな自己実現をはかるための理論を習得する | ○ | | ◎ | ○ | | | |
| 2. 生徒指導の教育的意義と課題を理解する | | | | ○ | | | ◎ | | | |
| 3. 実践的な知識を習得し、実践力を習得する | | | ○ | ◎ | | | ○ | | | |
| 教育相談 | ① | 1. 問題を抱える子どもの心理状態を理解する | ◎ | ○ | ○ | | | | | |
| | | 2. 教育相談の基礎的な理解と具体的な方法を習得する | ○ | ◎ | | ○ | | | | |
| | | 3. 自己理解、他者理解を深め、相談活動のあり方を考える | ○ | | | | ○ | ◎ | | |
| 教育制度論 | ④ | 1. 「国民国家」の形成と公教育の関係について理解する | ○ | | | | | | | |
| | | 2. 戦後教育改革の意義および問題点を知る | | | | ○ | | | | |
| | | 3. 現代公教育像を構築しうる知見を養う | ○ | | | ◎ | | ○ | | |
| 情報機器演習 | ② | 1. ICTの基本的な技術を習得する | | ◎ | | | | | | |
| | | 2. インターネットを理解し活用できるようになる | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| | | 3. コンピュータを生活の道具として活用できるようになる | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 保育臨床 | ② | 1. 問題行動の理解に必要な基本的知識を習得し他者に説明できる | ○ | ◎ | | ○ | ○ | | | |
| | | 2. 問題行動への対応を根拠に基づき考えることができる | ◎ | ○ | | ○ | | | | |
| | | 3. 育児相談についての基本的技能を習得する | | ◎ | ○ | ○ | | | | |
| 宮里 障害児の教育・保育 | ② | 1. 様々な障害の特性を理解し、他者に説明することができる | ○ | ◎ | | ○ | ○ | | | |
| | | 2. 障害に応じた援助を理解し、現場での対応がイメージできる | ○ | ◎ | | ○ | | | | |
| | | 3. 保護者への援助について考えることができる | | ◎ | | ○ | ○ | | | |
| 丸田 障害児の教育・保育 | ② | 1. 障がい理解を深め、対応するための基本的な心構えがある | ○ | ◎ | | | | ○ | | |
| | | 2. 障がい児、配慮が必要な子どもへの対応を幅広く考えられる | | | ○ | | ○ | | | |
| | | 3. 保育所・幼稚園等における支援体制について理解する | ○ | | | ○ | | | | |
| 発達心理学 I | ① | 1. 発達の理論を理解する | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | | 2. 生から死までの生涯発達の視点で人を理解する | ◎ | ○ | ○ | ○ | | | | |
| | | 3. 障害児の特徴と発達を理解する | ○ | ○ | ○ | | | | | |

平成27年度入学生 カリキュラム・マップ

| | |
|----------|--|
| 児童教育学科DP | ①子どもに対する共感・受容や人権への配慮など、愛情をもって子どもにかかわるために必要な力を備える。(子どもにかかわる力) ②小学校教育・幼児教育・保育に必要な専門的な知識と技能を習得するとともに、それらを活用・実践し問題を解決する力を身に付ける。(専門的な知識・技能) ③将来にわたって子どもや社会及び教育・保育現場の実態を踏まえながら理想の教育・保育を目指し、そのために探究し続け向上しようとする態度を養う。(探究・向上心) ④確固とした倫理観・責任感をもって職務に当たり、教育・保育を通じて社会に貢献しようとする意識を高める。(社会貢献) ⑤協働的な活動をととして、思考力・判断力・表現力やコミュニケーション能力・人間関係調整能力を高める。(協働性) ⑥心身ともに健康で、教育者・保育者かつ社会人としてふさわしい人格を形成する。(専門的職業人及び社会人としての人格形成) |
|----------|--|

| 科目名 | 最も関係の深いDP番号 | 到達目標 | DPとの関係 | | | | | | |
|-----------------|-------------|----------------------------------|-----------------------------------|---|---|---|---|---|---|
| | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | |
| 専門科目(教職に関する科目等) | 発達心理学Ⅱ | ① | 1. 発達段階を基に子どもの発達と保育の関係について理解を深める | | ◎ | | | | |
| | | | 2. 生活と遊びを通して発達する子どもの姿を理解する | ○ | ◎ | | | | |
| | | | 3. 保育における発達援助のありかたと重要性を学ぶ | ◎ | | ○ | | | ○ |
| | カウンセリング入門 | ① | 1. カウンセリングの基礎的理論を理解する | ○ | ◎ | | | | ○ |
| | | | 2. カウンセリングにおける「みため」を理解する | ◎ | ○ | ○ | | | |
| | | | 3. 援助に必要な相談・面接技法を習得する | ○ | | ◎ | | | ○ |
| | 子どもと人権 | ① | 1. 人権教育を実践するための知識や技能を習得する | | ○ | | | | |
| | | | 2. 人権に対する配慮をもって子どもとかわる意識を高める | ◎ | | | ○ | | ○ |
| | | | 3. | | | | | | |
| | 家族関係論 | ⑥ | 1. 社会の動きにもなる家族の変化を理解する | | | ◎ | | | ○ |
| | | | 2. 家族を多角的に捉える視点を身につける | ◎ | | ○ | | | |
| | | | 3. 教育者・保育者として多様な状況に対応できる柔軟性を身につける | ○ | | ○ | | | ◎ |
| | 教師と法 | ② | 1. 現代教育法の体系を知る | ○ | ◎ | | | | |
| | | | 2. 教員採用試験に対応しうる法令知識を習得する | ○ | | | | | |
| 3. | | | | | | | | | |
| 生涯学習論 | ③ | 1. 自己教育としての教育 | | | ◎ | | | ○ | |
| | | 2. 生涯学習の学習内容 | | | ○ | | | ◎ | |
| | | 3. 自己教育と職業 | | | ○ | | | ◎ | |
| 学校経営と学校図書館 | ③ | 1. 学校図書館に関する基礎的な知識を身につける | | ○ | ◎ | | | | |
| | | 2. 学校教育における学校図書館活用の可能性を知る | ○ | ◎ | | | | | |
| | | 3. 学校図書館に関わる職員とその業務について理解する | | | ○ | | | ◎ | |
| 国語科教育法 | ② | 1. 国語科教育の沿革・目標・内容について学ぶ | | ○ | | | | | |
| | | 2. 教材分析・教材研究・指導案に習熟する | | ◎ | ○ | | | | |
| | | 3. 国語教師力を身につける | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 社会科教育法 | ② | 1. 社会科教育の目標・方法・評価について理解する | | ◎ | | | | | |
| | | 2. 1の学習成果を活用して模擬授業実践ができる | | ○ | | | | | |
| | | 3. 模擬授業により協働して活動を構成することができる | | | | | | ○ | |
| 算数科教育法 | ② | 1. 算数科の変遷を概観し、これから求められる教育を考察する | ○ | ◎ | ○ | | | | |
| | | 2. 算数の目標や内容、評価の観点に関する知識を習得する | | ◎ | | | | | |
| | | 3. 授業の計画・実施・評価・改善といった、実践的な能力を養う | | ◎ | | | | | |
| 理科教育法 | ② | 1. 小学校理科教育の目標・内容について理解する | | ◎ | | | | | |
| | | 2. 小学校理科に求められる基本的な考えについて理解する | | ◎ | ○ | | ○ | ○ | |
| | | 3. | | | | | | | |
| 生活科教育法 | ② | 1. 生活科の目標・内容・方法・評価等について理解する | | ◎ | | | | | |
| | | 2. 生活科をととした保幼小連携の在り方について理解する | ○ | ○ | | | | | |
| | | 3. | | | | | | | |
| 音楽科教育法 | ② | 1. 模擬授業を通して小学校音楽科の指導法を研究する | | | ○ | | | ◎ | |
| | | 2. 小学校音楽科における教材、指導案を研究する | | | ◎ | | | | |
| | | 3. | | | | | | | |
| 図画工作科教育法 | ⑥ | 1. 図画工作科教育の目的と意義を理解する | | ○ | | | | ○ | |
| | | 2. 造形表現の基本的な技能やねらいを習得し、その豊かさを味わう | | ○ | ○ | | | | |
| | | 3. 表現及び鑑賞学習の内容を理解し、具体的な指導法を身に付ける | ○ | ○ | | | | | |

平成27年度入学生 カリキュラム・マップ

| | |
|----------|--|
| 児童教育学科DP | ①子どもに対する共感・受容や人権への配慮など、愛情をもって子どもにかかわるために必要な力を備える。(子どもにかかわる力) ②小学校教育・幼児教育・保育に必要な専門的な知識と技能を習得するとともに、それらを活用・実践し問題を解決する力を身に付ける。(専門的な知識・技能) ③将来にわたって子どもや社会及び教育・保育現場の実態を踏まえながら理想の教育・保育を目指し、そのために探究し続け向上しようとする態度を養う。(探究・向上心) ④確固とした倫理観・責任感をもって職務に当たり、教育・保育を通じて社会に貢献しようとする意識を高める。(社会貢献) ⑤協働的な活動をととして、思考力・判断力・表現力やコミュニケーション能力・人間関係調整能力を高める。(協働性) ⑥心身ともに健康で、教育者・保育者かつ社会人としてふさわしい人格を形成する。(専門的職業人及び社会人としての人格形成) |
|----------|--|

| 科目名 | 最も関係の深いDP番号 | 到達目標 | DPとの関係 | | | | | | | |
|-----------------------------|--------------|--|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | | |
| 高島 吉村 専門科目(教職に関する科目等) | 家庭科教育法 | ② | 1. 家庭科教育の現代的課題と学習理論をふまえ、求められている学習方法を説明できる | ○ | ◎ | ○ | | | | |
| | | | 2. | | | | | | | |
| | | | 3. | | | | | | | |
| | 体育科教育法 | ② | 1. 学習指導要領に示された運動領域について理解する | | ○ | | | | | |
| | | | 2. 発達段階に合わせ、各運動領域の指導内容を理解する | ○ | ○ | ○ | | | | |
| | | | 3. 各運動領域の指導方法や必要とされるや態度を身に付ける | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | 外国語活動に関する指導法 | ② | 1. 学習指導要領に沿った外国語活動の目的・実情の理解 | ○ | | ◎ | | | | |
| | | | 2. 外国語活動の指導に必要な知識・技能の修得 | | ◎ | | ○ | | | |
| | | | 3. グループでの模擬授業に取り組む | | ○ | | | ◎ | | |
| | 外国語活動に関する指導法 | ② | 1. 必要な英語表現を模擬授業で用いることができる | | ◎ | | | ○ | | |
| | | | 2. 必要なゲーム等を模擬授業で実践できる | | ◎ | | | ○ | | |
| | | | 3. | | | | | | | |
| | 道德教育の研究 | ③ | 1. 道德教育の意味と意義を理解する | ○ | ○ | ◎ | ○ | | | ○ |
| | | | 2. 日本の道德教育の歴史と特性を知る | | ○ | ○ | ○ | | | |
| | | | 3. 学習指導要領に沿って「道德の時間」の授業を構成できる | ○ | ○ | ○ | | | ○ | |
| | 特別活動の研究 | ③ | 1. 特別活動の目的 | | ○ | ◎ | | | | |
| | | | 2. 特別活動の内容 | ○ | ◎ | | | | | |
| | | | 3. 指導上の留意事項 | ◎ | ○ | | | | | |
| | 教育課程・保育課程 | ② | 1. 教育・保育課程の編成の意義や目的について理解する | | ◎ | ○ | | | | |
| | | 2. 指導計画の編成方法や内容について理解する | | ○ | ○ | | | | | |
| | | 3. 教育・保育課程の今日的課題を知り、理解を深める | ○ | | | | | ○ | | |
| 保育内容総論 | ① | 1. 養護及び領域のねらいと内容を理解する | ○ | ○ | | | | | | |
| | | 2. 適切な指導・援助のあり方を理解する | ○ | ◎ | | | | | | |
| | | 3. 保育計画を立案することができる | ○ | ○ | | | | | | |
| 保育指導法の研究 | ③ | 1. 幼児の視点で考えることができる | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | |
| | | 2. 保育を理論的に裏付けができる | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | | 3. 望ましい保育を具体的な実践例で考えることができる | ○ | ◎ | ○ | | | | | |
| 保育内容(健康) | ③ | 1. 身体、体力の発育発達について理解する | ○ | ○ | ◎ | ○ | | | ○ | |
| | | 2. 健康管理の基本を学ぶ | ○ | ◎ | ○ | ○ | | | ○ | |
| | | 3. 遊具の安全管理に関して学ぶ | ○ | ○ | | ◎ | | | ○ | |
| 保育内容(環境) | ② | 1. 幼児を取り巻く環境について理解する | ○ | ◎ | | | | ○ | | |
| | | 2. 幼児の遊びを膨らませる環境について理論と実践を考える | | ○ | ○ | | | | ○ | |
| | | 3. | | | | | | | | |
| 保育内容(人間関係) | ② | 1. ねらいと内容の構造と目的を理解する | ○ | ○ | | | | | | |
| | | 2. 「内容」の達成にについて、適切な指導援助がわかる | ○ | ◎ | | | | | | |
| | | 3. 社会性の発達における仲間関係の形成の重要性が理解できる | ○ | ○ | | | | | | |
| 保育内容(言葉) | ② | 1. ことばについて学ぶ | ○ | ◎ | | | | | | |
| | | 2. 言語発達の姿と言語発達の理論を理解する | ○ | ◎ | ○ | | | | | |
| | | 3. 保育実技(お話し、指遊びほか)を発表し習得する | ○ | ◎ | ○ | | | ○ | | |
| 保育内容(表現I) | ② | 1 保育所保育指針を理解し、幼児期から児童期の造形表現活動の教育的意義、発達過程について理解する | ○ | | | | | | | |
| | | 2 主に描く活動を通して、表現の豊かさや現場で必要な基礎的表現技能を習得する | | ◎ | | | | | | |
| | | 3 授業を通して幼児期から児童期の子供の発達に沿った支援の在り方を考察する | ○ | | | | | | | |

平成27年度入学生 カリキュラム・マップ

| | |
|----------|--|
| 児童教育学科DP | ①子どもに対する共感・受容や人権への配慮など、愛情をもって子どもにかかわるために必要な力を備える。(子どもにかかわる力) ②小学校教育・幼児教育・保育に必要な専門的な知識と技能を習得するとともに、それらを活用・実践し問題を解決する力を身に付ける。(専門的な知識・技能) ③将来にわたって子どもや社会及び教育・保育現場の実態を踏まえながら理想の教育・保育を目指し、そのために探究し続け向上しようとする態度を養う。(探究・向上心) ④確固とした倫理観・責任感をもって職務に当たり、教育・保育を通じて社会に貢献しようとする意識を高める。(社会貢献) ⑤協働的な活動をととして、思考力・判断力・表現力やコミュニケーション能力・人間関係調整能力を高める。(協働性) ⑥心身ともに健康で、教育者・保育者かつ社会人としてふさわしい人格を形成する。(専門的職業人及び社会人としての人格形成) |
|----------|--|

| 科目名 | 最も関係の深いDP番号 | 到達目標 | DPとの関係 | | | | | | |
|-----------------|-------------|---|--|---|---|---|---|---|---|
| | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | |
| 専門科目(教職に関する科目等) | 保育内容(表現Ⅱ) | ② | 1. 身体表現の基礎理論を身につける | | ○ | | | | |
| | | | 2. 様々な身体表現場面においてオリジナル保育案の作成ができる | ○ | ○ | ○ | | | |
| | | | 3. 作成した保育案を基に模擬保育をすることで実践力を養う | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 保育内容(表現Ⅲ) | ② | 1. 様々な音楽表現ができるようになる | | ◎ | ○ | | ○ | |
| | | | 2. 幼児音楽教育の理論を理解する | | ◎ | ○ | | | |
| | | | 3. | | | | | | |
| | 社会福祉 | ④ | 1. 誰にとつての社会福祉なのかを理解する | | | | ◎ | | ○ |
| | | | 2. 社会福祉の歴史的背景と関連法について理解する | | | ◎ | ○ | | |
| | | | 3. ウェルビーイングについて理解する | | | | ○ | | ◎ |
| | 幼稚園教育実習Ⅰ指導 | ② | 1. 教育現場の実情を理解する | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | | | 2. 幼児の理解 | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | | | 3. 幼児との積極的関わり | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ◎ |
| | 幼稚園教育実習Ⅰ | ⑤ | 1. 教育実習先:本学附属のかもめ、なでしこ、すみれの各幼稚園における10日間の実習 | | | | ○ | ○ | ○ |
| | | | 2. 実習内容:幼稚園教諭として必要な資質を養成するために観察実習、参加実習、担当保育実習を行う | ○ | ◎ | ○ | | ○ | |
| | | | 3. 班で協力して観察・参加・担当保育実習を円滑に行う | | | | | ○ | |
| 小学校教育実習指導 | ⑥ | 1. 小学校教育実習の意義を理解し、実習に臨む意欲をもつ | ○ | | | | | ◎ | |
| | | 2. 実習に必要な観察力や技能を習得する | | ○ | | | | | |
| | | 3. 実習を振り返り今後に活かそうとする意識をもつ | | | ○ | | | | |
| 小学校教育実習 | ⑥ | 1. 小学校教師の責任ややりがいを実感できる | | | ○ | ○ | | ◎ | |
| | | 2. 教師の職務に必要な知識や技能を習得する | | ○ | | | | | |
| | | 3. 児童と接する中で子ども観を構築できる | ○ | | | | | | |
| 幼稚園教育実習Ⅱ指導 | ⑤ | 1. 教育の専門家としての資質 | ○ | ○ | | | ◎ | ◎ | |
| | | 2. 子どもとの関わり方・子ども理解 | ○ | | ○ | | | | |
| | | 3. 実習記録・指導計画案 | | ○ | ○ | | | | |
| 幼稚園教育実習Ⅱ | ⑤ | 1. 子ども理解 | ○ | ○ | | | ◎ | ◎ | |
| | | 2. 保育技術・保育観の形成 | ○ | | ○ | | | | |
| | | 3. 実習記録・指導計画案 | | ○ | ○ | | | | |
| 保育・教職実践演習 | ⑥ | 1. 講義・討論等をととして子ども理解や保育理解を深化する | ○ | ○ | | | ○ | | |
| | | 2. 模擬保育等をととして保育職としての実践力を高める | | ○ | | | ○ | | |
| | | 3. 自分なりの保育者観・保育観を確立できる | | | ○ | ○ | | ◎ | |
| 教職実践演習(幼・小) | ⑥ | 1. 講義等を通して子ども理解や授業・保育理解を深化する | ○ | ○ | | | | | |
| | | 2. 討論や製作等の協同的活動をととして互いの教育観を理解できる | | | ○ | | ○ | | |
| | | 3. 実地見学等をととして、自分なりの教師観・教育観を確立できる | | | ○ | ○ | | ◎ | |
| 造形表現Ⅰ | ② | 1. 「つくる」活動の専門的な知識や技能、ねらいを習得する | | ○ | ○ | | | | |
| | | 2. 多様な「つくる」活動を通して、創造的な感性を養う | | ○ | ○ | | | | |
| | | 3. 「つくる」活動に関して、専門的な指導や援助のあり方を理解する | ○ | ○ | | | | | |
| 造形表現Ⅱ | ② | 1 制作を通し、表現の喜びや意義を体感すると共により専門的な知識技能を習得する | | ◎ | | | | | |
| | | 2 講義や教材研究を通して子どもの発達に沿った支援の在り方を考察する | ○ | | | | | | |
| 環境教育演習 | ② | 1. 環境教育の実践ができる専門的な知識や技能を習得できる | | ◎ | | | | | |
| | | 2. 地域の環境を教材化する意識を高める | | | ○ | | | | |
| | | 3. 環境教育や環境保護に従事する人々の意識を学びとる | | | | ○ | | ○ | |

平成27年度入学生 カリキュラム・マップ

| | |
|----------|--|
| 児童教育学科DP | ①子どもに対する共感・受容や人権への配慮など、愛情をもって子どもにかかわるために必要な力を備える。(子どもにかかわる力) ②小学校教育・幼児教育・保育に必要な専門的な知識と技能を習得するとともに、それらを活用・実践し問題を解決する力を身に付ける。(専門的な知識・技能) ③将来にわたって子どもや社会及び教育・保育現場の実態を踏まえながら理想の教育・保育を目指し、そのために探究し続け向上しようとする態度を養う。(探究・向上心) ④確固とした倫理観・責任感をもって職務に当たり、教育・保育を通じて社会に貢献しようとする意識を高める。(社会貢献) ⑤協働的な活動をととして、思考力・判断力・表現力やコミュニケーション能力・人間関係調整能力を高める。(協働性) ⑥心身ともに健康で、教育者・保育者かつ社会人としてふさわしい人格を形成する。(専門的職業人及び社会人としての人格形成) |
|----------|--|

| 科目名 | 最も関係の深いDP番号 | 到達目標 | DPとの関係 | | | | | | | |
|---------------------|-----------------------------------|---------------------------------|------------------------------|---|---|---|---|---|--|--|
| | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | | |
| 専門科目 (教職に関する科目等) | 言葉の研究 | ② | 1. 保育内容(言葉)について学びを深める | | ◎ | | | | | |
| | | 2. 教材や媒体を研究し、子どもが楽しく遊べる工夫を考える | ○ | ◎ | ○ | | | | | |
| | | 3. 個人やグループでの発表を通して多様な視点に気づく | | | ◎ | | ○ | ○ | | |
| | 子どものための哲学 | ③ | 1. 子どもについて考えるための多角的な視点を身に付ける | ○ | | ○ | | | | |
| | | 2. 保育・教育について考えるための多角的な視点を身に付ける | ○ | | ◎ | ○ | | | | |
| | | 3. 自分の考えを表現でき、他者の考えを傾聴できる | | | | | ○ | ○ | | |
| | 保育研究法 | ③ | 1. 実践論文の作成形式がわかる | | ○ | ○ | | ○ | | |
| | | 2. 実践論文集に興味を持ち、自分から読む | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| | | 3. 実践研究の方法(問題提起からまとめまで)がわかる | | | ◎ | ○ | | ○ | | |
| | 相談援助 | ② | 1. ソーシャルワークの歴史から概念や理論を理解する | | ◎ | | ○ | | | |
| | | 2. 事例を通してソーシャルワークの援助技術を身に付ける | | ◎ | ○ | | | | | |
| | | 3. 相談援助における関係機関との連携について理解する | | | | ◎ | | ○ | | |
| 児童家庭福祉 | ⑥ | 1. 子どもの最善の利益について理解する | | | | ○ | | ◎ | | |
| | 2. 児童家庭福祉に関する歴史的背景と法律について理解する | | | | ◎ | | ○ | | | |
| | 3. 現代社会における家庭状況を理解する | | | ○ | ◎ | | | | | |
| 社会的養護 | ④ | 1. 社会的養護の歴史や現状について理解する | | | | ○ | | ◎ | | |
| | 2. 社会的養護の制度や体系について理解する | | | | ◎ | | ○ | | | |
| | 3. 社会的養護の基本的原理について理解する | | | | ◎ | | ○ | | | |
| 子どもの保健Ⅰ | ② | 1. 小児期の区分や子どもの発達について理解する | | ◎ | ○ | | | | | |
| | 2. 統計から見た健康に関する現状を知り、それに対する施策を学ぶ | | | ◎ | ○ | | | | | |
| | 3. 子どもが罹りやすい病気とその対応、事故と安全対策を学ぶ | | | ◎ | ○ | | | | | |
| 子どもの保健Ⅱ | ② | 1. 子どもの健康及び安全に係る保健活動のしくみを学ぶ | | ◎ | | | ○ | | | |
| | 2. 子どもの心身観察ポイントや処置、事故とその予防を学ぶ | | ○ | ◎ | ○ | | | | | |
| | 3. 実習に向けて、自身の健康管理や地域の資源の活用について学ぶ | | | | | ○ | ○ | ○ | | |
| 子どもの保健Ⅲ | ② | 1. 自然環境における健康上の問題点を知り、健康を維持増進する | | ◎ | | ○ | ○ | | | |
| | 2. 家庭や社会環境における課題の理解し、社会資源を活用できる | | | ◎ | | ○ | ○ | | | |
| | 3. 子どもの精神保健とその課題について理解する | | | ◎ | ○ | | | | | |
| 子どもの食と栄養 | ② | 1. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める | ○ | | | | | | | |
| | 2. 食育の基本・内容及び食育のための環境等を理解する | | | ○ | | | | | | |
| | 3. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題を学ぶ | | | ◎ | | | | | | |
| 家族支援論 | ③ | 1. 家庭の意義とその機能を理解する | | | ◎ | | | ○ | | |
| | 2. 社会と家族の変化を学び、子育て中の家庭の問題について理解する | | ○ | ◎ | ○ | | | | | |
| | 3. 子育て中の家庭への支援を学ぶ | | ○ | ○ | ◎ | ○ | | ○ | | |
| 乳児保育 | ② | 1. 乳児保育の現状と課題について理解する | | | ◎ | ○ | | | | |
| | 2. 3歳未満児に対する保育の内容や方法、計画や記録について学ぶ | | ○ | ◎ | ○ | | | | | |
| | 3. 家庭や地域、関係機関との連携について学ぶ | | | | | ○ | ○ | | | |
| 社会的養護内容 | ① | 1. 児童福祉施設の役割と支援方法について理解する | ○ | | | | | ◎ | | |
| | 2. 社会的養護の対象となる親子への支援を理解する | | ◎ | | | ○ | | | | |
| | 3. 社会的養護の関係機関との連携について理解する | | | ◎ | | | ○ | | | |
| 保育相談支援 | ① | 1. 保育相談支援の理論と基本技術を身に付ける | | ◎ | | ○ | | | | |
| | 2. 保護者支援の実際と関係機関との連携について理解する | | | ○ | | | ◎ | | | |
| | 3. 職員とのチームワークと関係機関との連携について理解する | | | ◎ | | | ○ | | | |

平成27年度入学生 カリキュラム・マップ

| | |
|----------|--|
| 児童教育学科DP | ①子どもに対する共感・受容や人権への配慮など、愛情をもって子どもにかかわるために必要な力を備える。(子どもにかかわる力) ②小学校教育・幼児教育・保育に必要な専門的な知識と技能を習得するとともに、それらを活用・実践し問題を解決する力を身に付ける。 (専門的な知識・技能) ③将来にわたって子どもや社会及び教育・保育現場の実態を踏まえながら理想の教育・保育を目指し、そのために探究し続け向上しようとする態度を養う。(探究・向上心) ④確固とした倫理観・責任感をもって職務に当たり、教育・保育を通じて社会に貢献しようとする意識を高める。(社会貢献) ⑤協働的な活動をととして、思考力・判断力・表現力やコミュニケーション能力・人間関係調整能力を高める。(協働性) ⑥心身ともに健康で、教育者・保育者かつ社会人としてふさわしい人格を形成する。(専門的職業人及び社会人としての人格形成) |
|----------|--|

| 科目名 | 最も関係の深いDP番号 | 到達目標 | DPとの関係 | | | | | | |
|--------------------------|-------------|----------------------------------|--------------------------------|---|---|---|---|---|---|
| | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | |
| 専門科目(保育士証に関する科目等) | 保育所実習Ⅰ指導 | ③ | 1. 子どもの人権や生活、保育士の仕事等を十分理解している | | ○ | | ○ | | ○ |
| | | | 2. 保育者としての責任感、使命感を有している | | | ○ | ○ | | ○ |
| | | | 3. 実習に必要な知識を有し、実習準備・学習が行えている | | ○ | ◎ | | ○ | |
| | 保育所実習Ⅰ | ① | 1. 保育所の機能・役割・生活や保育士の仕事を理解している | | ○ | | ○ | | |
| | | | 2. 乳幼児の発達や保育援助について、具体的に学習している | ◎ | ○ | ○ | | | |
| | | | 3. 担当保育等を通して、実践力を身に付ける | ○ | ○ | | | | ○ |
| | 施設実習指導Ⅰ | ② | 1. 児童福祉施設での保育士の職務内容と役割について理解する | ○ | ◎ | | | | |
| | | | 2. 具体的な支援技術と日誌等の記録方法を理解し身に付ける | | | ◎ | | ○ | |
| | | | 3. 職場内でのチームワークのとり方を理解する | | ○ | | | ◎ | |
| | 施設実習Ⅰ | ⑤ | 1. 実習先での現状を理解し、具体的な支援方法を身に付ける | ◎ | ○ | | | | |
| 2. 個別支援計画に基づいた支援について理解する | | | | | ○ | | | ◎ | |
| 3. 職場内でのチームワークのとり方を体験する | | | | ○ | | | ◎ | | |
| 保育所実習Ⅱ指導 | ② | 1. 既習の教科や保育所実習Ⅰの経験を踏まえ、保育実践力を培う | ○ | ◎ | ○ | | ○ | ○ | |
| | | 2. 実習の総括と自己評価を行い、自身の保育の課題を明らかにする | | ◎ | ○ | | ○ | ○ | |
| | | 3. | | | | | | | |
| 保育所実習Ⅱ | ⑤ | 1. 保育課程に基づく指導計画の一部を実践し、評価する | ○ | ○ | ○ | | | | |
| | | 2. 入所児の保護者支援や地域の子育て家庭への支援を学ぶ | | | | ○ | ◎ | ○ | |
| | | 3. 実習を通して、保育士としての自己の課題を明確にする | | ○ | ○ | | ◎ | ○ | |
| 施設実習指導Ⅱ | ② | 1. 実習Ⅰでの経験を生かし、より専門的な支援内容を理解する | ○ | ◎ | | | | | |
| | | 2. 個別支援計画に基づいた支援の必要性和具体的な方法を理解する | | ◎ | ○ | | | | |
| | | 3. 地域や関係機関との連携について理解する | | | | ○ | ◎ | | |
| 施設実習Ⅱ | ② | 1. 実習Ⅰでの経験を生かし、より具体的な支援方法を身に付ける | | ◎ | | | | ○ | |
| | | 2. 個別支援計画の作成を経験し、利用者の特徴を理解する | | ◎ | ○ | | | | |
| | | 3. 職場内でのチームワークのとり方を体得する | | | | | ◎ | ○ | |
| 読書と豊かな人間性 | ② | 1. 読書の必要性和楽しさを実感し、他者にもすすめられる | ◎ | ○ | | | | ○ | |
| | | 2. 図書館のあり方と活用方法を知って利用できる | | ◎ | ○ | | | ○ | |
| | | 3. 本の「10分紹介」やブックトークができる | ○ | ◎ | | | ○ | | |
| 情報メディアの活用 | ② | 1. 情報とは何か、その概念を述べるようになる | | ○ | ○ | | | | |
| | | 2. 情報メディアの歴史を語れるようになる | | | ○ | ○ | | | |
| | | 3. 情報メディアの活用について考えることができるようになる | | ◎ | | ○ | ○ | | |

| | 1 年前期 | | 1 年後期 | | 2 年前期 | | 2 年後期 | |
|---|-----------------------------------|---|--|---|--------------------------------------|------------------|------------------|------------------|
| | カリキュラムポリシーに基づく科目 | カリキュラムポリシーに基づく科目 | カリキュラムポリシーに基づく科目 | カリキュラムポリシーに基づく科目 | カリキュラムポリシーに基づく科目 | カリキュラムポリシーに基づく科目 | カリキュラムポリシーに基づく科目 | カリキュラムポリシーに基づく科目 |
| (1) 子どもに対する共感・受容や人権への配慮など、愛情をもって子どもにかかわるために必要な力を備える。(子どもにかかわる力) | 保育原理 保育内容総論 教育心理学 発達心理学Ⅰ | 教育原理 発達心理学Ⅱ | 教育相談 家族関係論 子どもと人権 社会的養護 | カウンセリング入門 | | | | |
| (2) 小学校教育・幼児教育・保育に必要な専門的な知識と技能を習得するとともに、それらを活用・実践し問題を解決する力を身に付ける。(専門的な知識・技能) | 音楽Ⅰ 器楽Ⅰ 図画工作Ⅰ 体育Ⅰ | 音楽Ⅱ 図画工作Ⅱ 体育Ⅱ | 国語Ⅰ 算数Ⅰ 生活Ⅰ 音楽Ⅲ | 国語Ⅱ 算数Ⅱ 生活Ⅱ 社会 理科 家庭 | | | | |
| (3) 将来にわたって子どもや社会及び教育・保育現場の実態を踏まえながら理想の教育・保育を目指し、そのために探究し続け向上しようとする態度を養う。(探究・向上心) | 教職概論 教育課程・保育課程 社会福祉 | 情報機器演習 障害児の教育・保育 体育科教育法 保育内容(環境) 保育内容(表現Ⅰ)Ⅰ | 理科教育法 音楽科教育法 図画工作科教育法 外国語活動に関する指導法 保育内容(表現Ⅱ)Ⅱ 造形表現Ⅰ 子どもの保健Ⅲ 子どもの食と栄養 社会的養護内容 | 生活科教育法 家庭科教育法 保育内容(表現Ⅱ)Ⅰ 保育内容(表現Ⅲ) 保育内容(人間関係) 環境教育演習 造形表現Ⅱ 言葉の研究 | 学習指導と学校図書館 読書と豊かな人間性 情報メディアの活用 | | | |
| | 生徒指導・進路指導 教育方法の研究 | 保育臨床Ⅱ 道徳教育の研究 特別活動の研究 | 保育臨床Ⅰ 保育指導法の研究 保育研究法 子どものための哲学 | | | | | |

| | | | | |
|---|-----------------|---|--|--|
| <p>(4) 確固とした倫理観・責任感をもって職務に当たり、教育・保育を通じて社会に貢献しようとする意識を高める。(社会貢献)</p> | <p>教育制度論 J1</p> | <p>保育者論</p> <p>児童家庭福祉</p> | <p>教師と法</p> | <p>教育制度論 J2</p> <p>家族支援論 相談援助 保育相談支援</p> |
| <p>(5) 協働的な活動とおおして、思考力・判断力・表現力やコミュニケーション能力・人間関係調整能力を高める。(協働性)</p> <p>(6) 心身ともに健康で、教育者・保育者かつ社会人としてふさわしい人格を形成する。(専門的職業人及び社会人としての人格形成)</p> | | <p>幼稚園教育実習 I 指導 幼稚園教育実習 I</p> <p>保育所実習 I 指導 保育所実習 I</p> | <p>小学校教育実習指導 小学校教育実習 幼稚園教育実習 II 指導 幼稚園教育実習 II</p> <p>保育所実習 II 指導 施設実習 I 指導 施設実習 II 指導</p> <p>保育所実習 II 施設実習 I 施設実習 II</p> | <p>保育・教職実践演習 教職実践演習 (幼・小)</p> |

※表中で、同一名称科目がコースによって開講学期が異なる場合、J1は小・幼・保コース、J2は幼・保コース対象であることを示す。

「修得単位記入表」

| 平成27年度入学 児童教育学科 小児保健コース | 一般教養科目 | | | | | | | | | | 外国語（I・II） | | | | | | | | | | 専門科目（教科に関する科目） | | | | | | | | | | 専門科目（教職に関する科目） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------------|--------|---|---|---|---|---|-----|-----|-----|-------|-----------|------|------|------|--------|-----|--------|-----|-----|----|----------------|----------|-------|------|------|-----------|--------|-----|-----|-----|----------------|----------|------|------|------|--------|-----|--------|-----|-----|----|-----|----------|-------|------|------|-----------|--------|-----|-----|-----|-------|-------|--------|---------|-----------|--------|-------|------|
| | W | E | L | O | V | E | 児童期 | 幼児期 | 単位数 | 人間と環境 | 分子からみた生物 | 理科基礎 | 数学基礎 | 簿外事情 | インタビュー | 歴史学 | 国際化と経済 | 社会学 | 心理学 | 文学 | 倫理学 | 日本語表現の基礎 | 日本国憲法 | 体育実技 | 体育講義 | キャリアガイダンス | WELOVE | 児童期 | 幼児期 | 単位数 | 人間と環境 | 分子からみた生物 | 理科基礎 | 数学基礎 | 簿外事情 | インタビュー | 歴史学 | 国際化と経済 | 社会学 | 心理学 | 文学 | 倫理学 | 日本語表現の基礎 | 日本国憲法 | 体育実技 | 体育講義 | キャリアガイダンス | WELOVE | 児童期 | 幼児期 | 単位数 | 教育心理学 | 教育心理学 | 発達心理学I | 発達心理学II | カウンセリング入門 | 子どもと人権 | 家族関係論 | 教師と法 |
| 氏名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (学籍番号1511) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 自分の取得した単位数を記入→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 卒業に必要な最低必修単位数 | 82 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 小学校教員免許申請に必要な最低必修単位数 | 80 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 幼稚園教員免許申請に必要な最低必修単位数 | 67 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 保育士取得に必要な最低必修単位数 | 83 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 可修教職資格取得に必要な最低必修単位数 | JH+10 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ピアヘルパー必修科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

★より2単位以上修得する事

| 授業科目 | 専門科目（教職に関する科目等） | | | | | | | | | | 専門科目（保育士証に関する科目） | | | | | | | | | | 資格取得関連科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------------|------------------|----|-----|-------|----------|-----------|----------|---------|-------|------|------------------|-------|-----------|-------|--------|--------|-------|-----------|-------------|-----------|-------------|----------|------------|---------|-----------|-------------|------------|-----------|----------|------------|----------|----------|----------|-----------|---------|---------|--------------|--------|--------|----------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|------------|-----------|-----------|------------|
| | 講義 | 実習 | 単位数 | 児童支援論 | 子どもの食と栄養 | 子どもの保健III | 子どもの保健II | 子どもの保健I | 社会的養護 | 児童虐待 | 相談援助 | 児童研究法 | 子どものための哲学 | 言葉の研究 | 造形教育演習 | 造形表現II | 造形表現I | 保育・教職実践演習 | 教職実践演習(幼・小) | 幼稚園教育実習II | 幼稚園教育実習II指導 | 幼稚園教育実習I | 幼稚園教育実習I指導 | 小学校教育実習 | 小学校教育実習指導 | 保育内容(表現III) | 保育内容(表現II) | 保育内容(表現I) | 保育内容(言葉) | 保育内容(人間関係) | 保育内容(環境) | 保育内容(健康) | 保育指導法の研究 | 教育課程・保育課程 | 特別活動の研究 | 道徳教育の研究 | 外国語活動に関する指導法 | 体育科教育法 | 家庭科教育法 | 図画工作科教育法 | 音楽科教育法 | 生活科教育法 | 理科教育法 | 算数科教育法 | 社会科教育法 | 国語科教育法 | 学校経営と学校図書館 | 情報メディアの活用 | 読書と豊かな人間性 | 学習指導と学校図書館 |
| 自分の取得した単位数を記入→ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 卒業に必要な最低必修単位数 | 29 (選択①+選択②+選択③) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 小学校教員免許申請に必要な最低必修単位数 | 12 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 幼稚園教員免許申請に必要な最低必修単位数 | 12 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 保育士証取得に必要な最低必修単位数 | 12 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 可修教職資格取得に必要な最低必修単位数 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ピアヘルパー必修科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

修得単位記入表

索引

| | |
|--|--|
| <p>【あ】 インターシップ …… 23 WE LOVE 鹿児島！ …… 34 英語演習Ⅰ …… 24・25 英語演習Ⅱ …… 30・31 音楽Ⅰ …… 41 音楽Ⅱ …… 51 音楽Ⅲ …… 62 音楽科教育法 …… 66</p> | <p>【さ】 数学基礎 …… 27 図画工作科教育法 …… 67 図画工作 …… 42 生徒指導・進路指導 …… 53 生活科教育法 …… 81 生活 …… 61・62 相談援助 …… 87 造形表現Ⅰ …… 72 造形表現Ⅱ …… 84</p> |
| <p>【か】 家庭 …… 79 家庭科教育法 …… 81 家族関係論 …… 64 家族支援論 …… 87 カウンセリング入門 …… 80 学習指導と学校図書館 …… 88 学校図書館メディアの構成 …… 78 学校経営と学校図書館 …… 65 外国語活動に関する指導法 …… 67・68 海外事情 …… 30 環境教育演習 …… 85 韓国語演習Ⅰ …… 27 韓国語演習Ⅱ …… 33 器楽Ⅰ …… 41 キャリアガイダンス …… 23・24 教育原理 …… 52 教育制度論 …… 45 教育相談 …… 63 教育方法の研究 …… 53 教育課程・保育課程 …… 69 教育心理学 …… 44 教職概論 …… 43 教職実践演習(幼・小) …… 84 教師と法 …… 65 子どもと人権 …… 64 子どもの保健Ⅰ …… 50 子どもの保健Ⅱ …… 58 子どもの保健Ⅲ …… 73 子どものための哲学 …… 86 子どもの食と栄養 …… 74 国語科教育法 …… 46 国語(書写を含む) …… 60 国際化と経済 …… 22 言葉の研究 …… 85</p> | <p>【た】 体育Ⅰ …… 42・43 体育Ⅱ …… 51 体育科教育法 …… 56 体育講義 …… 33 体育実技 …… 34 中国語演習Ⅰ …… 26 中国語演習Ⅱ …… 32 ドイツ語演習Ⅰ …… 26 ドイツ語演習Ⅱ …… 32 道德教育の研究 …… 68 特別活動の研究 …… 69 読書と豊かな人間性 …… 89</p> |
| <p>【さ】 算数 …… 61 算数科教育法 …… 47 施設実習Ⅰ指導 …… 75 施設実習Ⅰ …… 75 施設実習Ⅱ指導 …… 77 施設実習Ⅱ …… 77 社会 …… 78 社会科教育法 …… 47 社会学 …… 21 社会福祉 …… 50 社会的養護内容 …… 74 社会的養護 …… 73 障害児の教育・保育 …… 54・55 小学校教育実習指導 …… 70 小学校教育実習 …… 71 生涯学習論 …… 80 情報機器演習 …… 54 情報メディアの活用 …… 89 児童家庭福祉 …… 58 心理学 …… 21</p> | <p>【な】 乳児保育 …… 59 人間と環境 …… 29 日本語表現の基礎 …… 19 日本国憲法 …… 29</p> |
| | <p>【は】 発達心理学Ⅰ …… 45・46 発達心理学Ⅱ …… 55 文学 …… 20 分子からみた生物 …… 28 保育・教職実践演習 …… 83 保育研究法 …… 86 保育原理 …… 44 保育相談支援 …… 88 保育者論 …… 52 保育指導法の研究 …… 82 保育内容総論 …… 48 保育内容(表現Ⅰ) …… 49 保育内容(表現Ⅱ) …… 70 保育内容(表現Ⅲ) …… 83 保育内容(人間関係) …… 82 保育内容(言葉) …… 49 保育内容(健康) …… 48 保育内容(環境) …… 56 保育所実習Ⅰ指導 …… 59 保育所実習Ⅰ …… 60 保育所実習Ⅱ指導 …… 76 保育所実習Ⅱ …… 76 保育臨床 …… 63</p> |
| | <p>【や】 幼稚園教育実習Ⅰ指導 …… 57 幼稚園教育実習Ⅰ …… 57 幼稚園教育実習Ⅱ指導 …… 71 幼稚園教育実習Ⅱ …… 72</p> |
| | <p>【ら】 理科 …… 79 理科基礎 …… 28 理科教育法 …… 66 倫理学 …… 19 歴史学 …… 22</p> |